大宰府条坊跡 38

－第263次調査－

平成20年
（2008）
太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡 38

－第263次調査－

平成２０年
（２００８）
太宰府市教育委員会

序

本書は、太宰府市朱雀三丁目の大宰府条坊跡におけるアパート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査地は大宰府政庁跡の南約１㎞に位置し、古代都市である大宰府条坊の中心付近に当たり、古代の条坊内の様子が解明されることが期待されていました。

今回の調査では弥生時代後期から平安時代前期の建物や道路と思われる遺構が確認され、条坊の形成過程を知る上で貴重な成果を得ることができました。

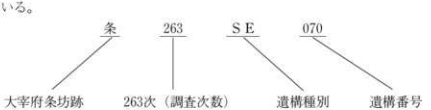
本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心から願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成20年10月
太宰府市教育委員会
教育長　　關　敏治

例　言

1．本書は、大宰府条坊跡第263次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査地点は太宰府市朱雀三丁目303番４に所在し、調査対象面積は179㎡、調査面積は187㎡（文化層２面調査延べ374㎡）である。調査は平成18年９月５日から同年11月18日にかけて実施した。
3．発掘調査は、太宰府市教育委員会の指導のもとに、(株)玉川文化財研究所（所長 戸田哲也）が行った。
4．遺構の実測図作成および写真撮影は、北平朗久・石川真紀・太田雅晃が行い、調査地点の空中写真は、(有) 空中写真企画が行った。
5．遺構実測の基準点は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。よって報告書に示す方位はすべて座標北（G.N.）を指している。なお、現地周辺の磁北は座標北から６°30′西偏する。
6．本書に掲載した遺構番号は、以下の要領で理解される。なお、本書中では遺構略称の「条」を基本的に省略している。



7．報告書作成業務は、(株)玉川文化財研究所において行った。
8．遺物の実測・拓本は、香川達郎・木村百合子・野木はる美・藤岡由紀子・中山　豊・唐原賢一が行い、遺物の写真撮影は赤間和重が行った。
9．本書の執筆は、太宰府市教育委員会および戸田哲也の指導のもとに北平朗久・香川達郎・石川真紀が担当し、分担は以下のとおりである。
　北平朗久　第Ⅱ～Ⅳ章
　香川達郎　第Ⅵ章（遺物）
　石川真紀　第Ⅰ章、第Ⅴ章、第Ⅵ章（遺構）、第Ⅶ章
10．写真図版（カラー）については付属のＣＤ－ＲＯＭに収容している。詳細はＣＤ－ＲＯＭ内のテキストデータ「はじめにお読みください」を参照のこと。
11．出土遺物および図面、写真等の記録類は太宰府市教育委員会が保管し、公開・活用していく予定である。
12．本報告書で用いた土器・陶磁器・瓦の分類基準は以下の文献に準拠した。
　太宰府市教育委員会　1983『大宰府条坊跡Ⅱ』
　太宰府市教育委員会　1992『宮ノ本遺跡Ⅱ－窯跡篇－』
　太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡XV』
　日本中世土器研究会編　1995『概説中世の土器・陶磁器』
　九州歴史資料館　2002「大宰府史跡出土軒瓦・叩打瓶文字瓦型式一覧」『大宰府政庁跡』吉川弘文館
13．本報告書で記載する時期区分については、下記の文献による。
　山本信夫　1992「大宰府」『第１回古代土器研究会資料』

目　次

Ⅰ．位置と環境 …… 1

Ⅱ．調査組織 …… 1

Ⅲ．調査経緯 …… 4

Ⅳ．調査方法 …… 4

Ⅴ．層　位 …… 14

Ⅵ．調査の概要 …… 17
1．遺　構 …… 17
1）溝（道路側溝） …… 17
2）溝（その他の溝） …… 20
3）掘立柱建物 …… 26
4）柵　列 …… 28
5）井　戸 …… 32
6）土　坑 …… 34
7）その他の遺構 …… 36
a）たまり状遺構 …… 36
b）小　穴 …… 38
2．遺　物 …… 39
1）溝（道路側溝）出土遺物 …… 39
2）溝（その他の溝）出土遺物 …… 41
3）掘立柱建物出土遺物 …… 43
4）柵列出土遺物 …… 43
5）井戸出土遺物 …… 44
6）土坑出土遺物 …… 48
7）その他の遺構出土遺物 …… 54
a）たまり状遺構出土遺物 …… 54
b）小穴出土遺物 …… 56
8）その他の層位出土遺物 …… 58

Ⅶ．小　結 …… 59

溝・柵列の主要遺構の座標・方位一覧 …… 64
遺構番号台帳 …… 65
出土遺物一覧表 …… 70

報告書抄録 …… 巻末

Ⅰ．位置と環境

太宰府市は福岡平野の南東に位置し、北部には四王寺山脈、北東部には愛獄山から宝満山へと連なる三群山地、東部には市域をほぼ南北方向に延びる高尾丘陵、西部には背振山系の前山となる牛頸低山地に囲まれた、狭長な二日市低地帯に立地し、南方は広大な筑後平野に接している。

太宰府市域には、先史時代より近現代までの遺構・遺物が確認されているが、その中心となるのは、地方最大の律令官衙である「大宰府」が置かれた古代から中世であり、７世紀までは主たる活動はみられない。官衙「大宰府」は、天智二（663）年の白村江の敗戦後に築かれた計画都市である。敗戦による国際的な緊張の高まりから、太宰府市域北部にある四王寺山には朝鮮式山城である大野城が築かれ、二日市低地帯を遮断する水城とともに博多湾からの侵略を防ぐ防衛線が張られた。また、背振山東端にも外郭防衛線である基肄城が築かれた。三方を山地に囲まれる自然地形と軍事防衛施設の要害配置から、「大宰府」は都市機能および政治中枢が堅守されていたことが窺い知れる。その後、７世紀末から８世紀初頭項には、古代西海道九国二島を統括し、計画地割を持つ古代都市として発展していく。

今回報告する大宰府条坊跡第263次調査は、筑紫野市との市境にあり、西鉄二日市駅の北西約400mのところに位置する。地形的には条坊内を東西に流れる御笠川と、南西から北東方向に流れる鷺田川に挟まれた低位段丘Ⅱ面に立地し、標高は現地表面で約33.0mを測る。調査区南側の隣接地では1995～1996年にかけて太宰府市教育委員会により大宰府条坊跡第168次調査が行われており、条坊に関連する道路側溝や掘立柱建物、柵列などが確認されている。今回の大宰府条坊跡第263次調査では、２面の遺構面が検出された。第Ⅰ面からは大宰府政庁期に帰属する遺構や遺物が確認され、第Ⅱ面からは弥生時代後期～古墳時代前期にかけての遺構や遺物が発見された。これらの遺構は比較的良好な遺存状態で検出され、大宰府の当該期を理解する上で貴重な資料が得られたことは、大きな成果であったと言えよう。

Ⅱ．調 査 組 織

太宰府市教育委員会調査組織

【調査年度】

（平成18／2006年度）

総括	教　育　長	關　　敏　治
庶務	教 育 部 長	松　永　栄　人
	文化財課長	齋　藤　廣　之
	保護活用係長	久保山　元　信
	調 査 係 長	永　尾　彰　朗
	主 任 主 査	齋　藤　実貴男
		吉　原　慎　一（７月１日～）
	事 務 主 査	大　石　敬　介（～６月30日）
調査	主 任 主 査	城　戸　康　利
		山　村　信　榮【委託監理担当】
		中　島　恒次郎
	技 術 主 査	井　上　信　正
	主 任 技 師	髙　橋　　学【試掘・事前協議担当】

		宮崎亮一
	技師（嘱託）	柳　智子
		下高大輔

【整理報告年度】

（平成19／2007年度）

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人（～９月30日）
		松田幸夫（10月１日～）
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信（～９月30日）
		菊武良一（10月１日～）
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	吉原慎一
		齋藤実貴男
調査	主任主査	城戸康利
		山村信榮【委託監理担当】
		中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	髙橋　学
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	柳　智子
		下高大輔
		大塚正樹
		端野晋平

（平成20／2008年度）

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松田幸夫
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	菊武良一
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	吉原慎一
		齋藤実貴男
調査	主任主査	城戸康利
		山村信榮【委託監理担当】
		中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	髙橋　学
		宮崎亮一

技師（嘱託）	柳　智子
	下高大輔
	大塚正樹

（株）玉川文化財研究所調査組織

（平成18／2006度）

所長	戸田哲也
調査研究部長	河合英夫
主任研究員	北平朗久【調査主担当】
	香川達郎
研究員	伊東甚吉
	石川真紀
	太田雅晃

（平成19／2007年度）

所長	戸田哲也
調査研究部長	河合英夫
主任研究員	北平朗久
	香川達郎
研究員	石川真紀
	太田雅晃

（平成20／2008年度）

所長	戸田哲也
調査研究部長	河合英夫
主任研究員	北平朗久
	香川達郎
研究員	石川真紀
	太田雅晃

Ⅲ. 調 査 経 緯

今次調査は、太宰府市朱雀三丁目303番４に計画された共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の記録保存調査である。平成18年度、上村建設株式会社から当該地における共同住宅建設に先立つ埋蔵文化財取り扱いの有無についての問合わせが、太宰府市教育委員会文化財課へなされた。当該地は、周知の遺跡である大宰府条坊跡内に所在し、周辺では第２図に示したように、太宰府市教育委員会によって複数次の発掘調査が行われ、実績が残されてきている。周辺の調査実績を考慮した場合、当該地においても埋蔵文化財が包蔵されている可能性が高いことから､開発に先立ち埋蔵文化財の取り扱いがある点を説明した。開発者である上村建設株式会社との協議を重ねた結果、共同住宅建設によって埋蔵文化財が破壊される範囲について、文化庁次長通知（平成10年９月29日付文書）に基づき、原因者による調査費の負担の要請を行ったところ、了承が得られたことから、上村建設株式会社からの受託事業として埋蔵文化財の発掘調査を実施することで契約を行った。しかし、本市教育委員会による直接的な調査の場合、約１年間の待機期間を要することから、外部調査機関への調査委託として実施することで調整を行った。

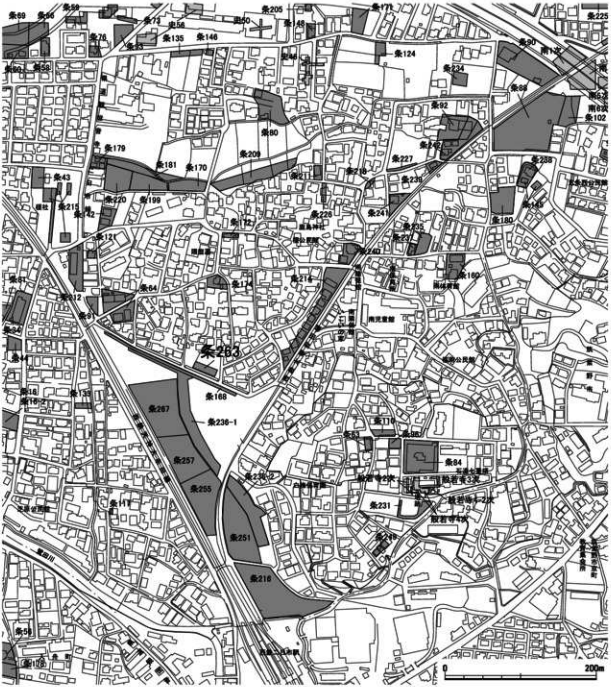
その結果、指名競争入札が行われ、(株)玉川文化財研究所への委託事業として契約が締結された。調査は、本市教育委員会が定める『太宰府市における埋蔵文化財調査指針（2001年９月改正)』に基づき行われた。調査期間は、平成18年９月５日から同年11月18日であり、開発対象面積は856㎡、調査面積は187㎡（文化層２面調査延べ374㎡）を測る。

Ⅳ. 調 査 方 法

調査地は住宅地に囲まれており、調査深度が深いことが予想されたことから安全対策としてガードフェンスの設置を行い、調査区壁面は崩落防止などの安全面を考慮してセットバックを充分にとり、調査区壁面は傾斜をつけて掘削している。調査における発生土は場内処理としたことから、調査は土置き場の関係上、調査区を二分割して南側から実施している。表土の除去には作業の効率化を図るため遺構確認面（地表下約1.8m）まで重機を用いた。重機での作業が終了した時点で、調査区内に３m方眼を基本とするグリッドの設定を行ったが、調査区がトレンチ状で幅が狭く、国土調査法第Ⅱ座標系に準ずる設定が困難なことから、市教育委員会の監理担当者と協議を行い、任意に調査区の長軸方向に南東から北西へは算用数字の０～11、長軸に直交する南西から北東へはアルファベットのA～Eとするグリッドの設定を行った。したがってグリッドの長軸は真北から67度西偏する。その後、遺構検出写真撮影と縮尺1/100の略測図を作成し、記載済みの遺構から順次、掘削作業を開始した。遺物は土層ごとに取り上げを行い、遺構の完掘後に写真撮影と縮尺1/20の遺構全体図を作成した。遺構の状況よって適宜縮尺1/20の個別図も作成し、10月７日には上空からの全体写真撮影を実施している。第Ⅰ面の調査が終了した10月16日に再び重機を搬入して整地層の掘削を開始した。第Ⅱ面の調査も第Ⅰ面と同様に略測図、個別図、遺構全体図の作成と写真撮影を行い、10月26日には上空からの全体写真撮影を実施し、その後、基盤層の砂層までの補足調査を行っている。補足調査が終了した翌日の10月28日には再び重機を搬入して、調査区南側の埋め戻しおよび調査区北側の表土の除去を行った。

調査区北側も南側と同様の手順で調査を実施し、第Ⅰ面の上空からの全体写真撮影を11月９日に実施している。第Ⅰ面の調査終了後に重機を用い整地層の除去を行い、第Ⅱ面の調査が終了した11月15日に全体写真撮影を実施し、調査が終了した11月17日から埋め戻し作業を開始し、翌日の重機および資材搬出をもって現地におけるすべての作業を完了している。

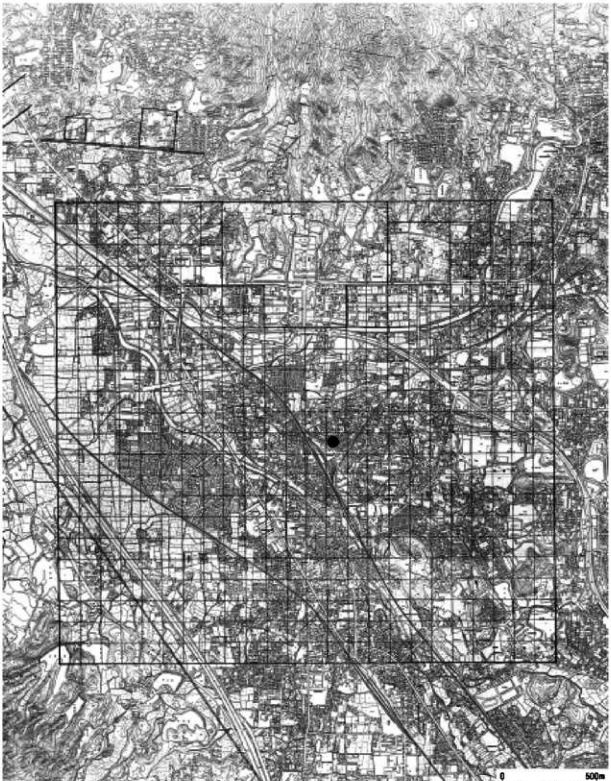
第１図　太宰府市とその周辺の遺跡（ 1/ 30 000）



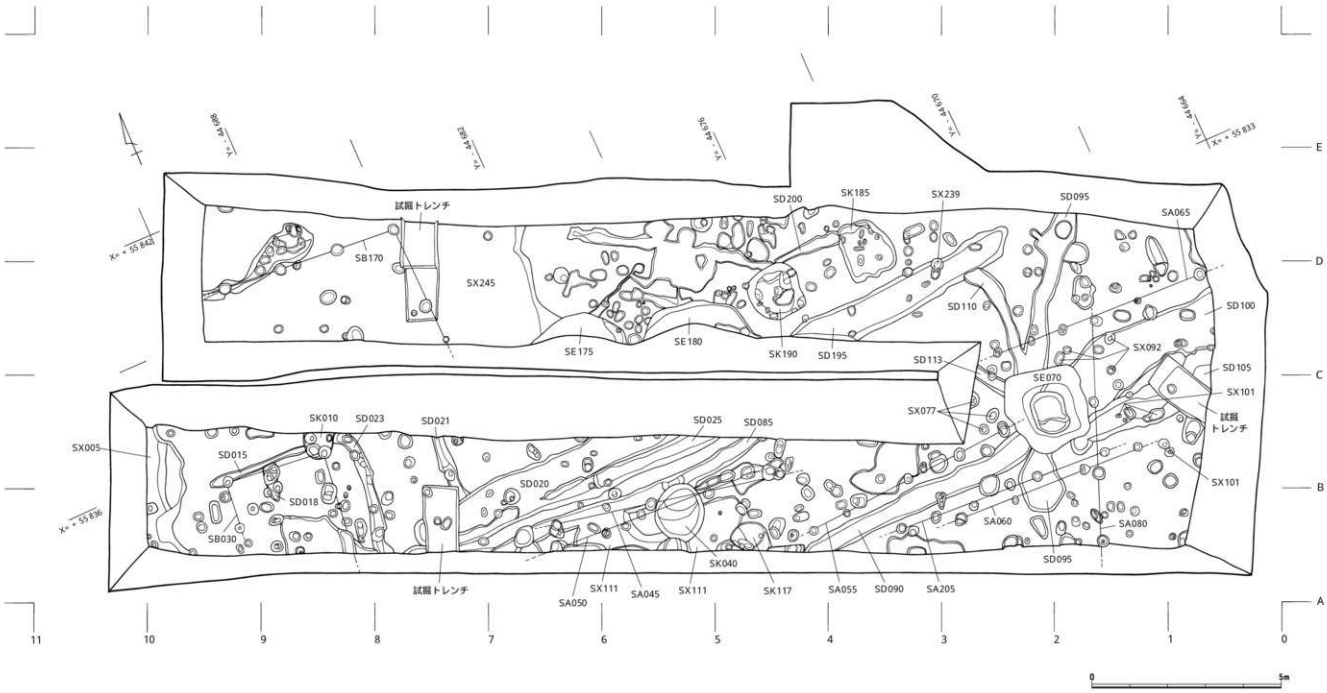
第２図　調査地と周辺調査地点（ 1/ 5 000 ）

周 辺 遺 跡 文 献

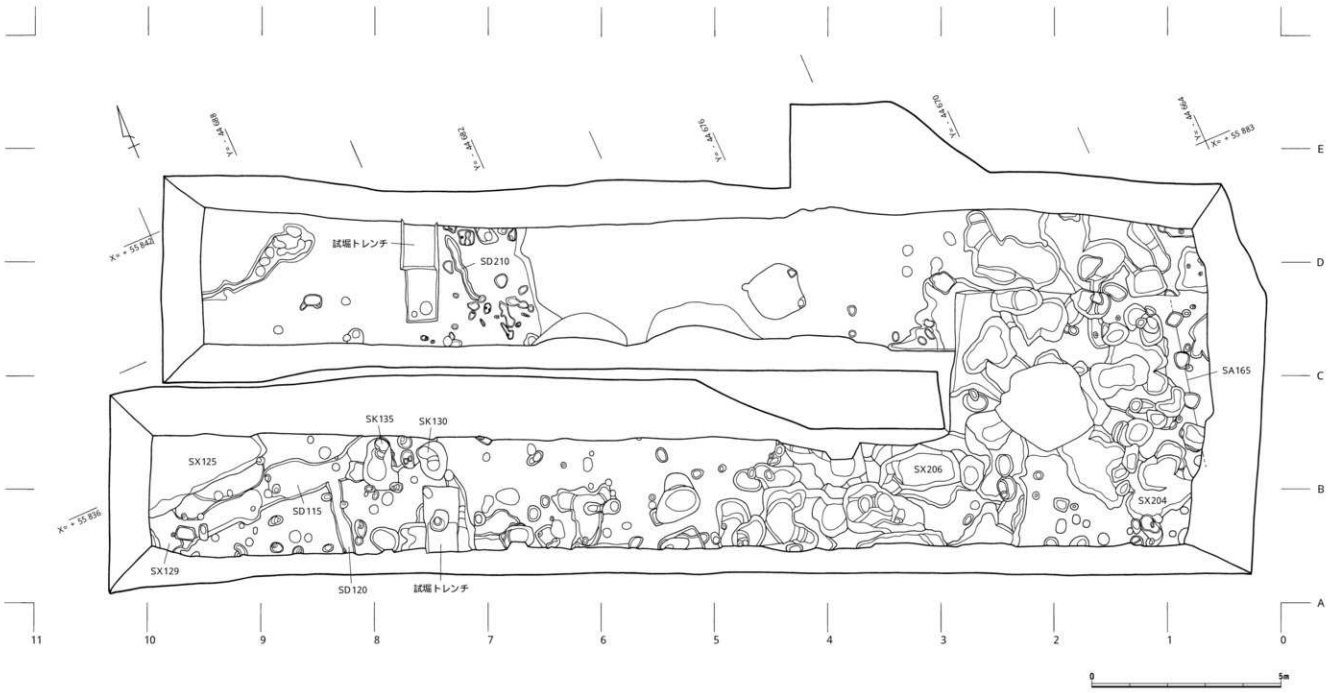
名 称	次 数	報 告 書 名
大宰府条坊跡	6	太宰府市教育委員会 1981 筑前国分尼寺跡・陣ノ尾遺跡・他、歴史時代遺跡調査概要 2 編 -
大宰府条坊跡	16	太宰府市教育委員会 1983 大宰府条坊跡 太宰府市の文化財第 7 集
大宰府条坊跡	16- 2	未報告
大宰府条坊跡	34	未報告
大宰府条坊跡	43	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	44	太宰府市教育委員会 1995 大宰府条坊跡 太宰府市の文化財第 28集
大宰府条坊跡	54	未報告
大宰府条坊跡	56	未報告
大宰府条坊跡	57	未報告
大宰府条坊跡	58	未報告
大宰府条坊跡	59	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	60	未報告
大宰府条坊跡	63	未報告
大宰府条坊跡	64	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	66	未報告
大宰府条坊跡	69	未報告
大宰府条坊跡	73	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	76	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	80	未報告
大宰府条坊跡	81	太宰府市教育委員会 1995 大宰府条坊跡 太宰府市の文化財第 28集
大宰府条坊跡	84	未報告
大宰府条坊跡	88	未報告
大宰府条坊跡	90	未報告
大宰府条坊跡	91	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	92	未報告
大宰府条坊跡	96	未報告
大宰府条坊跡	102	未報告
大宰府条坊跡	110	未報告
大宰府条坊跡	117	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	121	太宰府市教育委員会 1998 大宰府条坊跡 - 推定大宰府朱雀大路周辺の調査 - 太宰府市の文化財第 37集
大宰府条坊跡	124	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 24 太宰府市の文化財第 71集
大宰府条坊跡	133	太宰府市教育委員会 1995 大宰府条坊跡 - 第 133次調査 - 太宰府市の文化財第 29集
大宰府条坊跡	135	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 24 太宰府市の文化財第 71集
大宰府条坊跡	142	未報告
大宰府条坊跡	145	未報告
大宰府条坊跡	146	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 24 太宰府市の文化財第 71集
大宰府条坊跡	148	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 24 太宰府市の文化財第 71集
大宰府条坊跡	160	未報告
大宰府条坊跡	168	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 22 太宰府市の文化財第 69集
大宰府条坊跡	170	未報告
大宰府条坊跡	171	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 24 太宰府市の文化財第 71集
大宰府条坊跡	172	未報告
大宰府条坊跡	174	未報告
大宰府条坊跡	178	未報告
大宰府条坊跡	179	未報告
大宰府条坊跡	180	未報告
大宰府条坊跡	181	未報告
大宰府条坊跡	199	太宰府市教育委員会 2002 大宰府条坊跡 20- 第 199次調査 - 太宰府市の文化財第 60集
大宰府条坊跡	203	未報告
大宰府条坊跡	205	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 24 太宰府市の文化財第 71集
大宰府条坊跡	209	未報告
大宰府条坊跡	211	未報告
大宰府条坊跡	212	太宰府市教育委員会 2001 大宰府条坊跡 太宰府市の文化財第 57集
大宰府条坊跡	214	未報告
大宰府条坊跡	215	未報告
大宰府条坊跡	216	未報告
大宰府条坊跡	218	未報告
大宰府条坊跡	220	未報告
大宰府条坊跡	225	太宰府市教育委員会 2004 大宰府条坊跡 26- 第 225次調査 - 太宰府市の文化財第 76集
大宰府条坊跡	226	未報告
大宰府条坊跡	227	未報告
大宰府条坊跡	231	未報告
大宰府条坊跡	234	太宰府市教育委員会 2005 大宰府条坊跡 29- 第 234次調査 - 太宰府市の文化財第 83集
大宰府条坊跡	235	未報告
大宰府条坊跡	236	太宰府市教育委員会 2008 大宰府条坊跡 36- 県道観世音寺二日市線建設に伴う調査 - 太宰府市の文化財第 99集
大宰府条坊跡	237	未報告
大宰府条坊跡	238	未報告
大宰府条坊跡	239	太宰府市教育委員会 2005 大宰府条坊跡 28 太宰府市の文化財第 82集
大宰府条坊跡	240	太宰府市教育委員会 2005 大宰府条坊跡 28 太宰府市の文化財第 82集
大宰府条坊跡	241	太宰府市教育委員会 2005 大宰府条坊跡 28 太宰府市の文化財第 82集
大宰府条坊跡	242	未報告
大宰府条坊跡	249	太宰府市教育委員会 2007 大宰府条坊跡 33- 第 249次調査 - 太宰府市の文化財第 92集
大宰府条坊跡	251	未報告
大宰府条坊跡	255	未報告
大宰府条坊跡	257	未報告
大宰府条坊跡	267	未報告
大宰府史跡	46	九州歴史資料館 1978 大宰府史跡 - 昭和 52年度発掘調査概報
大宰府史跡	50	九州歴史資料館 1978 大宰府史跡 - 昭和 52年度発掘調査概報
大宰府史跡	56	九州歴史資料館 1979 大宰府史跡 - 昭和 53年度発掘調査概報
福岡南バイパス遺跡	1	福岡県教育委員会 1978 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第 8 集
福岡南バイパス遺跡	2	福岡県教育委員会 1978 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第 8 集
福岡南バイパス遺跡	3	福岡県教育委員会 1976 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第 3 集
福岡南バイパス遺跡	4	福岡県教育委員会 1976 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第 3 集
福岡南バイパス遺跡	5	福岡県教育委員会 1975 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第 2 集
福岡南バイパス遺跡	6	福岡県教育委員会 1977 福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第 6 集



第３図　大宰府条坊推定範囲図（ 1/ 20 000　鏡山・石松案　　調査地）



第４図　大宰府条坊跡第 263次調査第　面遺構全体図（ 1/ 100 ）



第５図　大宰府条坊跡第 263次調査第　面遺構全体図（ 1/ 100 ）

整理作業については、各遺構の層位ごとに取り上げた遺物を器種などの属性に応じて分類し、台帳に記録した。この内、貿易陶磁器については『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』に準拠して分類し、出土点数（破片数）も記録した。これらは「出土遺物一覧表」として本書に掲載している。上記作業を通じて、歴史的に重要と考えられる遺物は検証資料としたほか、実測遺物の抽出を行った。また土師器供膳具は必要に応じて実測している。

大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁器編年

出現 ▌増加 ┆減少　　2005 5補訂

紀年銘	AD	大宰府土器型式		磁器区分	大宰府土器型式　型式の上限 灰釉　焼投	灰釉　美濃	緑釉	標識磁器	準標識磁器
…					折戸O・10		長門？・鐵内	白磁　類 越州窯系青磁　　類 長沙窯系青磁・貿易 褐彩・褐釉	唐三彩・二彩 綠釉
	800			AB	井ヶ谷ⅠG・78 ・ 黒笹K・14		長門・法北・法西　・黒笹K・14		
	825		A						
			B						
	850			A	黒笹K・90	光ヶ丘 1	法西 黒笹K・90		青磁褐彩・褐釉 初期イスラム陶器
	900			AB		大原 2			
…	925 950				折戸O・53	虎溪山 1	近江		
	1000			I	東山H・72	丸石 2 明和 27		越州窯青磁　類 白磁加類	
	1050	XI		B	百代寺				
…	1100	XII	A		東山H・105			白磁椀　，　，　，　1ー3， ，XII，　類 皿　，　，　，　，　類	初期龍泉窯系・同安窯系青磁 0類 福州窯系青磁 初期高麗青磁　，　，類 青白磁
			B	C					白磁鉢　類，椀　類
	1150							龍泉窯系青磁椀　・1ー4，6 皿 1類 同安窯系青磁椀　ー　類，皿 類	白磁椀　，　・4，皿　類増加
	1200			D					白磁椀　，皿　・1類
				E				龍泉窯系青磁椀　・a，b類	白磁皿　・2類
…	1230			I				龍泉窯系青磁　類 白磁　類	
	1250								龍泉窯系青磁椀　・c類 白磁　類 黒釉陶器
…				F					
…	1300								
…	1330 1350			G				龍泉窯系青磁　類	白磁B，C類 安南鉄絵
…	1450								
…	1500								

文献

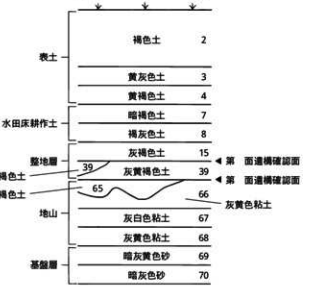
九州歴史資料館「大宰府史跡昭和 56年度発掘調査概報」1982
田辺昭三・吉川義彦「平安京跡発掘調査報告書左京四条一坊」1975 平安京調査会
九州歴史資料館「大宰府史跡昭和 49年度発掘調査概報」1975
九州歴史資料館「大宰府史跡昭和 63年度発掘調査概報」1989
九州歴史資料館「大宰府史跡昭和 53年度発掘調査概報」1978
長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第 1集」1989
福岡市教育委員会「井相田C遺跡　」福岡市埋蔵文化財調査報告書 179　1989
九州歴史資料館「大宰府史跡昭和 56年度発掘調査概報」1982
福岡市教育委員会「博多 4集　福岡市埋蔵文化財調査報告書 397　1995

紀年銘資料

AD .927　延長 5年，大宰府 76次 SD 205A 溝
AD .1091　寛治 5年，平安京左京 4条 1坊 SE 8井戸
AD .1224　貞応 3年，大宰府 33次 SD 605溝
AD .1304　嘉元 2年，大宰府 109，11次 SD 3200溝
AD .1330　元徳 2年，大宰府 40次 SX 1200池
AD .784　延暦 3年，長岡京 102次 AD 1020溝
AD .1459・1465　長禄 3・寛正 5年，福岡市井相田C　・SG16池
AD .1501　文亀元年，大宰府 70次 SD 180溝
AD .1265　文永 2年，博多 62次 71土壙

Ⅴ．層　　位

今次調査区の全域には、現代の盛土が1.6mほど確認され、細分すると上層より褐色土（２層）、黄灰色土（３層）、黄褐色土（４層）の順に堆積していた。その直下には水田であった頃の堆積土と思われる暗褐色土（７層）および褐灰色土（８層）がそれぞれ0.2m程の厚さで確認された。これらを除去すると整地層と考えられる灰黄褐色土（39層）が検出され、この面を第Ⅰ面と判断し、調査を進めた。調査区南壁の土層断面観察の結果、調査区西側の一部には、その上部に堆積する灰褐色土（15層）を切り込んで構築される遺構（溝263 SD035、柵列263 SA050a、小穴263 SX005・006・026）が存在することが判明したが、本書では、第Ⅰ面の遺構として扱っている。第Ⅰ面は、調査区の西側から東側に向かって緩やかに傾斜しており、標高は調査区西側で約31.15m、東側では約30.95mを測る。整地層は出土遺物の様相からおおむね８世紀初め頃に形成されたと考えられ、これらを剥ぐと第Ⅱ面の遺構確認面となる。第Ⅱ面は調査区の東側に部分的に確認される暗灰黄褐色土（65層）と調査区のほぼ全域に広がる灰黄色粘土（66層）で構成される地山層で、主に粘土採掘坑と考えられる遺構（263 SX203・204など）が検出され、標高は約31.10mを測る。さらに下には、灰白色粘土（67層）、灰黄色粘土（68層）が堆積し、標高約30.10m以下では基盤層と推定される暗灰黄色砂（69層）および暗灰色砂（70層）が確認されている。

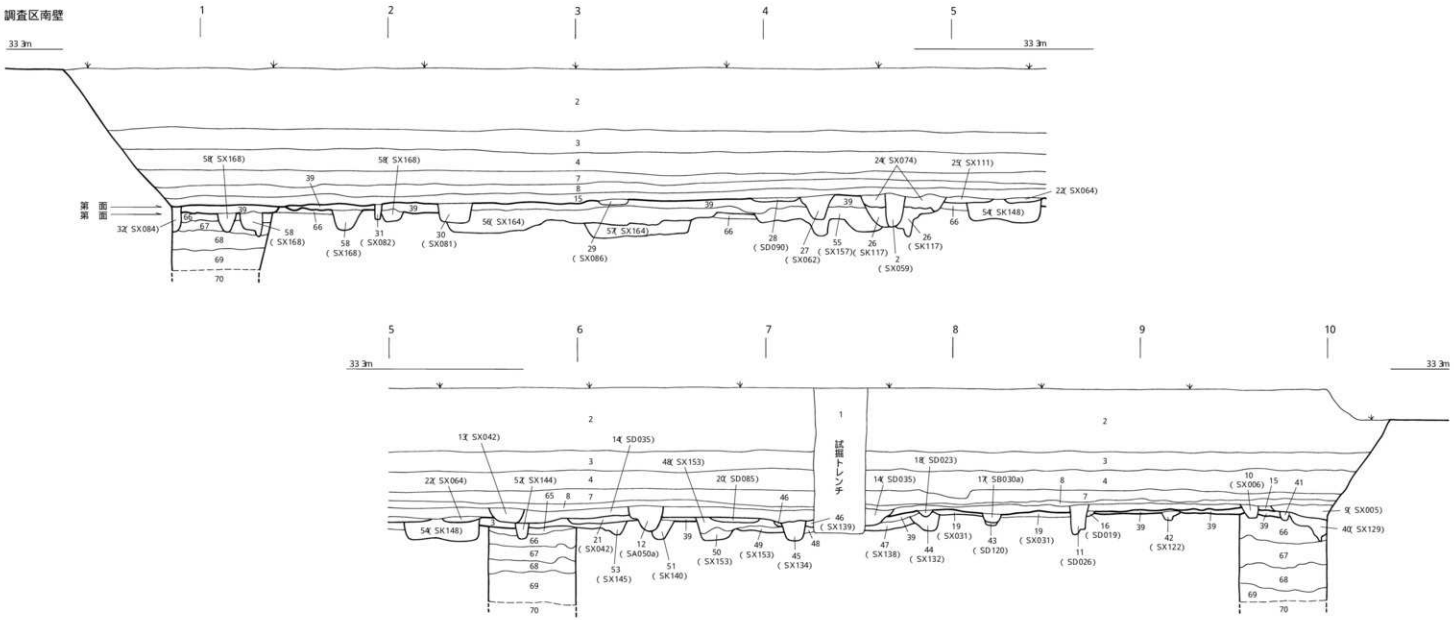


第６図　土層断面模式図

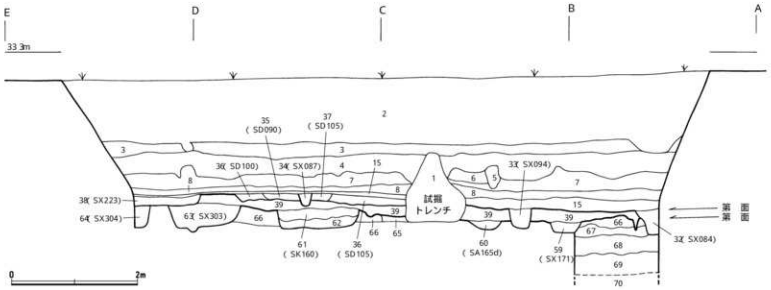
調査区南壁・東壁土層説明（第７図）

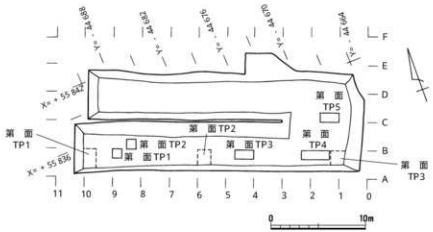
1層	試掘坑		
2層	褐色土	（表土層・盛土）	
3層	黄灰色土	（盛土）	
4層	黄褐色土		
5層	撹乱		
6層	撹乱		
7層	暗褐色土	（水田床）	
8層	褐灰色土	調査区東側にのみ堆積。粘土塊含む。水田床の一部か？	
9層	暗灰色土	茶褐色砂斑紋状に含む。（SX005）	
10層	暗灰色土	（SX006）	
11層	暗灰色土	（SX026）	
12層	暗灰色土	（SA050a）	
13層	暗灰色土	（SX042）	
14層	暗灰色土	（SD035）	
15層	灰褐色土	整地層の可能性が高い。	
16層	暗灰色土	（SD019）	
17層	暗灰褐色土	（SB030a）	
18層	暗灰褐色土	（SD023）	
19層	暗灰褐色土	（SX031）	
20層	黒灰褐色土	（SD085）	
21層	暗灰色土		
22層	暗灰色土	（SX064）	
23層	暗灰色土	（SX059）	
24層	暗灰色土	（SX074）	
25層	暗灰褐色土	（SX111）	
26層	暗灰色土	（SX117）	
27層	暗灰色土	（SX62）	
28層	暗灰色土	（SD090）	
29層	暗灰褐色土	（SX086）	
30層	暗灰色土	（SX081）	
31層	暗灰色土	（SX082）	
32層	暗灰褐色土	（SX084）	
33層	暗灰褐色土	（SX094）	
34層	暗灰褐色土	（SX087）	
35層	暗灰色土	（SD090）	
36層	暗灰褐色土	（SD100）	
37層	暗灰褐色土	（SD105）	
38層	灰褐色土	（SX223）	
39層	灰黄褐色土	整地層。調査区東側ではやや暗化（暗灰黄褐色土）。第Ⅰ面遺構確認面。	
40層	灰褐色土	（SX129）	
41層	灰褐色土	（SX129）	
42層	灰褐色土	（SX122）	
43層	灰黄褐色土	（SD120）	
44層	暗灰黄褐色土	（SX132）	
45層	暗灰褐色土	（SX134）	
46層	暗灰黄褐色土	（SX139）	
47層	灰黄褐色土	（SX138）	
48層	灰褐色土	（SX163）	
49層	灰褐色土	（SX163）	
50層	灰褐色土	（SX163）	
51層	灰色土	（SX014）	
52層	灰色土	（SX144）	
53層	暗灰色土	（SX145）	
54層	灰色土	（SX148）	
55層	暗灰褐色土	（SX157）	
56層	暗灰褐色土	（SX164）	
57層	暗灰褐色土	（SX164）	
58層	灰褐色土	（SX168）	
59層	灰褐色土	（SX171）	
60層	灰褐色土	（SA165d）	
61層	灰色土	（SX160）	
62層	灰色土	（SX160）	
63層	灰褐色土	（SX303）	
64層	灰褐色土	（SX304）	
65層	暗灰黄褐色	黄灰色粘土塊含む。第Ⅱ面遺構確認面。	
66層	灰黄色粘土	第Ⅱ面遺構確認面。	
67層	灰白色粘土		
68層	灰黄色土	細砂粒と粘質土の混土層。	
69層	暗灰黄色砂	細砂粒主体の。灰黄褐色粘土塊含む。	
70層	暗灰色砂	径５mm前後の円礫主体の に含む。	

調査区南壁



調査区東壁





調査区試掘調査位置図（ 1/ 400）

第７図　調査区南壁・東壁土層断面図（ 1/ 60）

Ⅵ. 調査の概要

1．遺　構

1）溝（道路側溝）

今次調査で検出された溝は、第Ⅰ面で16条、第Ⅱ面で３条を数える。その中で第Ⅰ面の７条の溝（263SD020・025・085・090・100・105・195）が大宰府条坊に関連する東西路の道路側溝にあたるものと推定された。東西路の両側側溝間で硬化面など路面に関する痕跡の確認を試みたが検出されず、後世の削平などの影響により失われたものと考えられる。覆土の観察や出土遺物の検討から対応関係が明確な溝は北側側溝（263SD025）と南側側溝（263SD090）で、側溝間の心々間の距離は約4.12mを測る。

263SD020（第８図、図版４）

調査区中央のやや西寄りで検出された東西溝で、Ｂ５～Ａ７区に位置する。溝（263SD025）および小穴（263SX043・044・046）を壊して構築されているが、西側の一部が試掘の影響により失われている。西側は途切れ、東側は調査区域外に展開するが、その延長線上には後述する溝（263SD195）が存在しており、本遺構と同一遺構である可能性が高い。規模は検出長6.08m、幅0.98～1.10m、深さは12～16cmを測る。底面には若干ではあるが凹凸が観察され、標高は東側で30.43m、西側で30.38mを測り、東から西に向かって若干傾斜している。中軸線上で主軸方位を求めるとＮ－89°－Ｅを指す。埋土は黒灰色土により構成されている。本遺構の埋没時期は、出土遺物の様相から、大宰府陶磁器編年（以降略）Ｃ期（11世紀後半～12世紀前半）以降と考えられる。

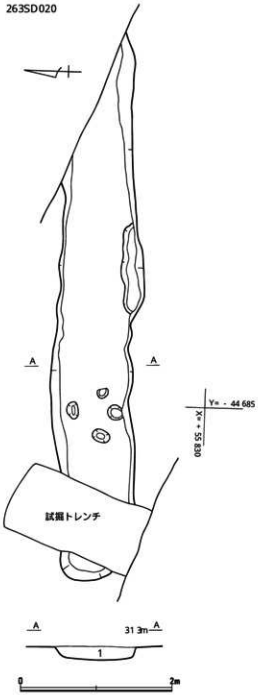
263SD025（第９図、図版４）

調査区中央のやや西寄りで検出された東西溝で、Ｂ５～Ａ７区に位置する。溝（263SD020）、小穴（263SX034・036・096）に北側を中心に壊されているため、遺存状態はあまり良好ではない。西側は消失し、東側は調査区域外に展開する。規模は検出長で6.90m、幅0.45～0.48m、深さは６～12cmを測る。底面は比較的平坦であるが、両端は一段深く掘り込まれており、標高は中央部で約30.95m、両端で約30.90mを測る。中軸線上で主軸方位を求めるとＮ－89°－Ｗを指す。埋土は暗灰色土により構成される。出土遺物の様相から最終埋没を判断すると、９世紀以降と考えられる。

263SD085（第９図、図版４）

調査区のほぼ中央に位置する東西溝で、Ａ・Ｂ４～７区にかけて検出された。たまり状遺構（263SX111・112）を壊して構築されているが、柵列（263SA045）、溝（263SD035）、土坑（263SK040）、小穴（263SX034・048・056・096）に切られている。西側は遺構間の重複により消失し、東側は調査区域外に延びている。規模は検出長7.24m、幅0.40～0.52m、深さは８～16cmを測る。本遺構はやや蛇行するものの、北側で検出された溝（263SD025）と並走し、主軸方位はＮ－89°－Ｅを指す。底面標高は東側で30.92m、西側で30.87mを測り、僅かではあるが東から西側に向かって傾斜している。埋土は黒灰褐色土により構成される。出土遺物の様相から最終埋没年代は大宰府Ⅹ期（10世紀末～11世紀初頭）以降と考えられる。

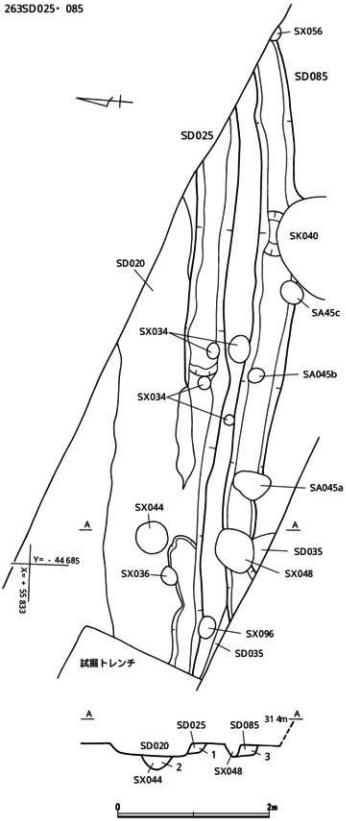
263SD020



SD020
1層　黒灰色土　炭化物および焼土粒子を微量、灰白色粘土を少量含む。

第８図　263SD020実測図（ 1/ 50 ）

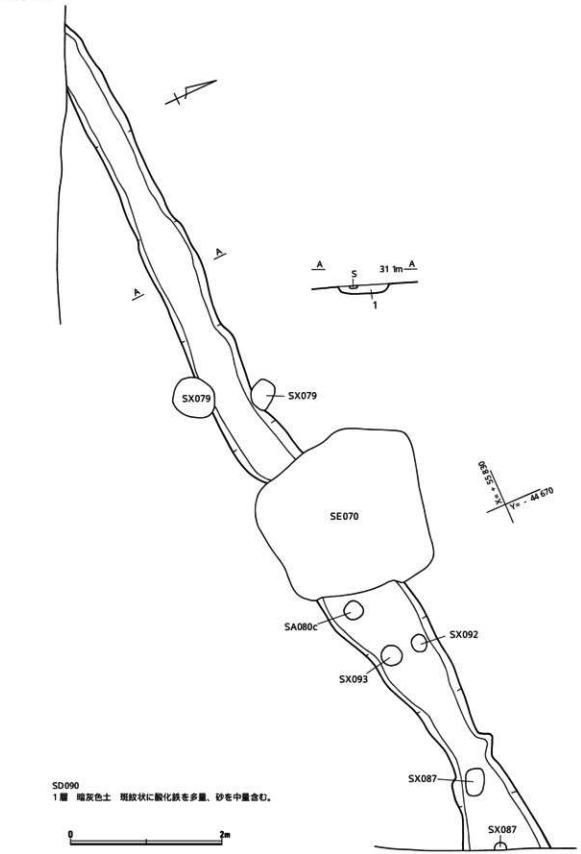
263SD025・085



SD025・085、SX044
1層　黒 灰 色 土　斑紋状の白色粘土を中量含む。（ SD025）
2層　暗 灰 色 土　炭化物粒子を微量含む。（ SX044）
3層　黒灰褐色土　炭化物および焼土粒子を微量含む。（ SD085）

第９図　263SD025・ 085実測図（ 1/ 50 ）

263SD090



第 10図　263SD090実測図（ 1/ 50 ）

263SD090（第10図、図版５）

調査区の南東側に位置する東西溝で、Ａ４～Ｃ０区にかけて検出された。溝（263SD105）、小穴（263SX108・114）を壊して構築されているが、井戸（263SE070）、小穴（263SX062・079・087・092・093）に切られている。両端が調査区域外に延びているため遺構の全長は不明であるが、規模は検出長12.0m、幅0.50～1.10m、深さは８～14cmを測る。主軸方位は中軸線上でＮ－86°－Ｅを指す。底面標高は東側で30.95m、西側で30.75mを測り、東から西に向かって20cmほど傾斜している。遺構内堆積土は暗灰色土で構成され、北側で本遺構に並走する形で検出された溝（263SD025）と覆土の様相が類似する。埋没時期に関しては、出土遺物の様相から９世紀以降と考えられる。

263SD100（第11図、図版５）

調査区の東側で検出された東西溝で、Ｃ０・１区に位置する。小穴（263SX119）を壊して構築されるが、西側は井戸（263SE070）、溝（263SD090）、小穴（263SX087）により切られ、東側は調査区域外に展開する。遺構間の重複により遺存状態は良好ではなく、南壁は遺存していない。規模は検出長4.10m、遺存幅は最大0.72m、深さは５～12cmを測り、遺存する北壁に主軸方位を求めるとＮ－86°－Ｅを指す。埋土は暗褐灰色土により構成される。出土遺物の傾向から埋没時期に関しては、10世紀後半以降と考えられる。

263SD105（第11図、図版５）

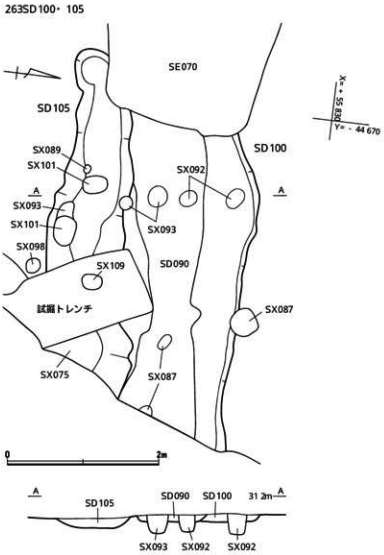
調査区の東側に位置し、Ｂ・Ｃ０・１区で検出された東西溝である。小穴（263SX099・108・121）を切って構築されているが、一部が試掘と小穴（263SX089・093・101）との重複の影響により失われている。北側から西側にかけては井戸（263SE070）、溝（263SD090）に壊されており、東側は調査区域外に展開することから、全容は不明である。規模は検出長3.85m、幅0.80～1.02m、深さは８～14cmを測り、主軸方位は中軸線上でＮ－89°－Ｗを指す。埋土は暗褐灰色土で構成されており、最終埋没年代は８世紀中頃以降と考えられる。

263SD195（第12図、図版６）

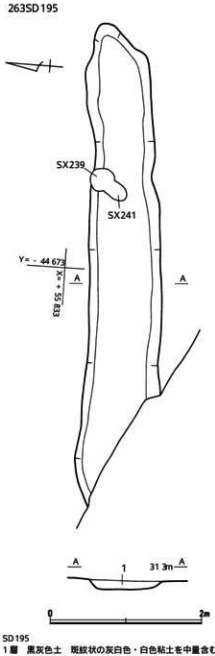
調査区の北東寄りに位置する東西溝で、Ｄ２～Ｃ４区にかけて検出された。溝（263SD110）、小穴（263SX284・291・299）の上に構築されているが、小穴（263SX239・241）に一部が壊されている。東側は途切れ、西側は調査区域外に展開することから全容は把握されていないが、先述した溝（263SD020）は本遺構の西側延長線上に位置することから、同一遺構の可能性が高い。規模は検出長5.50m、幅0.78～0.95m、深さは８～12cmを測り、主軸方位は中軸線上でＮ－84°－Ｅを指す。底面標高は、約30.90mを測り、高低差はほとんど認められない。埋土は黒灰色土で構成され、出土遺物の様相から最終埋没年代は12世紀以降と考えられる。

２）溝（その他の溝）

ここでは、道路側溝と想定した以外の溝12条（263SD015・018・019・021・023・095・110・113・115・120・200・210）について記載するが、これらの溝も大半が正方位を意識して構築されていることから、条坊の一区画内を細分する溝であった可能性も考えられる。



第 11図　263SD100・105実測図（ 1/ 50 ）



第 12図　263SD195実測図（ 1/ 50 ）

263SD015（第13図）

調査区の西側で検出された東西溝で、Ｂ８・９区に位置する。溝（263ＳＤ018）を壊して構築されているが、西側の一部は掘立柱建物（263ＳＢ030）の柱穴ｅに、東側は土坑（263ＳＫ010）に壊されている。規模は検出長2.22m、幅0.12～0.22m、深さは５～８cmを測る。主軸方位は中軸線上でＮ－87°－Ｗを指す。埋土は暗灰色土により構成され、出土遺物の様相から最終埋没年代は大宰府Ⅴ期（奈良時代後期）以降と考えられる。

263SD018（第13図）

調査区の西側で検出された南北溝で、Ａ・Ｂ８区に位置する。本遺構は溝（263ＳＤ015）、掘立柱建

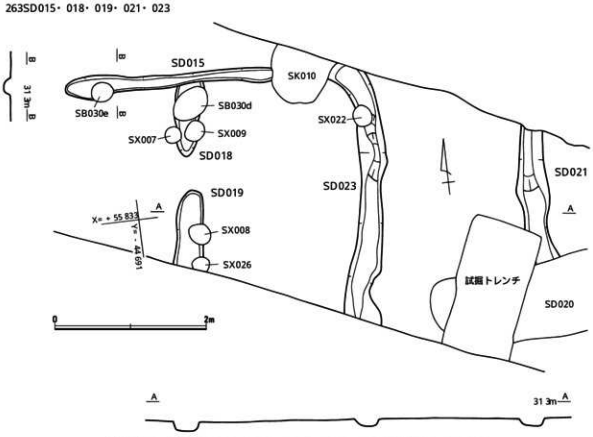
物（263SB030）の柱穴d、小穴（263SX007・009）に壊されているため、遺存状態は良好ではない。規模は検出長0.98m、幅0.28～0.38m、深さは5～7㎝を測り、主軸方位はN－9°－Eを指す。南端は途切れているが、溝の走行方向から、南側で検出された溝（263SD019）とは一連の遺構である可能性が考えられる。遺構内堆積土は暗灰色土により構成され、出土遺物の様相から8世紀中葉以降の埋没と考えられる。

263SD019（第13図）

調査区の西側で検出された南北溝で、A8区に位置する。一部が小穴（263SX008・026）に壊され、南側は調査区域外に延びているが、北側は途切れている。規模は検出長で1.02m、幅0.32m、深さは6～12㎝を測る。主軸方位は中軸線上でN－11°－Eを指し、北側の延長線上に位置する溝（263SD018）とは一連の遺構である可能性が考えられる。埋土は暗灰色土により構成され、出土遺物の様相からおおむね8世紀以降の埋没と考えられる。

263SD021（第13図）

調査区の西側で検出された南北溝で、B7区に位置する。小穴（263SX024）を壊して構築されるが、南側は溝（263SD020）および試掘坑により切られ、北側は調査区域外に延びている。規模は検出長1.74m、幅0.30～0.42m、深さは5～14㎝を測り、底面は北側が一部深く掘り込まれている。主軸方位はN－1°－Eを指す。覆土は暗灰褐色土により構成され、出土遺物の様相から最終埋没年代は大宰府Ⅵ期（9世紀前半）以降と考えられる。



第13図　263SD015・018・019・021・023実測図（1/50）

263SD023（第13図）

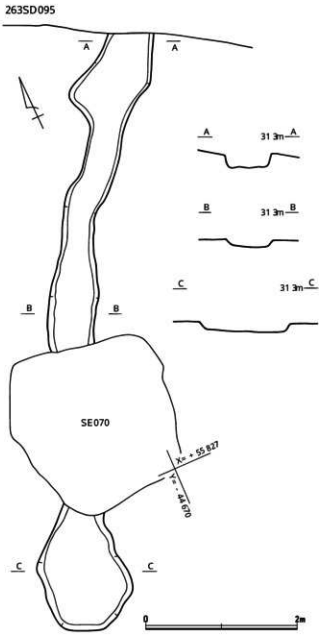
調査区の西側で検出された南北溝で、A・B７・８区に位置する。小穴（263SX032・033）を壊して構築されるが、土坑（263SK010）および小穴（263SX022）により切られている。両端は調査区域外に延び、規模は検出長3.33m、幅は0.28～0.40mを測る。深さは８～14cmを測り、底面は北側が部分的に深く掘り込まれている。主軸方位は中軸線上でN－2°－Eを指すが、北壁際でやや西寄りに傾く。先述した溝（263SD018・019・021）と並行関係にあり、何らかの関連があるものと推測されるが、全容は不明である。埋土は暗灰褐色土により構成され、最終埋没年代は大宰府Ⅴ期（８世紀末～９世紀初頭）以降と考えられる。

263SD095（第14図）

調査区の北東側に位置する溝で、A～C１・２区にかけて検出された。柵列（263SA205）、溝（263SD110）、小穴（263SX106・231・238・261）を壊して構築されるが、井戸（263SE070）、溝（263SD090）により切られている。南西側は途切れ、北東側は調査区域外に延びており、全容は不明であるが、やや蛇行し、若干西側に弧を描く。規模は検出長7.90m、幅は0.44～1.20m、深さは８～12cmを測り、主軸方位は中軸線上でN－29°－Eを指す。底面は比較的平坦であるが、北から南に向かってやや傾斜しており、標高は北側で30.90m、南側で30.70mを測り、20cmほどの高低差がある。埋土は黒灰色土を基調とし、出土遺物の様相から９世紀以降の埋没と考えられる。

263SD110（第15図）

調査区の東側に位置し、C２区より検出された南北溝である。井戸（263SE070）、溝（263SD095・195）、小穴（263SX091）と重複関係にあり、本遺構が最も古く、両端は壊されている。規模は検出長3.08m、幅は0.24～0.48m、深さは８～14cmを測る。主軸方位は中軸線上でN－６°－Wを指すが、北端部でやや西寄りに弧を描く。底面標高は北端が30.97m、南端が30.82mを測り、15cmほど南側に傾斜している。埋土は暗灰褐色土により構成され、出土遺物の様相から８世紀中葉以降の埋没と考えられる。



第 14図　263SD095実測図（ 1/ 50 ）

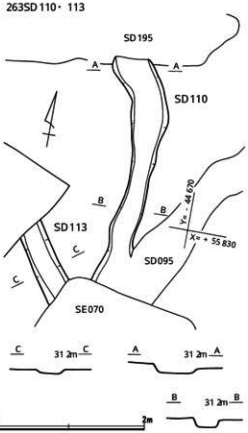
263SD113（第15図）

調査区の東側に位置し、B２区で検出された。北西から南東方向に延び、北西側は調査区域外に展開し、南東側は井戸（263SE070）により壊されている。規模は検出長0.92m、幅0.36m、深さは５㎝前後を測り、主軸方位はN－36°－Wを指す。埋土は暗灰色土で構成され、出土遺物の様相から９世紀以降の埋没と考えられる。

263SD115（第16図）

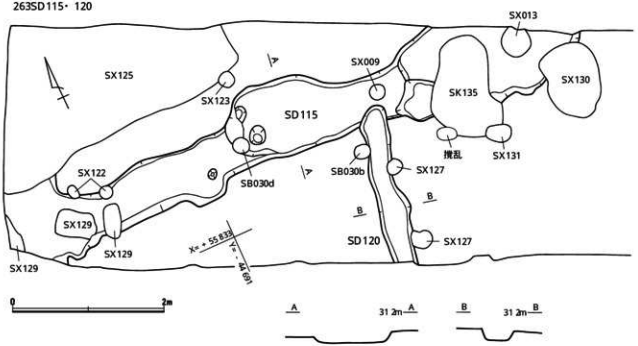
第Ⅱ面の調査区西側で検出された東西方向に延びる溝で、B７～９区に位置する。小穴（263SX136）を切って構築されているが、部分的に溝（263SD120）、土坑（263SK130・135）、たまり状遺構（263SX124～126・128・129）、小穴（263SX122・152）により壊されている。西側は遺構間の重複により失われ、東側は調査区域外に展開している。規模は検出長7.10m、幅0.62～1.02m、深さは８～16㎝を測る。底面には凹凸が認められ、標高は西端で30.78m、中央部で30.81m、東端で30.90mを測り、東から西に向かって徐々に低くなる。主軸方位は東西を指す。埋土は暗灰色土で構成される。遺物が出土していないため時期の比定は困難であるが、覆土の観察と遺構間の重複関係から古墳時代前期頃の所産と考えられる。

263SD110・113



第 15図　263SD110・113実測図（ 1/ 50）

263SD115・120



第 16図　263SD115・120実測図（ 1/ 50）

263SD120（第16図）

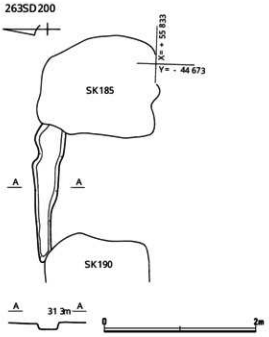
第Ⅱ面の調査区西側に位置し、A・B８区で検出された南北溝である。溝（263SD115）を壊して構築されているが、一部が小穴（263SX127）に切られている。北側は途切れ、南側は調査区域外に延びている。規模は検出長2.10m、幅0.30～0.42m、深さは８～18cmを測る。底面標高は約30.90mを測り、高低差は認められない。主軸方位は中軸線上でN－13°－Eを指す。埋土は灰黄褐色土により構成されるが、遺物は出土していない。

263SD200（第17図）

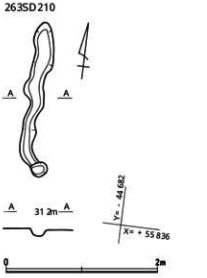
調査区中央の北壁寄りで検出された小規模な東西溝で、D３・４区に位置する。小穴（263SX269）を切って構築されているが、土坑（263SK185・190）、たまり状遺構（263SX266）、撹乱（263SX216）により両端が壊されている。規模は検出長1.30m、幅0.18～0.38m、深さは５～10cmを測る。主軸方位は中軸線上でN－86°－Wを指す。埋土は灰褐色土により構成され、７世紀後半から８世紀初頭の遺物が出土している。

263SD210（第18図）

第Ⅱ面の調査区北西側で検出された小規模な南北溝で、C・D７区に位置する。規模は全長1.90m、幅0.14～0.24m、深さは５cmほどである。主軸方位はN－５°－Wを指し、埋土は暗灰色土により構成される。出土遺物は微量且つ細片であるため時期の比定は困難である。



第 17図　263SD200実測図（ 1/ 50 ）



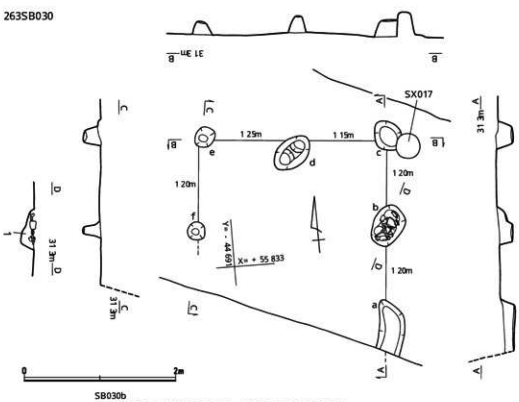
第 18図　263SD210実測図（ 1/ 50 ）

3）掘立柱建物

今次調査では、第Ⅰ面より２棟の掘立柱建物が検出された。調査区の制約などにより全容が捉えられたものはないが、検出状況から２棟とも側柱建物の構造をとる可能性が高い。建物配置は、道路側溝の可能性が考えられる溝に沿うような形で検出され、正方位を意識したものと推定される。なお、掘立柱建物・柵列の報告では、検出長や柱間寸法を小尺としても表示しており、１小尺≒0.298mとして除した数値を掲載している。

263SB030（第19図、図版６）

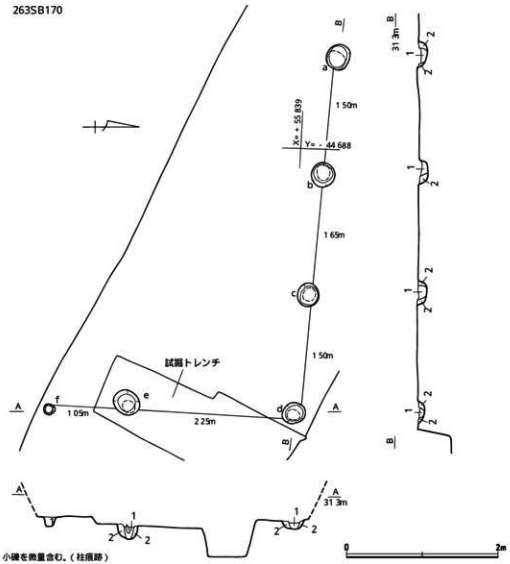
調査区の西側に位置し、Ａ・Ｂ８・９区で検出された。多くの遺構と重複するが、直接的な切り合い関係では、溝（263SD015・018）の一部を切り、土坑（263SK010）、小穴（263SX017）、たまり状遺構（263SX031）に壊されている。南側が調査区域外に展開するため、全容は捉えきれていない。柱穴の配置から梁行２間×桁行２間以上の側柱建物の構造をとるものとみられ、桁行に関しては調査区域外へ拡がる可能性が考えられる。梁行総長は2.40m（８小尺）、検出された範囲での桁行総長は4.20m（14小尺）を測り、梁行・桁行とも柱間寸法はすべて1.20m（４小尺）等間に収まる。桁行（柱穴ａ～ｃ間）を基準に主軸方位を求めると、Ｎ－５°－Ｅを指す。柱穴の掘り方は、略円形または楕円形を基調とするが、南東隅で確認された柱穴ａのみやや不整形である。規模は長径25～55cm、深さは18～26cmを測る。覆土は暗灰色土により構成される。出土した須恵器の形態的特徴から大宰府Ⅵ期頃（９世紀前半）の所産と考えられる。



第 19図　263SB030実測図（ 1/ 50 ）

263SB170（第20図、図版６）

調査区の北西側に位置し、Ｃ・Ｄ７～９区で検出され、たまり状遺構（263ＳＸ243・245）の上に構築されている。南側が調査区域外に展開するため、全容は捉えきれていない。検出範囲から梁行２間×桁行３間の東西棟の側柱建物構造と想定されるが、梁行中央の柱穴は試掘の影響により失われたものと考えられる。また、南側には廂を有する可能性を持つ。検出された柱穴は６基で、そのすべてに柱痕跡が看取される。桁行総長は、4.65m（15.5小尺）と推定され、北側柱列の柱間寸法は、柱穴ａ～ｂ間が1.50m（５小尺）、柱穴ｂ～ｃ間が1.65m（5.5小尺）、柱穴ｃ～ｄ間が1.50m（５小尺）となる。廂と想定した柱穴ｆを含めた柱心々間の梁行総長は3.30m（11小尺）を測るが、身舎部分と考えられる梁行総長（柱穴ｄ～ｅ）は2.25m（7.5小尺）となり、廂と想定した柱穴ｅ～ｆの柱間寸法は1.05m（3.5小尺）となる。主軸方位はＮ－86°－Ｗを指すと推定される。柱穴の掘り方は略円形を呈し、規模は長径12～34cm、深さは12～21cmを測るが、廂と推定した柱穴ｆのみ小振りで、やや浅い。覆土は黒灰色土と暗灰色土で構成されている。柱痕跡出土の遺物から大宰府Ⅳ期頃（10世紀中頃）には埋没したものと推測される。



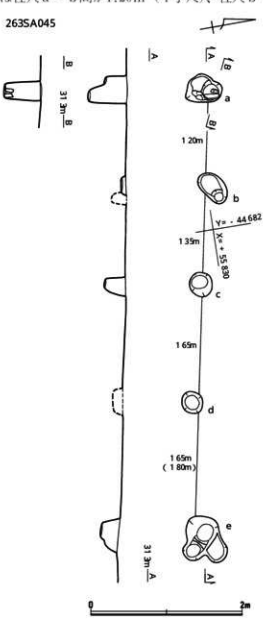
第 20図　263SB170実測図（ 1/ 50）

4）柵　列

今次調査では、第Ⅰ面から7列、第Ⅱ面から1列の計8列の柵列が検出された。第Ⅰ面より検出された柵列はすべて溝に沿った配列をしており、溝と同様に正方位を意識して構築されたと考えられる。調査区の制約から判然としないが、第Ⅱ面から検出された柵列（263SA165）は、東側の調査区域外に展開する掘立柱建物の可能性があるが、ここでは柵列として取り扱っている。

263SA045（第21図、図版7）

調査区中央の南壁寄りに位置し、A4～6区にかけて4間分検出された。溝（263SD035・085）、柵列（263SA050）、たまり状遺構（263SX111・112）、小穴（263SX061）と重複関係にあり、本遺構が最も新しい。東西方向に延び、西側は調査区域外に展開する可能性が考えられる。検出長は5.85m（19.5小尺）または6.0m（20小尺）を測り、柱穴間の距離は柱穴a～b間が1.20m（4小尺）、柱穴b～c間が1.35m（4.5小尺）、柱穴c～d間が1.65m（5.5小尺）、柱穴d～e間が1.65m（5.5小尺）を測るが、柱穴eに関しては重複している部分がみられ、1.80m（6小尺）となる可能性も想定される。主軸方位はN－80°－Wを指す。柱穴の掘り方は略円形または楕円形を基調とし、規模は長径30～68cm、深さは14～42cmを測る。また、柱穴aからは根固め石と考えられる礫が2点出土している。覆土は暗灰色土および暗灰褐色土により構成され、大宰府K期頃（10世紀中頃）の遺物が出土している。



第21図　263SA045実測図（1/50）

263SA050（第22図、図版7）

調査区中央の南壁寄りに位置し、A4～6区にかけて3間分検出された。溝（263SD035）、土坑（263SK040・140）、たまり状遺構（263SX111・112）を壊して構築されているが、柵列（263SA045）に一部が切られる。柵列（263SA045）同様に東西方向に延び、西側は調査区域外に展開する可能性が考えられる。検出長は5.55m（18.5小尺）を測り、柱穴間の距離は柱穴a～b間が1.95m（6.5小尺）、柱穴b～c間が1.65m（5.5小尺）、柱穴c～d間が1.95m（6.5小尺）となる。主軸方位はN－86°－Wを指す。柱穴の掘り方は略円形を基調とし、規模は長径26～50cm、深さは18～40cmを測る。覆土は暗灰色土により構成されるが、遺物は出土していない。

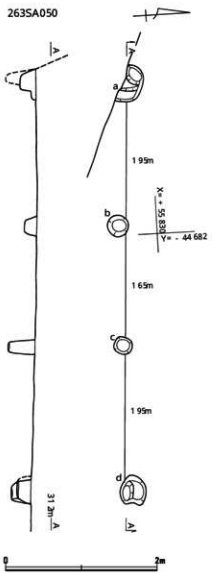
263SA055（第23図、図版7）

調査区中央の南壁寄りに位置する東西方向の柵列で、A・B2～4区にかけて4間分検出された。たまり状遺構（263SX102）の上に構築され、溝（263SD090）の北側に並行しており、西側は調査区域外に拡がる可能性が想定

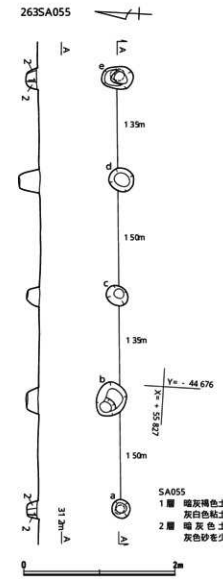
される。柱穴ａ・ｅで柱痕跡が確認され、検出長は5.70m（19小尺）を測り、柱穴間の距離は柱穴ａ～ｂ間が1.35m（4.5小尺）、柱穴ｂ～ｃ間が1.50m（５小尺）、柱穴ｃ～ｄ間が1.35m（4.5小尺）、柱穴ｄ～ｅ間が1.50m（５小尺）となる。主軸方位はＮ－86°－Ｅを指す。柱穴の掘り方は略円形を基調とし、規模は長径24～44㎝、深さは16～30㎝を測る。覆土は暗灰褐色土と暗灰色土により構成され、平安時代前期の遺物が出土している。

263SA060（第24図、図版７）

調査区の南東寄りに位置する東西方向の柵列で、Ａ・Ｂ１・２区にかけて３間分検出された。小穴（263ＳＸ078・099）を壊して構築される。溝（263ＳＤ090）の南側に並行しており、西側は調査区域外に拡がる可能性が想定される。検出長は5.10m（17小尺）を測り、柱穴間の距離は柱穴ａ～ｂ間が1.65m（5.5小尺）、柱穴ｂ～ｃ間が1.95m（6.5小尺）、柱穴ｃ～ｄ間が1.50m（５小尺）となる。主軸方位はＮ－89°－Ｗを指す。柱穴の掘り方は略円形または略方形を基調とし、柱穴ｂ・ｃで柱痕跡が確認さ



第 22図　263SA050実測図（ 1/ 50 ）

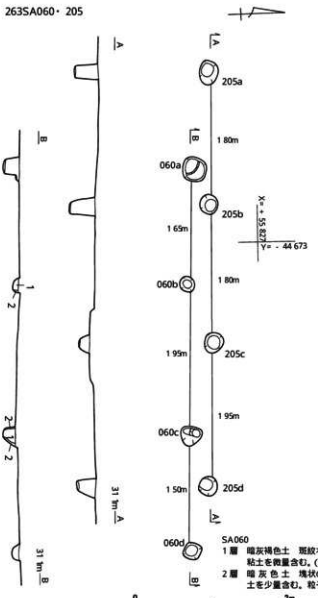


第 23図　263SA055実測図（ 1/ 50 ）

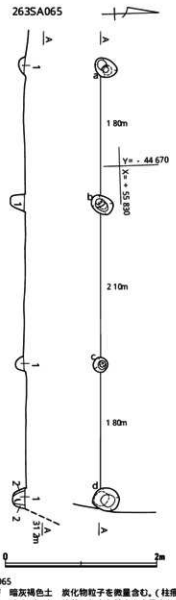
れた。柱穴の規模は長径または長軸20～32cm、深さは12～22cmを測る。覆土は暗灰褐色土と暗灰色土により構成され、大宰府Ⅴ期頃（平安時代前期）の遺物が出土している。

263SA065（第25図、図版８）

調査区の東側に位置する東西方向の柵列で、Ｃ０～２区にかけて３間分検出され、小穴（263ＳＸ097）を切って構築されている。溝（263ＳＤ090・100）の北側に並行しており、両端は調査区域外に拡がる可能性がある。検出長は5.70m（19小尺）を測り、柱穴間の距離は、両端の柱穴ａ～ｂ・ｃ～ｄ間が1.80m（６小尺）等間、中央の柱穴ｂ～ｃ間が2.10m（７小尺）となる。主軸方位はＮ－88°－Ｗを指す。柱穴の掘り方は略円形を基調とし、柱穴ａ・ｂで柱痕跡が確認された。柱穴の規模は長径20～34cm、深さは10～22cmを測る。覆土は暗灰褐色土と暗灰色土により構成され、９世紀代の遺物が出土している。



第 24図　263SA060・205実測図（ 1/ 50 ）



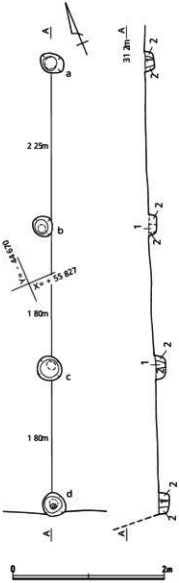
第 25図　263SA065実測図（ 1/ 50 ）

263SA080（第26図、図版８）

調査区の南東側に位置する柵列で、Ａ～Ｄ１区で３間分検出された。溝（263SD090）を壊して構築され、検出状況から南側は調査区域外に展開する可能性が考えられる。主軸方位はＮ－23°－Ｅを指し、北東から南西方向に延びる溝（263SD095）に並行する。検出長は5.85m（19.5小尺）を測り、柱穴間の距離は柱穴ａ～ｂ・ｂ～ｃ間が1.80m（６小尺）等間、柱穴ｃ～ｄ間が2.25m（7.5小尺）となる。柱穴の掘り方は略円形を呈し、そのすべてから柱痕跡が確認された。柱穴の規模は長径26～34cm、深さは12～16cmを測る。覆土は暗灰褐色土と暗灰色土により構成され、９世紀代の遺物が出土している。

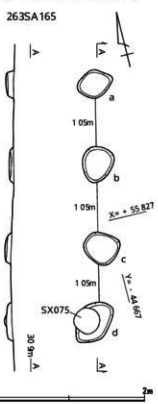
263SA165（第27図）

第Ⅱ面の調査区東端に位置する柵列で、Ａ～Ｃ０区で３間分検出された。遺構間の重複関係では、小穴（263SX196・207）→本遺構→小穴（263SX075）の順に新しくなる。調査区の制約から判然としないが、東側の調査区域外に展開する掘立柱建物の可能性がある。検出長は3.15m（10.5小尺）を測り、柱穴間の距離はそれぞれ1.05m（3.5小尺）等間に収まる。柱穴の掘り方は略方形を基本形とするが、やや菱形に近い形状をとるものもみられる。規模は長軸46～54cm、深さは８～12cmを測り、主軸方位はＮ－14°－Ｅを指す。覆土は灰褐色土により構成されるが、遺構の構築時期を示唆するような遺物の出土はみられない。



SA080
1層　暗灰褐色土　炭化物粒子および塊状の灰白色粘土を微量含む。（柱痕跡）
2層　暗灰色土　塊状の灰白色粘土を少量含む。

第 26図　263SA080実測図（ 1/ 50 ）



第 27図　263SA165実測図（ 1/ 50 ）

263SA205（第24図）

調査区の南東寄りに位置する東西方向の柵列で、A３～B１区にかけて３間分検出された。たまり状遺構（263SX083）の上に構築されるが、溝（263SD095）に壊されている。溝（263SD090）の南側に並行し、西側は調査区域外に展開する可能性が想定される。また、主軸方位を同じくする柵列（263SA060）が隣接している。検出長は5.55m（18.5小尺）を測り、柱穴間の距離は、柱穴ａ～ｂ・ｂ～ｃ間が1.80m（６小尺）等間、柱穴ｃ～ｄ間が1.95m（6.5小尺）となる。柱穴の掘り方は略円形を呈し、規模は長径24～32㎝、深さは16～34㎝を測る。覆土は暗灰色土または暗灰褐色土で構成され、本遺構に変更した小穴（263SX－072・076・098・107）の出土遺物の様相から９世紀以降の埋没と考えられる。

5）井　戸

今次調査で検出された井戸は３基で、すべて第Ⅰ面より発見された。その中で井戸枠の確認されたものは１基（263SE070）のみで、残りの２基（263SE175・180）に関しては調査区の制約により、全容を捉えきれていないが、規模および形状等により井戸と推定した。

263SE070（第28図、図版８）

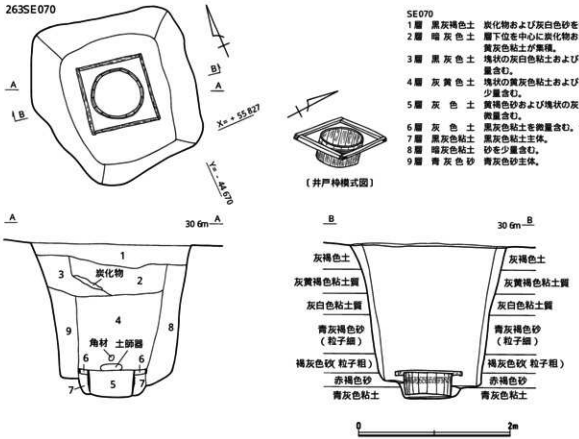
調査区の東側に位置する井戸で、B・C１・２区より検出された。溝（263SD090・095・100・105・110・113）、小穴（263SX099）と重複関係にあるが、本遺構が最も新しい。掘り方の平面形は略方形を呈するが、北西側が崩落の影響によりやや歪む。規模は長軸（南北）2.12m、短軸（東西）2.05m、深さは2.00mを測り、底面標高は29.80mである。井戸枠内の覆土は層下位より黒灰色粘土→黒灰色土→灰黄色土→暗灰色土→黒灰褐色土の順に堆積しており、下層より方形の井戸枠の土居桁のみが確認され、さらにその下には結物が遺存していた。井戸枠（土居桁）は、模式図で示したような三枚柄差による木組み法をとり、南北に配された凹は90㎝、東西に配された凸は80㎝を測る。結物は底面のほぼ中央より検出され、径65㎝内外、高さは30㎝ほどで、17枚の板材により構成され、外周面には幅２㎝弱の箍が３条巡っている。裏込めは、層下位より青灰色砂→暗灰色粘土→灰色土の順に充填されている。遺物の出土層位より本遺構の構築時期はおおむね大宰府C期と推定され、埋没時期に関しては12世紀後半以降と考えられる。

263SE175（第29図）

調査区ほぼ中央のC５・６区に位置するが、南側が調査区域外に展開することから、遺構の全容は掴めていない。溝？（263SD236）、たまり状遺構（263SX245）、小穴（263SX232）と重複関係にあるが、本遺構が最も新しい。掘り方の平面形は略方形と推定されるが、規模等に関しては不明である。覆土は層下位より灰色土→黒灰色土の順に堆積しており、出土遺物から大宰府K期（10世紀中頃）以降の埋没と考えられる。

263SE180（第29図）

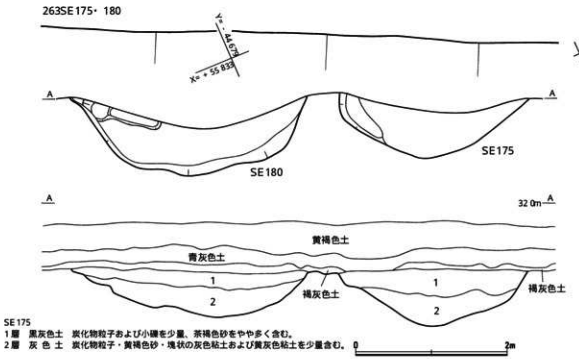
調査区ほぼ中央のC４・５区に位置し、西側には前述の井戸（263SE175）が隣接する。南側が調査区域外に展開し、遺構の全容に関しては不明である。たまり状遺構（263SX264）小穴（263SX292・293）の上に構築されているが、開口部の一部が撹乱（263SX218・219）を受けている。掘り方の平面形は略方形と推定されるが、規模等に関しては不明である。覆土は層下位より暗灰色土→黒灰色土の順に堆積している。埋没時期に関しては、隣接する井戸（263SE175）と大差のないものとみられる。



〔井戸枠模式図〕

SE070
1層　黒灰褐色土　炭化物および灰白色砂を微量含む。
2層　暗灰色土　層下位を中心に炭化物および塊状の黄灰色粘土が集積。
3層　黒灰色土　塊状の灰白色粘土および粗い砂を少量含む。
4層　灰黄色土　塊状の黄灰色粘土および茶褐色砂を少量含む。
5層　灰色土　黄褐色砂および塊状の灰白色粘土を微量含む。
6層　灰色土　黒灰色粘土を微量含む。色調が暗い。
7層　黒灰色粘土　黒灰色粘土主体。
8層　暗灰色粘土　砂を少量含む。
9層　青灰色砂　青灰色砂主体。

第 28図　263SE070実測図（ 1/ 50）



SE175
1層　黒灰色土　炭化物粒子および小礫を少量、茶褐色砂をやや多く含む。
2層　灰色土　炭化物粒子・黄褐色砂・塊状の灰色粘土および黄灰色粘土を少量含む。

SE180
1層　黒灰色土　炭化物粒子および小礫を少量、茶褐色砂をやや多く含む。
2層　灰色土　炭化物粒子・黄褐色砂・塊状の灰色粘土および黄灰色粘土を少量含む。

第 29図　263SE175・ 180実測図（ 1/ 50）

6）土　坑

今回の調査で検出された土坑は、第Ⅰ面より４基、第Ⅱ面より17基の計21基を数える。本節で取り上げた土坑以外は、すべて後述する粘土採掘坑の一部と推定される。また、第Ⅰ面で確認された263SK040・117に関しては、覆土の堆積状況や出土遺物、遺構間の重複関係などから、本来は第Ⅱ面に帰属する可能性も考えられる。

263SK010（第30図）

調査区の西側に位置し、Ｂ８区より検出された。溝（263SD015・023）、掘立柱建物（263SB030）、小穴（263SX017）を壊して構築されているが、北側が調査区域外に展開することから、規模等に関しては不明である。平面形はおおむね楕円形を呈すると考えられる。底面は比較的平坦で、深さは５～８㎝を測る。覆土は暗灰色土により構成され、出土遺物は大宰府Ⅷ期頃（９世紀末～10世紀前半）のものが主体である。

263SK040（第30図、図版９）

調査区中央の南壁寄りに位置し、Ａ５区より検出された。遺構間の重複関係では、溝（263SD085）→本遺構→柵列（263SA050）・小穴（263SX064）の順に新しくなり、遺存状態は比較的良好である。平面形は楕円形を呈し、規模は長径1.48m、短径1.24m、深さは54㎝を測る。主軸方位はＮ－26°－Ｅを指す。覆土は層下位より暗灰色土→青灰色粘土→暗灰色粘土→暗灰褐色土の順に堆積しているが、最上層の暗灰褐色土と下層の堆積土とは著しく様相が異なることから、別遺構の可能性を考慮する必要がある。出土遺物には古式土師器などがみられる。

263SK117（第４図）

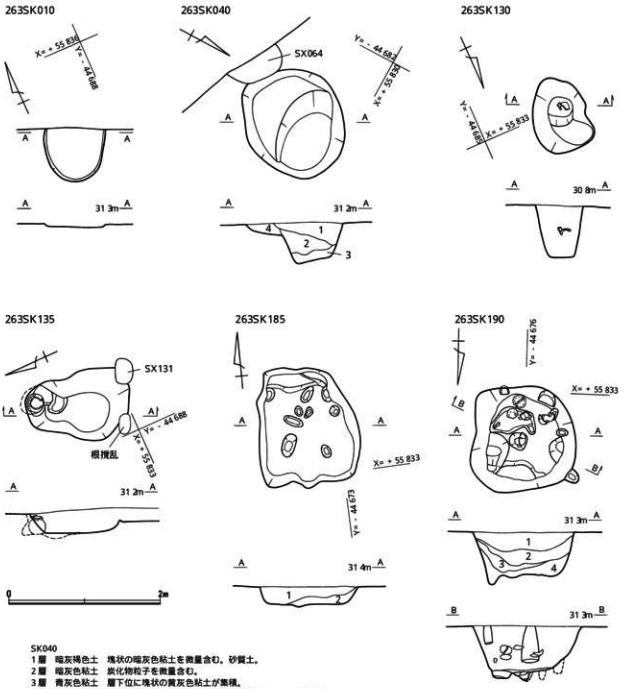
調査区中央の南壁際に位置し、Ａ４区より検出された。遺構間の重複関係では、たまり状遺構（263SX074）、小穴（263SX059）に切られている。南側は調査区域外に展開するため、遺構の全容は捉えきれていない。平面形はやや歪むが楕円形の範疇に含まれると考えられ、深さは15～30㎝を測る。覆土は層下位より青灰色粘土→暗灰色粘土→暗灰褐色粘土の順に堆積しており、覆土上層の暗灰褐色粘土より古墳時代前期頃の古式土師器が出土している。

263SK130（第30図、図版９）

第Ⅱ面の調査区西側に位置し、Ｂ７区より検出された。溝（263SD115）を壊して構築され、西隣に土坑（263SK135）が位置する。平面形は楕円形の範疇で捉えられ、規模は長径1.00m、短径0.72m、深さは70㎝を測る。主軸方位はＮ－４°－Ｗを指す。覆土は層下位より黒灰色砂→灰白色粘土→灰色粘土→灰褐色土の順に堆積している。覆土中層の灰色粘土より布留古段階に帰属する古式土師器の壺が出土している。

263SK135（第30図、図版９）

第Ⅱ面の調査区西側に位置し、Ｂ７区より検出された。溝（263SD115）を壊して構築されているが、南側の一部が小穴（263SX131）および根撹乱により切られている。平面形は楕円形の範疇で捉えられ、規模は長径1.34m、短径0.94m、深さは32㎝を測る。主軸方位はＮ－23°－Ｗを指す。断面形はおおむね逆台形状を呈するが、北端部がオーバーハングする。覆土は層下位から灰色粘土→暗灰褐色土の順に



SK040
1層　暗灰褐色土　塊状の暗灰色粘土を微量含む。砂質土。
2層　暗灰色粘土　炭化物粒子を微量含む。
3層　青灰色粘土　層下位に塊状の黄灰色粘土が集積。
4層　暗 灰 色 土　1層に類似するが、砂の含有量が少ない。

SK185
1層　黒灰色土　炭化物粒子・小礫・茶褐色砂を少量含む。
2層　灰 色 土　塊状の黄白色粘土を少量含む。

SK190
1層　黒灰色土　炭化物粒子および小礫を少量、茶褐色砂をやや多く含む。
2層　暗灰色土　塊状の灰色粘土を少量、層下位に炭化物粒子が集積。
3層　黒 色 土　炭化物が濃密に分布。
4層　灰黄色土　灰色砂と灰色および黄白色粘土の混合土。

第30図　263SK010・040・130・135・185・190実測図（1/50）

堆積し、遺構底面からは、古墳時代前期頃の古式土師器の丸底壺が正位の状態で出土している。

263SK185（第30図、図版10）

調査区中央のやや北東寄りに位置し、C・D3区より検出された。溝（263SD200）と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は略方形を呈するが、全体的にやや歪む。規模は長軸（南北）1.58m、短軸（東西）1.20m、深さは26cmを測り、坑底面には凹凸がみられる。主軸方位はほぼ座標北を指針する。覆土は層下位から灰色土→黒灰色土の順に堆積している。大宰府Ⅳ期頃（9世紀中葉～後半）の遺物が出土している。

263SK190（第30図、図版10）

調査区中央のやや北東寄りに位置し、C4区より検出された。溝（263SD200）、小穴（263SX288）を切って構築されているが、遺構の北側が撹乱（263SX216・221・222）を受けている。平面形は略方形を呈し、規模は長軸（南北）1.35m、短軸（東西）1.24m、深さは62cmを測る。坑底面には凹凸がみられ、深さ10cmほどのピット状の掘り込みが5箇所確認されている。主軸方位はN－13°－Wを指す。覆土は層下位より灰黄色土→暗灰色土→黒灰色土の順に堆積しており、大宰府Ⅳ期頃（9世紀中葉～後半）の遺物がまとまって出土している。

7）その他の遺構

ここでは、たまり状遺構8基（263SX005・111・125・128・129・204・206・245）と小穴および小穴群6箇所（263SX077・092・101・158・201・239）について述べる。

a）たまり状遺構

263SX005（第4図）

調査区西端のA・B9・10区で検出され、一部が小穴（263SX002・003）により切られている。覆土は暗灰色土を基調とするが、砂質土や粘質土が塊状に堆積していることから、窪地状地形を人為的に埋め戻した可能性が考えられる。検出範囲は南北3.30m、東西1.20mを測るが、西側から南側にかけては調査区域外に拡がる様相を示している。深さは最大で28cmを測り、底面は東側から西側に向かって緩やかに傾斜している。大宰府Ⅴ期（8世紀後半～9世紀初頭）以降の遺物が出土しているが、部分的な検出であるため詳細は明らかではない。

263SX111（第4図）

調査区中央の南壁際に位置し、A4～6区にかけて検出された。小穴（263SX118）を切って構築されているが、溝（263SD035・085）、柵列（263SA045・050）、土坑（263SK040）、たまり状遺構（263SX074・112）、小穴（263SX038・042・051・053・059・064）に壊されている。検出された範囲は東西約4.50m、南北約1.40mで、南側は調査区域外に拡がっている。深さは5cm前後を測り、覆土は暗灰褐色土を基調とする。覆土中には大宰府Ⅲ期頃の遺物がみられる。埋没時期に関しては遺構間の切り合い関係から、8世紀以前と考えたい。

263SX125（第5図）

第Ⅱ面の調査区西壁際に位置し、A・B9区より検出された。たまり状遺構（263SX129）の上から

検出され、東側の一部は小穴（263SX123）により壊されている。窪地状地形を均した整地層と考えられ、覆土には暗灰色土が堆積していた。検出された範囲は、東西約3.55m、南北約1.90mを測り、北側から西側かけて調査区域外に拡がっている。深さは８～12cmを測り、東側から西側に向かって緩やかに傾斜している。覆土からは大宰府Ⅱ期頃（８世紀前半）の遺物も出土している。

263SX128

第Ⅱ面の調査区西側に位置し、Ａ９区より検出された。遺構間の切り合い関係では、溝（263SD115）より新しく、たまり状遺構（263SX126）より古い。平面形は長径1.00m内外の楕円形を呈し、深さは10cmほどを測る。覆土は灰褐色土を基調とする点で、重複するたまり状遺構（263SX126）と類似することから同一遺構の可能性も考えられる。出土遺物は安山岩製の石鏃１点のみである。

263SX129（第５図）

第Ⅱ面の調査区南西隅に位置し、Ａ９区より検出された。たまり状遺構（263SX124・125）と重複関係にあり、本遺構が最も古い。平面形は不整形で、検出された規模は1.20mほどの範囲である。覆土は灰褐色土を基調とする点で、重複関係にあるたまり状遺構（263SX124）と類似する。大宰府Ⅶ期頃（９世紀後半）の遺物が主体的にみられ、土錘も１点出土している。

263SX204（第５図）

第Ⅱ面の調査区南東隅に位置し、Ａ・Ｂ０・１区より検出された。土坑（263SK189・197）、たまり状遺構（263SX192）、小穴（263SX089・168・169・171・176）と重複関係にあり、本遺構が最も古い。平面形は不整形で、検出された範囲は南北約2.20m、東西約1.60m、深さは10～32cmを測る。覆土は暗灰黄褐色土により構成されるが、黄灰色粘土や粗砂が斑紋状に含まれることから、人為的な埋め戻しの痕跡が看取される。覆土からは、弥生時代後期の壺の破片が出土している。

263SX206（第５図）

第Ⅱ面の調査区中央のやや東寄りに位置し、Ａ・Ｂ２～４区にかけて検出された。たまり状遺構（263SX137）を壊して構築されているが、土坑（263SK155）、たまり状遺構（263SX163・166・184）、小穴（263SX079・158・159・178）に切られており、北側は調査区域外に拡がっている。検出された範囲は東西約5.50m、南北約2.00m、深さは12～35cmを測る。覆土は暗灰褐色土で構成されるが、黄灰色粘土や粗砂が斑紋状に含まれることから、人為的な埋め戻しの痕跡が看取される。覆土からは、弥生時代後期の短頸壺の破片が出土している。

263SX245（第４図）

調査区の北西側に位置し、Ｃ・Ｄ６～９区にかけて検出された。たまり状遺構（263SX244・246）、小穴（263SX273）の上面に構築されているが、掘立柱建物（263SB170）、井戸（263SE175）、たまり状遺構（263SX243）、小穴（263SX211～214・228・242）に切られている。検出された範囲は、東西約9.50m、南北約4.00mを測り、北東側と西側から南側にかけては調査区域外に拡がっている。覆土は暗灰色土を基調とし、深さは10cm前後を測り、底面はほぼ平坦である。また重複関係にあるたまり状遺構（263SX243・244・246）とは、覆土が類似することから、同一遺構である可能性も考えられ、整地層と推定される。

b）小　穴

263SX077（第４図）

調査区の東側に位置し、Ｂ２区より検出された小穴群（５穴）であるが、２穴は柵列（263SA055）の柱穴ｄ・ｅに変更している。平面形は略円形を呈し、規模は径28～40cm、深さは10～22cmを測る。覆土は暗灰色土により構成され、平安時代前期の遺物が出土している。

263SX092（第４図）

調査区の東側に位置し、Ｃ１区より検出された小穴群（４穴）である。溝（263SD090）と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は略円形を呈し、規模は径22～38cm、深さは10～15cmを測る。覆土は暗灰褐色土により構成され、９世紀頃の遺物が主体的にみられるほか、黒曜石製の石鏃が１点混在している。

263SX101（第４図）

調査区の東側に位置し、Ｂ１区より検出された小穴群（４穴）である。溝（263SD105）を切って構築されているが、一部が小穴（263SX089・093）により壊されている。規模は径30cm内外、深さは15～35cmを測り、覆土には暗灰褐色土が堆積していた。出土遺物は９世紀頃のものが主体となる。

263SX158

第Ⅱ面の調査区中央のやや東寄りに位置し、Ｂ３区より検出された小穴群（２穴）である。たまり状遺構（263SX206）を切って構築されている。平面形は略円形を呈し、規模は径50cm内外、深さは27～30cmを測る。覆土は褐灰色土により構成され、弥生土器の小破片が出土している。

263SX201

第Ⅱ面の調査区中央のやや南寄りに位置し、Ａ・Ｂ４区で検出された小穴（１穴）である。たまり状遺構（263SX161）の上面に構築されるが、小穴（263SX154）が覆土内に穿たれている。平面形は北側がやや歪むが、楕円形の範疇で捉えられる。規模は長径74cm、短径34cm、深さは10～22cmを測り、底面には凹凸がみられる。覆土は灰色土により構成され、弥生時代後期中葉頃の壺の破片が出土している。

263SX239（第４図）

調査区の東側に位置し、Ｃ３区より検出された小穴（１穴）である。溝（263SD195）、小穴（263SX241）と重複関係にあるが、本遺構が最も新しい。平面形は略円形を呈し、規模は径約30cm、深さは28cmを測る。覆土には黒灰褐色土が堆積しており、10世紀頃の遺物が主体的にみられる。

2．遺　物

1）溝（道路側溝）出土遺物

263SD020黒灰色土出土遺物（第31図）

瓦

平瓦（1～4）いずれの凸面も格子叩き目、1～3は単斜格子、4は横長の二重斜格子である。1は側縁が遺存し須恵質焼成。2～4は瓦質焼成。3は凹面側から裁断する側縁が遺存し、切断面は未調整。

263SD025暗灰色土出土遺物（第31図）

須恵器

蓋1（5）口径17.0cmに復元され、現存高2.0cmを計測する天井部を欠く破片。外面上部は回転ヘラケズリ、以下は回転ナデ調整が施される。内面は回転ナデ調整で成形後にかえりを貼付する。焼成は良好で石英をやや多く含有する胎土は堅緻であり、外面が黒灰色、内面が青灰色に発色する。

土師器

甕（6）現存高2.4cmを測る口縁部の破片であり、口縁端部から内面にかけては回転ナデ、外面には斜位のハケ目が施されるが、下位は器面の摩耗が著しい。焼成はやや不良であり、石英、赤色粒子を多量に含有する胎土は黄橙色を呈す。

263SD085黒灰褐色土出土遺物（第31図）

土師器

小皿a1（7・8）7は口径10.0cm、器高0.9cm、底径8.2cmに復元され、8は口径10.1cm、器高0.9～1.5cm、底径7.0cmを計測する。いずれも焼成不良で器面は摩耗しており調整は不明瞭である。色調は7が暗黄橙色、8が淡灰白色を呈す。

263SD090暗灰色土出土遺物（第31・32図）

瓦

丸瓦（9・10）いずれの凸面も単斜格子叩き目であり、須恵質焼成。側縁は凹面側から裁断し切断面は未調整である。

平瓦（11・12）いずれの凸面も横長の単斜格子叩き目であり、11は瓦質焼成で12は須恵質焼成。側縁は凹面側から裁断し切断面は未調整である。

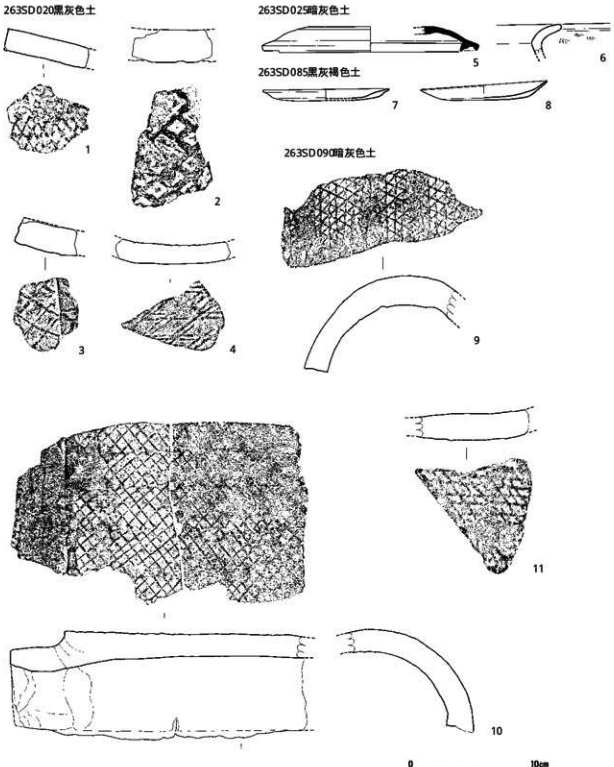
263SD100暗褐灰色土出土遺物（第32図）

黒色土器A類

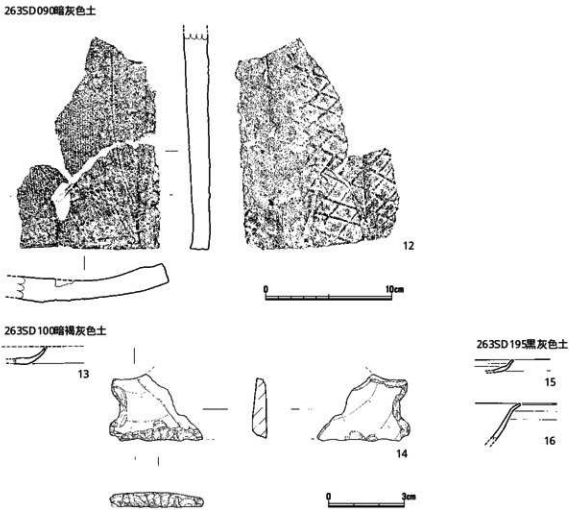
坏（13）現存高1.3cmを測る口縁部直下から底部に欠けての破片であり、内面には回転ナデ調整が施されるとみられるが器面の摩耗が著しいため不明瞭である。焼成は不良であり白色粒子や白雲母を少量含有する胎土の外面は橙白色、内面は暗灰色を呈す。

石製品

石匙（14）安山岩を素材とした未製品であり、現存幅3.8cm、現存高2.7cm、厚さ0.6cmを測る。



第 31図　263SD020・025・085・090遺物実測図（1/3）



第 32図　263SD090・100・195遺物実測図（12・13・15・16-1/3、14-2/3）

263SD195黒灰色土出土遺物（第32図）

土師器

小皿ａ１（15）現存高1.0cmを測る口縁部から体部下端の破片であり、器面は回転ナデ調整で成形される。焼成は良好であり、胎土は暗黄灰色を呈す。内外面には油煙が飛沫状に付着する。

白磁

椀（16）現存高3.0cmを測る口縁部から体部下半の破片であり、口縁部から体部内面は回転ナデ、体部外面は回転ヘラケズリで成形される。口縁部は外反する。素地は黒色微粒子を少量含有する。内外面に薄く施される釉は光沢質、半透明であり氷裂状の貫入が全面に生じる。Ⅴ－２×Ⅷ－４類。

２）溝（その他の溝）出土遺物

263SD015暗灰色土出土遺物（第33図）

土師器

坏ａ（１）現存高1.3cmを測る体部下位から底部の破片であり、底部はヘラ切り離し。胎土は石英粒子、白雲母を多量に含有し、淡赤橙色から灰黄色を呈す。焼成は不良で器面の摩耗が著しい。

土製品

焼土塊（２）現存長2.9㎝、現存幅3.1㎝、現存厚1.7㎝、重量10.8ｇを測る。淡赤橙色から暗黄橙色に発色する胎土中には石英、雲母を含有し、スサの痕跡が多く観察される。

263SD023暗灰褐色土出土遺物（第33図）

須恵器

鉢（３）現存高7.0㎝を測る体部の破片であり、内面はナデ調整で仕上げられるが、外面は摩耗し調整不明である。焼成はやや不良で、石英を多く含み粉味を帯びる胎土は淡灰白色を呈す。篠窯系。

土師器

椀ｃ３（４）現存高1.3㎝を測る体部下端から底部の破片であり、内外面を回転ナデ調整の後、高台を貼り付ける。焼成はやや不良であり、灰黄色から灰白色を呈す。内面には油煙が付着する。

263SD095黒灰色土出土遺物（第33図）

瓦

平瓦（５）凸面は斜格子叩き目。瓦質焼成の資料。

263SD110暗灰褐色土出土遺物（第33図）

須恵器

蓋３（６）現存高1.7㎝を測る天井部外周から口縁部の破片。口縁部は回転ナデ調整であるが、天井部外周は内外面ともに摩耗が著しく調整不明瞭。焼成は不良で、白色粒子を多く含有する胎土は暗黄橙色から橙灰色を呈す。

土師器

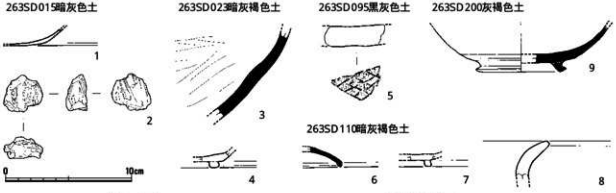
皿×坏ｃ３（７）現存高1.05㎝を測る底部の破片であり、高台を貼り付けるが、内外面は摩耗が著しく調整が不明である。焼成は不良であり、白雲母、赤色粒子を多量含有する胎土は黄橙色から橙色を呈す。

甕（８）現存高3.1㎝を測る口縁部の資料であり、器面は摩耗し調整不明瞭である。焼成は不良。雲母、石英をやや多く含有する胎土は黄橙色から黄灰色を呈す。

263SD200灰褐色土出土遺物（第33図）

須恵器

坏ｃ１（９）現存高3.7㎝を測り、底径7.2㎝に復元される体部中位から高台の破片であり、外面は回



第 33図　263SD015・023・095・110・200遺物実測図（1/3）

転ナデ、底部は高台貼付。内面上位は回転ナデ、以下見込みにかけて不定方向のナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、白色、黒色粒子を多量に含有する胎土は堅緻で外面が青灰色、内面は褐灰色を呈す。

3）掘立柱建物出土遺物

263SB170b黒灰色土出土遺物（第34図）

土師器

坏×椀（1）現存高2.0㎝を測る口縁部から体部の破片。口縁部から体部外面は回転ナデ、内面は摩耗のため調整が不明瞭である。焼成はやや不良で、赤色粒子を多量含有する胎土は黄橙色を呈す。

263SB170b暗灰色土出土遺物（第34図）

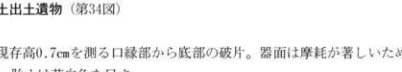
土師器

小皿ａ1（2）現存高0.7㎝を測る口縁部から底部の破片。器面は摩耗が著しいため調整が不明瞭。焼成は不良であり、胎土は黄白色を呈す。

263SB170c黒灰色土出土遺物（第34図）

土師器

椀ｃ（3）現存高1.5㎝を測る体部下端から底部の破片。高台は貼付。器面は摩耗が著しいため調整が不明瞭。焼成は不良であり、胎土は灰白色を呈す。



第 34図　263SB170b・c遺物実測図（ 1/ 3）

4）柵列出土遺物

263SA045a暗灰色土出土遺物（第35図）

土師器

坏（1）現存高2.8㎝を測る口縁部から体部下半の破片であり、器面は摩耗が著しいため調整が不明瞭。焼成は不良であり、胎土は灰白色を呈す。

小皿a1（2）現存高1.1㎝を測る口縁部から底部の破片であり、器面は摩耗が著しいため調整が不明瞭。焼成は不良であり、石英を多量に含有する胎土は黄白色を呈す。

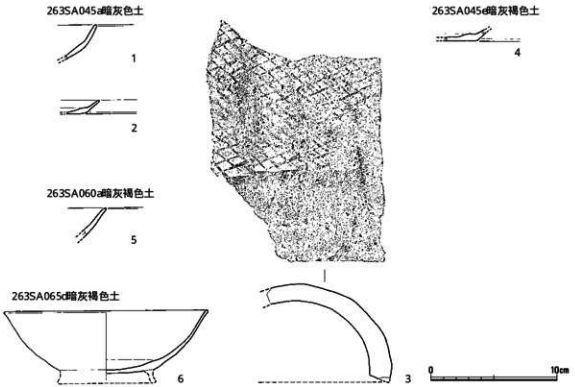
瓦

丸瓦（3）凸面は横長の斜格子であり、側縁は凹面側から裁断し、切断面は未調整。須恵質焼成。

263SA045e暗灰褐色土出土遺物（第35図）

土師器

坏×皿（4）現存高0.9㎝を測る体部下端から底部の破片であり、器面は摩耗が著しいため調整が不明瞭であるが、底部は糸切り離しとみられる。焼成は不良。白色粒子をやや多く含有する胎土は大部分が黒変しており暗灰黒色を呈す。



第 35図　263SA045a・ 045e・ 060a・ 065d遺物実測図（ 1/ 3）

263SA060a暗灰褐色土出土遺物（第35図）

坏×椀（５）現存高2.4㎝を測る口縁部から体部の破片であり、器面は摩耗が著しいため調整が不明瞭。焼成は不良であり、石英、雲母細片を多量に含有する胎土は黄白色を呈す。

263SA065d暗灰褐色土出土遺物（第35図）

黒色土器A類

椀ｃ（６）口径16.2㎝に復元され、現存高5.0㎝を測る口縁部から底部の資料であり、高台が欠損する。口縁部は回転ナデ、内面は付着物のため調整不明である。外面は回転ナデ底部は回転ヘラ切りの後、高台が貼り付けられた痕跡が観察できる。焼成はおおむね良好であり、白雲母の細片を多く含有する胎土は外面が明橙色、内面が暗黄灰色から灰黒色を呈す。

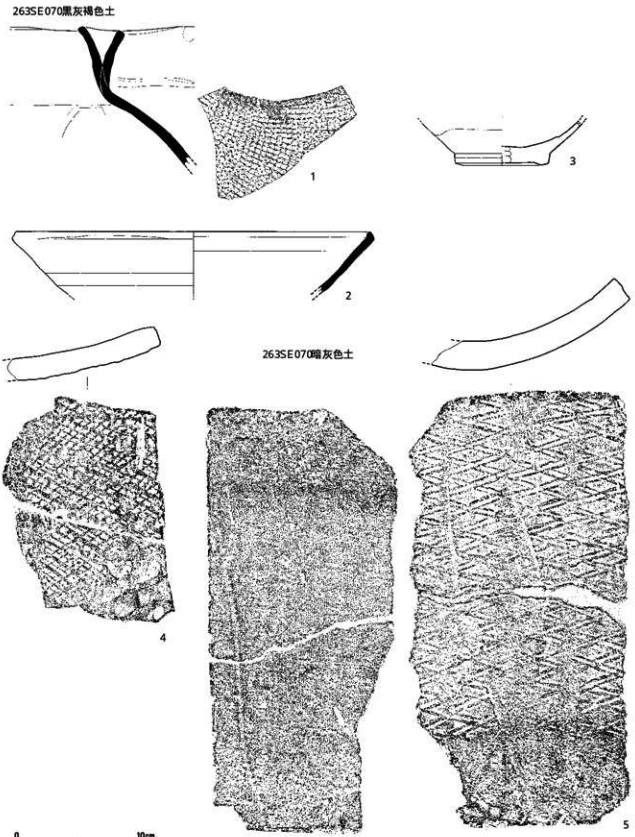
５）井戸出土遺物

263SE070黒灰褐色土出土遺物（第36図）

須恵質土器

甕（１）現存高11.2㎝を測る口縁部から胴部の破片であり、口縁部内外面は回転ナデ調整の後、外面から指頭調整を加えて器形を歪ませており、片口作出を意図した調整の可能性がある。体部外面は格子タタキ目が施され、内面は横ナデで仕上げられるが、円弧状の当て具痕が微かに残る。焼成は良好であり還元化の進んだ胎土は青灰色を呈す。産地は不明。

こね鉢（２）口径28.6㎝に復元され、現存高5.0㎝を測る口縁部から体部上位の破片であり、焼成は良好。白色粒子を多量含有する胎土は堅緻で青灰色を呈すが、口縁部は重ね焼きのため、黒褐色に発色



第 36図　263SE070遺物実測図（ 1/ 3）

する。東播系。

白磁

椀（3）Ⅳ－1a類。現存高3.6㎝、底径7.4㎝を測る体部から底部の破片である。

瓦

平瓦（4）凸面は細かな斜格子叩き目。側縁は凹面側から裁断し、切断面は未調整。土師質焼成。

263SE070暗灰色土出土遺物（第36図）

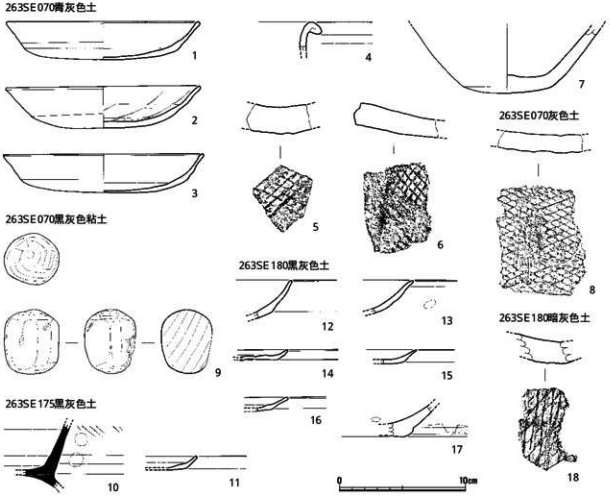
瓦

平瓦（5）凸面は横長の二重斜格子叩き目。側縁は凹面側から裁断し、切断面は未調整。須恵質焼成。

263SE070青灰色土出土遺物（第37図）

土師器

丸底坏a（1～3）いずれも遺存率の高い資料であり、2のみ内面にミガキbが観察できる。法量は1が口径15.3㎝、器高3.0㎝、底径12.2㎝、2が口径15.9㎝、器高3.1㎝、底径13.2㎝、3が口径15.4㎝、器高3.3㎝、底径21.6㎝をそれぞれ測る。



第37図　263SE070・175・180遺物実測図（1/3）

白磁

壺×水注（4）現存高2.3㎝を測る口縁部の破片であり、口縁端部は折り返される。内外面に施される釉は光沢質、不透明であり、淡灰白色に発色し細貫入が生じる。Ⅲ類系。

瓦

丸瓦（5）凸面はやや崩れた横長斜格子叩き目。須恵質焼成。

平瓦（6）凸面には細かな斜格子叩き目。須恵質焼成。

弥生土器

壺（7）凸レンズ状の底部を持つ。現存高5.2㎝、底径6.9㎝を測る体部以下の破片であり、底部内外面はナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、角閃石を多量に含有する胎土は淡黄灰色を呈す。

263SE070灰色土出土遺物（第37図）

瓦

平瓦（8）凸面には横長斜格子叩き目。須恵質焼成。

263SE070黒灰色粘土出土遺物（第37図）

木製品

毬杖の球（9）径4～5㎝ほどの樹木（広葉樹）の上下を切り刻んで、略球形状に成形する。最大径4.8㎝、高さは5.1㎝を測る。表面の摩耗が著しい。

263SE175黒灰色土出土遺物（第37図）

須恵器

脚付壺（10）現存高5.2㎝を測る体部下端から高台の破片であり、高台は底面に対して斜めに貼り付けられる。遺存する体部の外面上位には回転ナデの後、斜位の平行叩き目が施され、下位は回転ナデと指頭痕が観察できる。内面は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、黒色粒子を多量含有する胎土は堅緻であり、明青灰色を呈す。器面は茶褐色に発色する。未分類資料。

土師器

小皿a1（11）器高1.1㎝を測る口縁部から底部の破片であり、器面は摩耗し、調整は不明瞭である。石英粒を多量含有する胎土は淡黄白色を呈す。

263SE180黒灰色土出土遺物（第37図）

土師器

丸底坏a（12、13）いずれも口縁部から体部下端の破片であり、現存高は12が3.1㎝、13が2.65㎝を測る。12の内外面は回転ナデ調整で仕上げられ、13は口縁部回転ナデ調整、外面には回転ナデ痕と指頭痕が部分的に観察できるが、摩耗し不明瞭である。

小皿a1（14～16）いずれも口縁部から底部の破片であり、器面の摩耗が著しく調整は不明瞭だが、14、15の底部処理はヘラ切りと推定される。胎土は白色系である。器高は14が0.85㎝、15が1.15㎝、16が1.1㎝をそれぞれ測る。

越州窯系青磁

椀（17）現存高2.5㎝を測る体部下半から底部の破片であり、体部下端から底部を除いて施され、緑灰色に発色する釉は失光沢、不透明であり細貫入が生じる。内面下位と外面底部脇にそれぞれ1ヵ所楕

円形の目跡が残る。越州窯系青磁Ⅰ－５類。

263SE180暗灰色土出土遺物（第37図）

瓦

平瓦（18）凸面は縦長の斜格子叩き目。須恵質焼成。

６）土坑出土遺物

263SK010暗灰色土出土遺物（第38図）

土師器

椀ｃ（１）現存高1.4cmを測り、底径6.6cmに復元される底部の破片であり、高台は貼付。底部内面は摩耗して調整は不明瞭である。赤色粒子、雲母細片を多く含む胎土は暗黄橙色から橙色を呈す。

263SK040暗灰褐色土出土遺物（第38図）

土師器

椀ｃ（２）現存高1.6cmを測る底部の破片であり、高台は貼付。器面は摩耗して調整は不明瞭である。石英、白色粒子、黒色粒子を少量含有する胎土は黄橙色を呈す。

263SK075暗灰褐色土出土遺物（第38図）

越州窯系青磁

椀（３）現存高4.5cmを測り、底径8.3cmに復元される体部から底部が遺存する資料であり、焼成は良好で堅緻な素地は青灰色を呈す。半光沢、不透明で暗黄緑色に発色する釉は、内面および外面上位に施され氷裂状の細貫入を生じる。内面には３ヵ所、外面底部脇には４ヵ所の楕円形の目跡が遺存する。越州窯系青磁Ⅰ－５類。

263SK117暗灰褐色粘土出土遺物（第38図）

古式土師器

甕（４）口径17.4cmに復元され、現存高18.5cmを測る口縁部から体部下位まで遺存する資料であり、口縁部は横ナデ、頸部以下体部外面は平行叩き、内面は摩耗のため調整が不明瞭である。焼成はやや不良であり、石英をやや多く含有する胎土は粗く、茶灰色から橙色を呈す。

263SK130灰色粘土出土遺物（第38図）

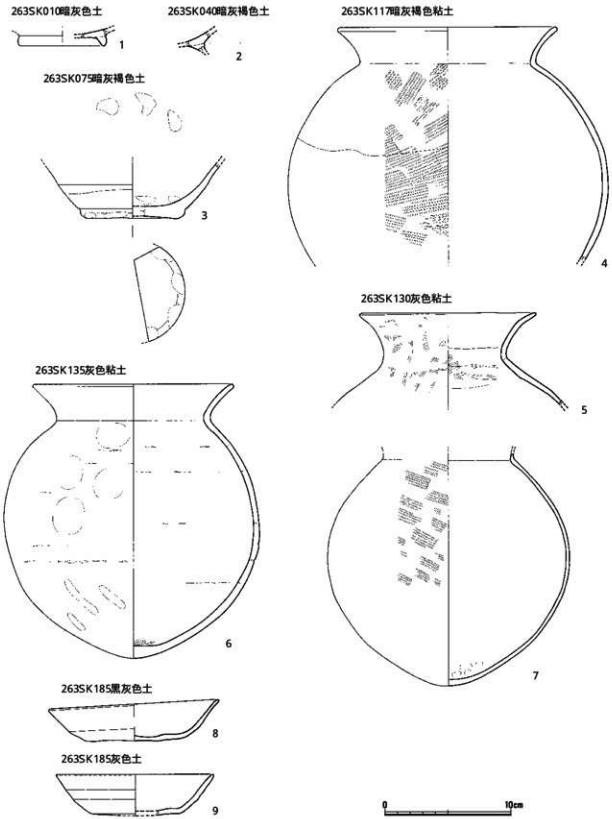
古式土師器

甕（５）口径14.0cm、現存高7.3cmを測る口縁部から体部上位が遺存する資料である。口縁部は横ナデ、器面は摩耗が著しく、外面はハケ目調整が僅かに観察できる。内面は頸部に縦位および横位のハケ目が観察できる。焼成は不良であり、やや粗い胎土は淡黄灰色を呈す。畿内５様式系壺の可能性もあり。

263SK135灰色粘土出土遺物（第38図）

古式土師器

甕（６、７）６は口径16.0cmに復元され、器高21.8cmを測る資料であり、器面は摩耗が著しいが、輪積痕跡が残るほか、体部外面上位には叩きの痕跡とみられる楕円形の面が小数形成され、下位には指ナ



第 38図　263SK010・ 040・ 075・ 117・ 130・ 135・ 185遺物実測図（ 1/ 3）

デの細長い凹みが観察される。内底部にはハケ目調整が施される。焼成は不良。石英、角閃石、白色粒子を多量に含有する胎土は黄橙色から橙褐色を呈す。7は現存高18.5cmを測る口縁部直下から底部が遺存する資料であり、器面は摩耗が著しいが、外面体部上位から中位には叩き目が斜位に施される。内底部には指押えの痕跡が観察できる。

263SK185黒灰色土出土遺物（第38図）

土師器

坏a（8）口径13.6cm、器高3.2cm、底径8.0cmを計測する。底部はヘラ切り。口縁部から体部は回転ナデ、内底面はナデ調整が施される。胎土は淡橙色および淡黄白色に発色する粘土が咬胎状を成す。

263SK185灰色土出土遺物（第38図）

土師器

坏a（9）口径12.6、器高3.2cm、底径7.0cmに復元される。底部はヘラ切りとみられるが器面が摩耗しやや不明瞭である。口縁部から体部は回転ナデ、内底面はナデ調整が施される。焼成は良好であり、赤色粒子、微細な白雲母、石英少量を含有する胎土は明橙色を呈す。

263SK190黒灰色土出土遺物（第39図）

須恵器

坏a（1、2）1は口径13.2cm、器高3.4～3.7cm、底径8.2cmを計測する。2は口径13.8cm、器高2.8～3.2cm、底径9.0cmに復元される。いずれも底部はヘラ切りであり、口縁部から体部は回転ナデ、内底面は不定方向のナデ調整が施される。焼成は良好であり、黒色粒子を多量、石英をやや多く含有する胎土は堅緻であり、1は青灰色を呈すほか口縁部内外面は暗青灰色に発色し、2は灰白色を呈す。内面の口縁部から体部上位には油煙が薄く付着する。

土師器

坏d（3）口径15.4cm、器高3.6cm、底径6.8cmに復元される。器面は摩耗しているが、底部はヘラ切り、体部外面には回転ナデ調整が施されていることが観察できる。焼成は不良であり、白色粒子を少量含む胎土は黄橙色から橙色を呈す。

皿a（4、5）4は口径15.2cm、器高2.3cm、底径11.2cmを測る、底部はヘラ切り後に不定方向のナデ、口縁部から体部は回転ナデ、内底面は不定方向のナデ調整が施される。焼成は良好で、黒色微粒子を多量に含む胎土は灰白色を呈す。5は口径16.7cm、器高1.6cm、底径12.2cmを計測する。器面は摩耗しているが、底部はヘラ切りであることが観察できる。焼成は不良であり、白雲母細片と白色微粒子を多量に含有する胎土は橙色を呈す。

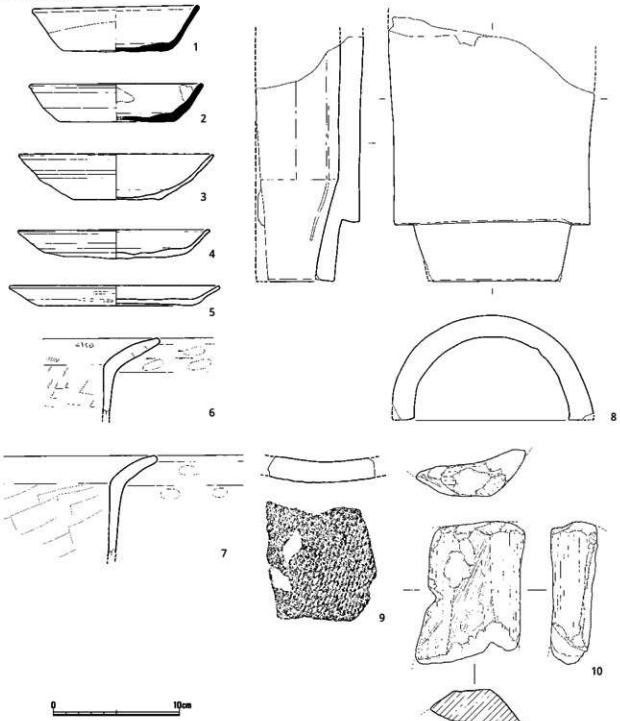
甕（6、7）6は現存高6.1cm、7は現存高8.0cmを測る。6は口縁部横ナデ、外面上位の指頭調整痕、内面にはハケ目がそれぞれ残る。体部内面にはほぼ横位のヘラケズリ調整が施される。体部外面は摩耗し調整不明。焼成はやや良好。白色粒子を多量含有する胎土は黄橙色を呈す。7は口縁部横ナデ、外面上位に指頭調整痕が残る。体部内面は斜位のヘラケズリ調整、他の部位は摩耗が著しく調整不明瞭である。焼成やや良。胎土は石英、雲母を多量含有し黄灰色に発色する。

瓦

丸瓦（8）玉縁側が遺存し、土師質焼成。焼成不良で器面が摩耗している。

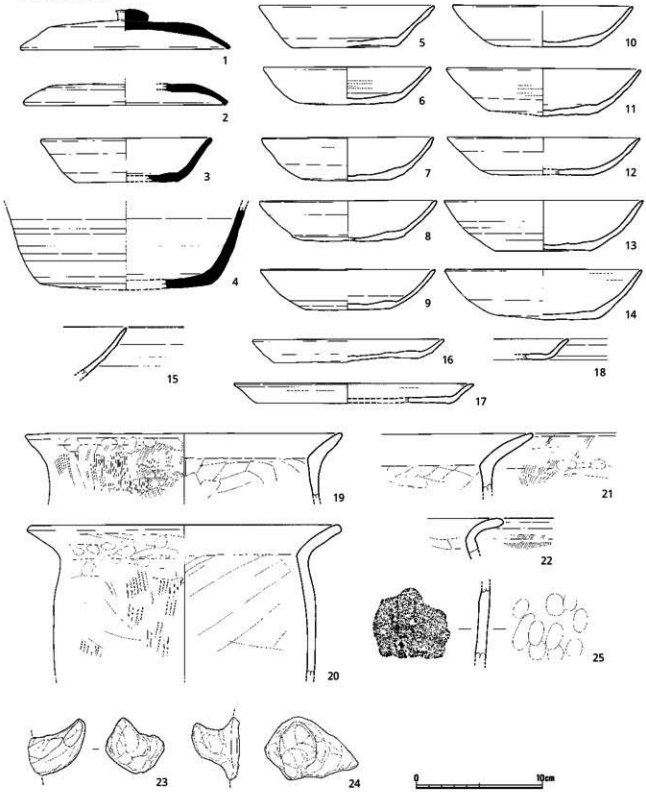
平瓦（9）凸面は縄目の叩き目。土師質焼成の資料。

263SK190黒灰色土



第 39図　263SK190遺物実測図その１（ 1/ 3）

263SK190暗灰色土



第 40図　263SK190遺物実測図その２（ 1/ 3）

石製品

砥石（10）硬砂岩を素材とし、長軸長11.2㎝、短軸長8.6㎝、厚さ3.7㎝を測る。上面が台形状に３面使用され、上端面には擦痕とともにやや太めの条線が斜位に残る。

263SK190暗灰色土出土遺物（第40図）

須恵器

蓋ｃ3（１）１は器高3.2㎝、口径16.6㎝を測る。天井部外面回転ヘ切り後に粗いナデ調整、外周は回転ナデ調整、摘みはやや偏芯位置に貼付される。内面天井部は不定方向のナデ、外周は回転ナデ調整とみられるが器面摩耗のため不明である。焼成はやや不良で、軟質な胎土は灰色を呈し、口縁端部は暗灰色に発色する。

蓋３（２）口径16.2㎝に復元され、現存高1.7㎝を測る天井中心部を欠損する資料であり、外面天井部は回転ヘラケズリ、外周は回転ナデ調整、内面は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は不良であり、灰白色を呈す胎土は粉味を帯びて軟質傾向にある。

坏ａ（３）口径13.6㎝、器高3.5㎝、底径8.1㎝に復元できる。体部内外面は回転ナデ調整。口縁部内面には油煙が付着する。

鉢ｄ（４）現存高6.5㎝を測り、底径13.6㎝に復元できる。体部下半から底部の破片であり、遺存部位のうち、外面体部上位は回転ナデ、下位は回転ヘラケズリ、底部は回転ヘラケズリ調整が施され、内面は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好で堅緻であり、黒色、白色粒子を少量含有する胎土は明灰色を呈する。

土師器

坏ａ（５）口径13.7㎝、器高3.4㎝、底径8.4㎝を測る。底部はヘラ切り。体部外面は回転ナデと類推できるが器面の摩耗が著しく調整不明瞭。胎土は橙色を呈す。

坏ｄ（６～15）いずれも器面が摩耗していることから調整がやや不明瞭であるが、底部処理はいずれもヘラ切りであり、９、15を除いて体部下端に回転ヘラケズリが施され、６、７、11、14の体部にはミガキａが観察できる。胎土は橙色系の色調を呈し、15のみ橙色と褐灰色を呈す粘土が咬胎状を成している。口径13.2～15.7㎝、器高3.0～4.0㎝、底径6.5～8.8㎝を測る。

皿ａ（16～18）いずれも底部はヘラ切り。器面が摩耗するが、17の体部内外面にはミガキａが観察できる。胎土は橙色系の色調を呈す。16は口径15.2㎝、器高1.9㎝、底径11.6㎝。17は口径20㎝、器高1.6㎝、底径15.3㎝を測る。

甕ａ（19～22）いずれも口縁部から体部の破片であり、口縁部は横ナデ、体部外面はハケ目、内面は斜位のヘラケズリ調整で仕上げられる。19は口径25.2㎝、現存高5.1㎝。20は口径25.0㎝、現存高11.9㎝。21は現存高4.6㎝。22は現存高2.7㎝をそれぞれ計測する。

把手（23、24）いずれもナデ調整で仕上げられており、粗い胎土は石英、雲母細片を含有し、橙褐色を呈す。23は現存長5.1㎝、現存高4.4㎝、最大幅4.6㎝、24は現存長3.7㎝、現存高5.0㎝、最大幅7.4㎝をそれぞれ測る。

焼塩壺（25）縦長い筒状を呈すⅠ類に属するもので、体部の破片と推定でき現存高は5.9㎝を測る。外面は指頭痕が顕著、内面は布目。胎土は雲母細粒を多く含有し、暗橙色から橙色を呈す。

7）その他の遺構出土遺物

a）たまり状遺構出土遺物

263SX005暗灰色土出土遺物（第41図）

須恵器

鉢（1）現存高2.8㎝を測る体部下位から底部の破片。黒色微粒子と石英を少量含む胎土は軟質で、やや粉味を帯びる。篠窯系。

土師器

甕×鉢（2）現存高2.2㎝を測る口縁部の破片であり、回転ナデで仕上げされる。焼成は良好。3㎜以下の白色粒子を多く含む胎土は淡橙色を呈し、断面芯部は淡灰色に発色する。外来系か。

263SX111暗灰褐色土出土遺物（第41図）

須恵器

坏c3（3）現存高0.65㎝を測る体部下端から高台の破片であり、焼成は良好。黒色粒子、白色粒子を含有する胎土は堅緻であり青灰色を呈す。

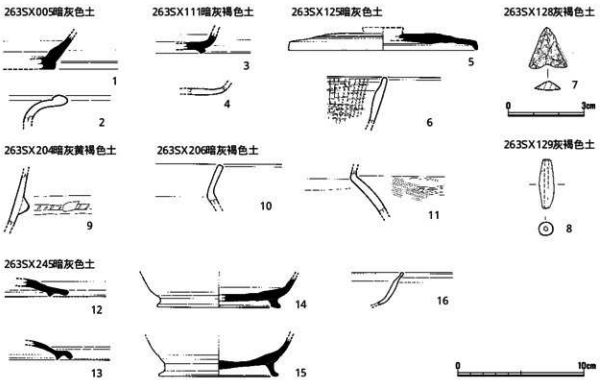
土師器

坏（4）現存高0.65㎝を測る底部の破片であり、内面には赤色顔料が塗布されている。外面は摩耗し調整不明である。胎土は明橙褐色を呈す。

263SX125暗灰色土出土遺物（第41図）

須恵器

蓋c3（5）口径15.2㎝に復元でき、現存高1.3㎝を測る摘み部を欠損する資料。天井部は回転ヘラ



第41図　263SX005・111・125・128・129・204・206・245遺物実測図
（1～6・8～16-1/3、7-2/3）

ケズリの後、摘み貼付にともなう回転ナデが施され、外周は回転ナデ、内面口縁部は回転ナデ、天井部は不定方向のナデ調整で仕上げられる。焼成は良好。黒色粒子、白色粒子を多量に含有する胎土は堅緻であり青灰色を呈す。

土師器

坏（6）現存高3.7cmを測る。横位から縦位の順でヘラミガキが施される。胎土は雲母細片をやや多く含有する。内外面に赤色顔料が塗布されるが、外面は剥落が著しい。内面には油煙が部分的に付着する。都城系の資料と類推される。

263SX128灰褐色土出土遺物（第41図）

石製品

石鏃（7）安山岩を素材とする。全長1.6cm、最大幅1.5cm、厚さ0.4cmを測る混入資料。

263SX129灰褐色土出土遺物（第41図）

土製品

土錘（8）器面はナデ調整。長さ4.9cm、最大幅1.1cm、孔径0.3cmを測り、重量5.5gを量る。

263SX204暗灰黄褐色土出土遺物（第41図）

弥生土器

壺（9）体部下半とみられる破片であり、現存高4.2cmを測る。刻み目が施された突帯が貼付される。胎土は石英を多量に含有し灰白色を呈す。

263SX206暗灰褐色土出土遺物（第41図）

弥生土器

甕（10・11）10は現存高3.2cmを測る口縁部から頸部の破片であり、器面は摩耗し調整不明。石英を多量に含有する胎土は暗灰色を呈す。11は現存高3.5cmを測る体部上位の破片であり、外面は横位のハケ目調整で仕上げられる。内面は摩耗し調整不明。石英を多量含有する胎土は暗茶褐色から暗黄灰色、内面は灰褐色を呈す。外面には煤が付着する。本資料は古式土師器の可能性も考えられる。

263SX245暗灰色土出土遺物（第41図）

須恵器

蓋1（12、13）いずれも天井部下位から口縁部の破片であり、12は現存高1.4cm、13は現存高1.5cmを測る。12の外面上位には回転ヘラケズリが確認できる。他は回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好でおおむね青灰色を呈すが、13の内面は酸化焔焼成で暗橙灰色に発色する。

坏c1（14、15）いずれも体部下位から底部の破片であり、14は現存高2.4cmを測り、底径9.8cmに復元される。15は現存高3.1cmを測り、底径9.5cmに復元され、内底面は不定方向のナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、青灰色から黒灰色を呈す。

土師器

坏（16）口縁端部が内側に突出する形状を呈し、現存高2.6cmを測る。精良で橙色を呈す胎土を持つ。都城系。

b）小穴出土遺物

263SX016暗灰色土出土遺物（第42図）

土師器

丸底坏ａ（１）口径14.3cm、器高3.9cm、底径7.8cmを測る。焼成はやや不良で器面摩耗のため調整不明瞭であるが、内面にはミガキｂが観察できる。

坏（２）現存高3.1cmを測る口縁部から体部上位の破片。口縁部は回転ナデ、体部は摩耗が著しく調整不明である。胎土は赤色粒子を多量に含有する。

椀ｃ（３）現存高2.5cmを測り、底径8.2cmに復元される体部下端から底部の破片。器面は摩耗が著しく調整不明であり、胎土は赤色粒子をやや多く含有する。

263SX038暗灰色土出土遺物（第42図）

黒色土器B類

椀ｃ（４）口径15.2cm、器高6.4cm、底径6.4cmを測る。口縁部は回転ナデ調整、体部内外面はヘラミガキ調整で仕上げられる。焼成はやや不良で部分的に器面の摩耗がみられ、石英をやや多く含有する胎土は黒灰色を呈す。

263SX048暗灰色土出土遺物（第42図）

土師器

坏ａ（５）口径14.3cm、器高3.7cm、底径8.4cmを測る。口縁部回転ナデ、底部処理はヘラ切りであるが、他の部位は器面摩耗著しく調整不明。石英を少量含む胎土は内面の大部分が黒変しているが。外面は灰黄色を呈す。

263SX077暗灰色土出土遺物（第42図）

土師器

坏（６）現存高2.9cmを測る口縁部から底部付近の破片であり、器面摩耗のため調整不明である。石英、赤色粒子を含有する胎土は橙白色を呈す。

椀ｃ（７）現存高2.1cmを測る体部下端から高台の破片であり、器面摩耗のため調整不明である。雲母細片を多く含有する胎土は黄灰色から橙灰色を呈す。

瓦

平瓦（８）厚さ1.8cmを測る。凸面に横長斜格子目叩き。瓦質焼成。

263SX092暗灰褐色土出土遺物（第42図）

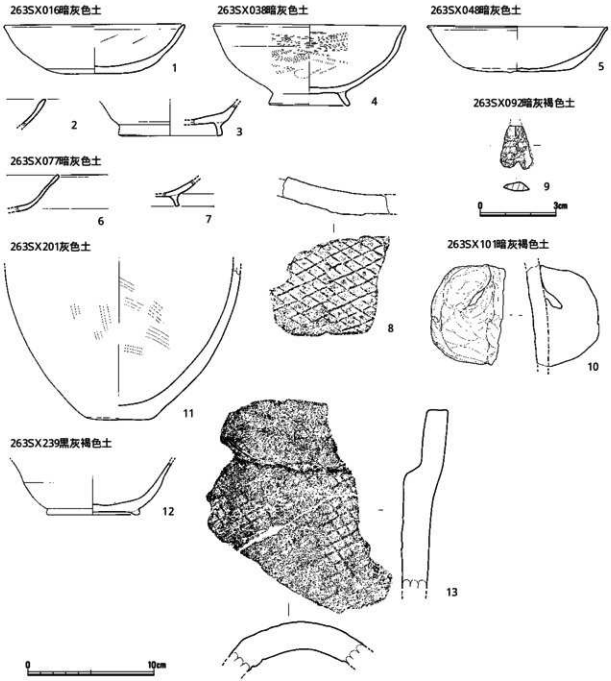
石製品

石鏃（９）黒曜石を素材とする。現存長1.7cm、現存幅1.3cm、厚さ0.3cmを測る混入資料。

263SX101暗灰褐色土出土遺物（第42図）

土師器

把手（10）置カマドなど比較的大形品の把手と類推でき、現存高8.0cm、現存幅6.0cm、厚さ5.1cmを測る。ナデおよび指頭調整によって成形され、やや粗粒の石英を多量に含有する胎土は橙褐色を呈す。



第 42図　263SX016・038・048・077・092・101・201・239遺物実測図（1/3）

263SX201灰色土出土遺物（第42図）

弥生土器

壺（11）現存高12.5cm、底径5.2cmを測る体部中位以下の資料であり、内外面は摩耗が著しいものの僅かにハケ目が観察できる。石英や白色粒子を多く含有する粗い胎土は外面は灰黄褐色、内面は暗黄灰色を呈す。

263SX239黒灰褐色土出土遺物（第42図）

土師器

椀ｃ２（12）現存高4.1cm、底径7.4cmを測る。体部外面は回転ナデ調整。赤色粒子、白雲母を少量含有する胎土はピンホール状の空隙が生じており、橙褐色を呈す。体部外面と内底面には煤が付着する。

瓦

丸瓦（13）玉縁側が遺存する。現存長17cm、最大厚2.2cmを測る。凸面には斜格子目叩き。瓦質焼成。

8）その他の層位出土遺物

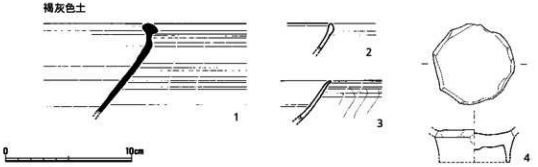
褐灰色土出土遺物（第43図）

須恵器

鉢（１）現存高7.2cmを測る口縁部から体部の破片であり、回転ナデ調整で仕上げられる。焼成は良好であり、白色粒子をやや多く含有する胎土は青灰色を呈す。篠窯の製品。

白磁

椀（２～４）２、３は口縁部から体部上位の破片。２は口縁端部を小さな玉縁にするⅡ類で、現存高2.2cmを測る。３は口縁端部を外反させ、外面に縦篦花弁文を施すⅤ－１ｂ類で、現存高3.2cmを測る。４はⅤ類の底部破片であり、高台径に合わせて円形に打割される。現存高2.1cmを測り、底径5.6cm復元できる。体部は人為的に打ち欠いた可能性がある。



第 43図　褐灰色土遺物実測図（ 1/ 3）

Ⅶ．小　　結

今回の大宰府条坊跡第263次調査では、前項までに述べたとおり、上下二枚の生活面とそれに伴う整地層が確認された。限られた調査範囲ではあったが、古くは弥生時代後期から古墳時代前期、奈良・平安時代、さらには中世に至る遺構や遺物が検出された。ここで再度まとめておくと、第Ⅰ面では主に８世紀から12世紀にわたる遺構や遺物が検出され、一方、第Ⅱ面より確認された遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期にほぼ限定されることが判明した。本項では以下、時期ごとに検出された主な遺構を取り上げ、現時点での所見を整理しておきたい。

はじめに弥生時代後期に帰属する遺構をあげると、調査区の東側および南壁際より確認された土坑群（263 SK187・189・193・194・199）とたまり状遺構（263 SX137・138・145・150・153・156・157・161・163・164・166・184・186・192・203・204・206・208・303・304・309）の一群が該当すると考えられる。これらの遺構は、検出状況からそれぞれが単独の遺構として存在したのではなく、全体で一つの粘土採掘坑と推定することができる。その論拠として、①遺構の立ち上がりが曖昧であること、②埋土の堆積状況から粘質土が取り除かれていること、③遺構の平面形が不整形で乱雑に掘り込まれていること、④粘土質の地山層（基本土層66・67層）のみが掘削され基盤層まで及んでいないことなどをあげることができる。

古墳時代前期の遺構としては、調査区の南側で検出された４基の土坑（263 SK040・117・130・135）があげられる。いずれも平面形は楕円形を基調とするが、深さは30～70㎝とやや幅がある。出土土器の中には、西新式の範疇で捉えられる弥生後期の土器や布留式古段階に比定される古式土師器が含まれることから、遺構の範絶までには多少の時間幅があるものと考えられる。なかでも、SK135から出土した小形壺は正位の状態で確認されており、覆土の堆積状況と併せて考えると、土器は埋納された可能性が高い。このような状況から墓壙の可能性も推定されるが、弥生時代後期以降、大宰府成立直前までは、周辺域での人々の活動痕跡が乏しく、近隣でも類例がみられないことから遺構の性格に関しては今後の調査事例を待って検討したい。

この他、同じ第Ⅱ面より確認された遺構には、溝（263 SD115）、柵列（263 SA165）、たまり状遺構（263 SX124・125・129）などがあげられる。溝（263 SD115）の平面形はやや不整形で、整地される以前は調査区の西側が窪地地形であったことから、溝の性格を自然流路と判断した。時期は遺構間の重複関係より古墳時代前期頃まで遡るものと考えられる。柵列（263 SA165）とした柱穴列は、調査区の制約から判然としないが、東側の調査区域外に展開する掘立柱建物とみることもできよう。また、たまり状遺構（263 SX124・125・129）としたものは、調査区西壁側に拡がる窪地地形と考えられる。

古墳時代前期以降、断続的であった人々の活動も７世紀に入ると徐々に活発となり、調査区内でも広範囲にわたって整地されるようになってくる。たまり状遺構（263 SX124・125・129）もその一つと考えられ、上限時期を窺う資料として大宰府Ⅱ期段階の遺物が出土していることから、この時期を境に土地利用に大きな変革があったものと想定される。

次に、第Ⅰ面より検出された主な遺構を示すと、道路側溝と推定される大区画の溝７条（263 SD020・025・085・090・100・105・195）、条坊内の小区画と考えられる溝９条（263 SD015・018・019・021・023・095・110・113・200）、掘立柱建物２棟（263 SB030・170）、柵列７列（263 SA045・050・055・060・065・080・205）、井戸３基（263 SE070・175・180）、土坑３基（263 SK010・185・190）などがあげられる。これらの遺構は出土遺物や覆土などの検討から、大きく４時期（A～D期）に区分することができる。

ここではA期を大宰府政庁Ⅱ期前半（８世紀～９世紀前半）、B期を政庁Ⅱ期後半～Ⅲ期前半（９世紀後半～10世紀前半）、C期を政庁Ⅲ期前半（10世紀前半～11世紀）、D期を政庁廃絶後（12世紀以降）として遺構について以下に検討する。

８世紀代の遺物を含む灰黄褐色土および暗灰黄褐色土（基本土層39層）の堆積後、A期に帰属する遺構が構築され、街区割りに関連する東西路（条間路）に付帯する道路側溝を基準に各遺構が配置されるようになる。

東西路（条間路）と推定した道路側溝は、A～C期にかけて、正方位を意識して構築される。遺構間の重複関係や覆土の様相、埋没年代を考慮して溝の対応関係や構築年代を捉えると、263SD025と対になる263SD100および263SD105がB～C期、263SD090がB期、263SD020および263SD195と263SD085がC期以降に該当するものと考えられる。また並行して検出されている柵列も溝に関連するものと考えられ、263SA055・205がB期、263SA060がB～C期、263SA045・050・065がC期以降に該当するものと思われる。柵列は基本的に道路側溝の外側に配列されるものと考えられ、目隠し塀や掘立柱建物の柱穴列の一部とも考えられるが、詳細は不明である。また、調査区東側で検出されている溝（263SD095）と柵列（263SA080）は並行関係にあるが、正方位から23～29度東にずれている。出土遺物は９世紀代のものが主体を占めるが、本調査区より検出された遺構覆土を対比させて考えると、263SD095の堆積土が12世紀頃に埋没した遺構に類似しているため、構築時期に関しては、C期以降もしくはD期の可能性も考えられる。

その他、調査区南西側で検出されている溝（263SD018・019・021・023）は、南北方向に延び、正方位を意識して構築されている。また、溝間の心々距離は、263SD018－263SD023間および263SD019－263SD023間が2.40m（８小尺）、263SD021－263SD023間が2.10m（７小尺）を測る。重複による影響や遺構が調査区域外に展開するなど部分的な検出であるために、遺構の全容は不明である。しかし、正方位を意識して構築されている点や比較的等間隔に配列されている点などから、条坊一区画内を細分する溝であった可能性も指摘できよう。

掘立柱建物は２棟（263SB030・170）検出されているが、２棟とも調査区域外に展開するために全容は掴めていない。検出された範囲では、263SB030は梁行２間×桁行２間以上、263SB170は梁行２間×桁行３間以上で南側に廂を有する側柱建物と想定され、ともに正方位を意識して構築されている。埋没時期は263SB030が８世紀代、263SB170が10世紀前半頃であることから、遺構構築時期に関しては、B期～C期に収まるものと考えられる。

井戸は３基（263SE070・175・180）確認された。調査区中央に２基並んで検出されたSE175・180は、大半が調査区域外に展開するため不明な部分が多いが、おおむね11世紀代には埋没していたものと考えられる。一方、調査区東側に位置する263SE070は、最終埋没年代が12世紀後半以降であることや、遺構間の重複関係で最も新しいことなどから、D期に構築されたものと思われる。

土坑は３基（263SK010・185・190）確認され、調査区北東寄りに並んで検出された263SK185・190は８世紀後半（A期）、調査区西側で検出された263SK010は９世紀後半（B期）以降には埋没したものと考えられる。263SK010は遺構の半分が調査区域外に拡がり、上面からの削平の影響もあり、遺構の性格に関しては不明である。263SK185・190は、遺物の出土状況や覆土の堆積状況から人為的な埋め戻しが看取されるなど、廃棄土坑であった可能性が高い。

以上、大宰府条坊跡第263次調査で検出された主な遺構について再度概観してきた。地点的な調査であるために全容については不明な部分が多いが、ここからは、今次調査で検出された遺構の中で、その中心となる東西路（条間路）について若干述べておきたい。

東西路（条間路）の構築時期に関しては先述したとおりであり、重複関係にある263SD090・100・105の３条は、検出状況からほぼ同じ位置で掘り直しが行われていたものと考えられる。また、対で検出された263SD025と263SD090は心々間距離で約4.12mを測り、重複や削平などによって全容は捉えきれていないが、Ａ期からＣ期までの間は、土地区割りに大きな変化がなかったものと推定される。一方、11世紀前半埋没の263SD085と12世紀前半埋没の263SD020および263SD195は、削平による影響によって対となる側溝は検出できなかった。前段階の位置関係を踏襲しているとすれば、南側に並走していたものと思われる。しかし、柵列が側溝の外側に配列されることを前提とすれば、対になる側溝は調査区の北側で並走していたものと推定され、平安時代中期以降、徐々に路面幅が縮小傾向にある事例からも、263SD085から263SD020および263SD195への移行は可能性としては考えられる。詳細は資料の蓄積をまって検討したい。

最後に1995年～1996年にかけて発掘調査された大宰府条坊跡第168次調査の成果と比較してみたい。第168次調査では、政庁第Ⅱ期に属する遺構として、推定朱雀大路（168SF300）や左郭一坊路（168SF190）を含め、数条にわたる道路や側溝、掘立柱建物、柵列などが検出された。それらの大半は正方位を意識して構築されており、東西路（条間路）または南北路（坊路）を基準とした遺構配置をとっていることが窺い知れる。この点は今次調査でも一致しており、確認された東西路側溝（263SD020・025・085・090・100・105・195）と関連のある遺構は、Ｃ期に埋没したと考えられる東西路（168SF180）とそれに直交する南北路（168SF185）が該当する。しかし、検出された道路側溝と168SF180は直線上で交わらない。未調査区のみ道路側溝が蛇行するとも考え難いことから、南北路（168SF185）とは、やや北側にずれた位置で接しているものと想定され、交差点部分で段違いになっていた可能性も考えられる。Ｃ期以降の構築である263SD085と263SD020・195などは、より北側に位置する可能性も考えられる。先述したように、地点的な調査であるために遺構の全容までは把握しきれていないが、条坊内部の遺構の推移や条坊の構築状況について貴重な資料を得ることができたものと思われる。

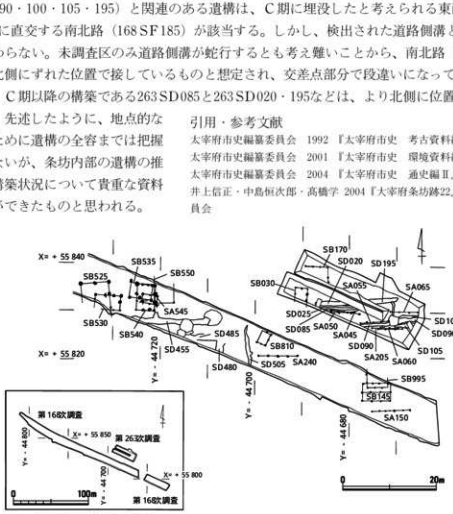
引用・参考文献

太宰府市史編纂委員会　1992『太宰府市史　考古資料編』太宰府市

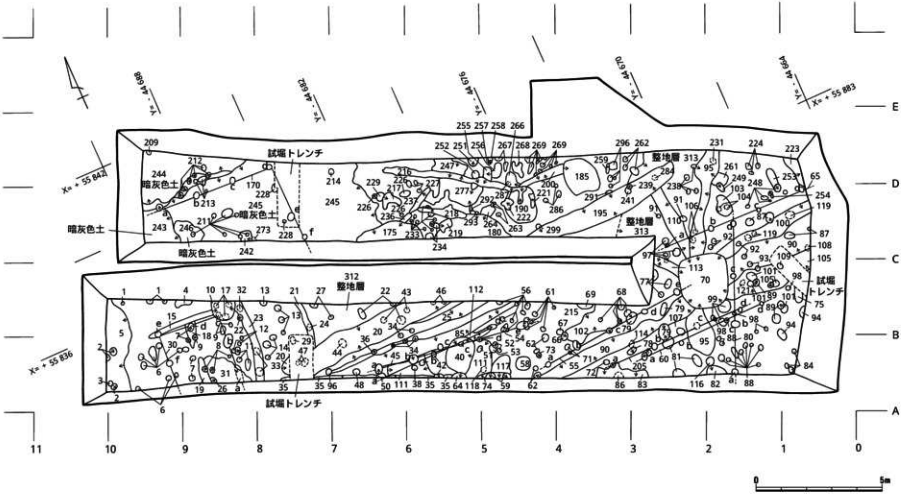
太宰府市史編纂委員会　2001『太宰府市史　環境資料編』太宰府市

太宰府市史編纂委員会　2004『太宰府市史　通史編Ⅱ』太宰府市

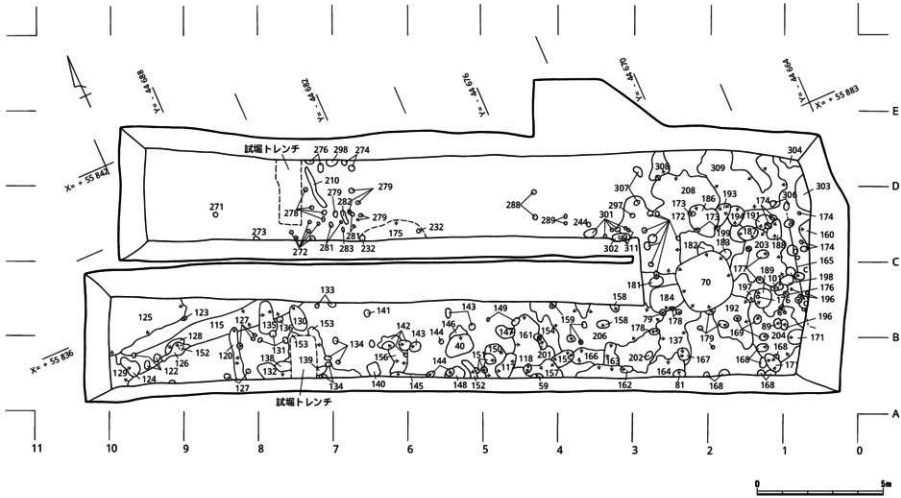
井上信正・中島恒次郎・高橋学 2004『大宰府条坊跡22』太宰府市教育委員会



第44図　大宰府条坊跡第168次調査比較（1/800）



第 45図　大宰府条坊跡第 263次調査第　面遺構配置図（ 1/ 150 ）



第 46図　大宰府条坊跡第 263次調査第　面遺構配置図 (1/ 150)

大宰府条坊跡第 263次調査　溝・柵列の主要遺構の座標・方位一覧

遺構名	計測位置	X 座標	Y 座標	政庁南門中点からの距離　m		遺構の方位
				南北距離　x	東西距離　y	
263SD015	東端任意中点	55834 700	- 44689 010	- 872 618	140 459	N - 87 28 59 - W
	西端任意中点	55834 820	- 44691 740	- 883 902	137 728	
263SD018	北端任意中点	55834 720	- 44690 110	- 884 241	139 359	N - 09 21 59 - E
	南端任意中点	55833 750	- 44690 270	- 885 176	139 208	
263SD019	北端任意中点	55833 300	- 44690 250	- 874 031	139 233	N - 11 12 03 - E
	南端任意中点	55832 290	- 44690 450	- 875 042	139 043	
263SD020	東端任意中点	55831 530	- 44681 050	- 875 708	148 450	N - 89 16 13 - E
	西端任意中点	55831 450	- 44687 330	- 875 851	142 171	
263SD021	北端任意中点	55833 580	- 44685 780	- 873 706	143 700	N - 00 58 36 - E
	南端任意中点	55831 820	- 44685 750	- 887 762	143 748	
263SD023	北端任意中点	55834 700	- 44688 200	- 884 545	141 269	N - 01 43 31 - E
	南端任意中点	55831 380	- 44688 300	- 875 931	141 202	
263SD025	東端任意中点	55830 780	- 44679 320	- 876 441	150 188	N - 88 36 25 - W
	西端任意中点	55830 950	- 44686 310	- 876 341	143 196	
263SD085	東端任意中点	55830 230	- 44678 150	- 876 979	151 363	N - 89 21 35 - E
	西端任意中点	55830 150	- 44685 310	- 877 131	144 204	
263SD090	東端任意中点	55828 200	- 44665 800	- 878 886	163 733	N - 85 39 24 - E
	西端任意中点	55827 100	- 44677 650	- 880 104	151 894	
263SD095	北東端任意中点	55832 500	- 44688 150	- 874 609	161 340	N - 28 54 53 - E
	南西端任意中点	55825 530	- 44672 000	- 881 618	157 560	
263SD 100	東端任意中点	55828 850	- 44665 580	- 878 233	163 946	N - 85 45 49 - E
	西端任意中点	55828 550	- 44669 630	- 878 574	159 899	
263SD 105	東端任意中点	55826 900	- 44666 200	- 880 190	163 346	N - 88 31 52 - W
	西端任意中点	55827 000	- 44670 100	- 880 129	159 445	
263SD 110	北端任意中点	55832 100	- 44671 100	- 875 039	158 394	N - 06 08 48 - W
	南端任意中点	55829 500	- 44670 820	- 877 636	158 700	
263SD 113	北西端任意中点	55829 670	- 44672 050	- 877 478	157 468	N - 35 32 16 - W
	南東端任意中点	55828 900	- 44671 500	- 878 243	158 026	
263SD 115	東端任意中点	55834 100	- 44686 670	- 873 195	142 805	N - 90 00 00 - E・W
	西端任意中点	55834 100	- 44693 550	- 884 352	135 925	
263SD 120	北端任意中点	55833 820	- 44688 620	- 873 494	140 858	N - 12 49 44 - E
	南端任意中点	55831 800	- 44689 080	- 875 519	140 418	
263SD 195	東端任意中点	55832 650	- 44669 760	- 874 475	159 728	N - 84 13 37 - E
	西端任意中点	55832 100	- 44675 200	- 875 080	154 294	
263SD 200	東端任意中点	55834 300	- 44673 870	- 872 867	155 602	N - 85 50 46 - W
	西端任意中点	55834 430	- 44675 660	- 872 755	153 811	
263SD 210	北端任意中点	55838 530	- 44683 340	- 868 732	146 090	N - 05 20 49 - W
	南端任意中点	55836 500	- 44683 150	- 870 760	146 300	
263SA 045	東端任意中点	55829 100	- 44677 730	- 878 105	151 794	N - 79 30 42 - W
	西端任意中点	55830 270	- 44684 050	- 876 998	145 463	
263SA 050	東端任意中点	55829 390	- 44678 480	- 877 823	151 041	N - 86 25 25 - W
	西端任意中点	55829 750	- 44684 240	- 877 520	145 278	
263SA 055	東端任意中点	55827 850	- 44671 830	- 879 453	156 827	N - 86 20 00 - E
	西端任意中点	55827 470	- 44677 760	- 879 887	150 900	
263SA 060	東端任意中点	55826 030	- 44668 820	- 881 086	160 735	N - 88 42 28 - W
	西端任意中点	55826 150	- 44674 140	- 881 019	155 414	
263SA 065	東端任意中点	55829 650	- 44665 460	- 877 432	164 058	N - 88 22 18 - W
	西端任意中点	55829 820	- 44671 440	- 877 322	158 077	
263SA 080	北端任意中点	55829 690	- 44668 550	- 877 432	160 968	N - 22 39 22 - E
	南端任意中点	55824 060	- 44670 900	- 883 076	158 674	
263SA 165	北端任意中点	55828 960	- 44666 660	- 878 134	162 865	N - 14 16 11 - E
	南端任意中点	55825 500	- 44667 540	- 881 603	162 020	
263SA 205	東端任意中点	55826 300	- 44669 660	- 880 824	159 892	N - 88 48 08 - E
	西端任意中点	55826 420	- 44675 400	- 880 762	154 151	

数値は小数点以下第 4 位を四捨五入している。
政庁南門中点は、X = 56,708.680、Y = 44,820.730　国土座標第　系　である。
政庁南門中点からの距離は、政庁中軸線の振れ　G .N .D 34 24 E

大宰府条坊跡第263次調査　遺構番号台帳　1

S番号	遺構番号	種　別	重複関係　旧　新	覆土　旧　新	時　期	地区番号	備　考	遺構図
1		小穴群		暗灰色土	期一	B9	穴はS 30に変更	
2		小穴群	5　3　2	暗灰色土	期一	A9・10		
3		小穴	5　3　2	暗灰色土		A9		
4		撹乱		褐灰色土		B8・9		
5		たまり	5　3　2	暗灰色土		A・B9・10		
6		小穴群		暗灰色土		A9	穴はS 30に変更	
7		小穴群	18　7	暗灰色土	期一	A8		
8		小穴群	31　19　8	暗灰色土	6期	A8		
9		小穴群	18　9	暗灰色土	期一	B8		
10	263SK010	土坑	15・17・23　30　10	暗灰色土	期一	B8		
11		小穴群	12　11	暗灰色土	8c一	A8		
12		小穴群	12　11	暗灰色土	8c一	A8		
13		小穴群		暗灰色土	期一	B7		
14		小穴群		暗灰色土	期一	A・B7		
15	263SD015	溝	18　15　30　10	暗灰色土	期一	B8・9		
16		小穴		暗灰色土	期一	A・B8	S 30に変更	
17		小穴群	30　17　10	暗灰色土	8c一	B8	穴はS 30に変更	
18	263SD018	溝	18　7・9・15・30	暗灰色土	8c中一	A・B8		
19	263SD019	溝	31　19　26　8	暗灰色土	8c一	A8		
20	263SD020	溝　道路側溝	25・43・44・46　20	黒灰色土	C期？	B5～A7		
21	263SD021	溝	24　21　20	暗灰褐色土	期一	B7		
22		小穴	23　22	暗灰色土	期一	B8		
23	263SD023	溝	32・33　23　10・22	暗灰褐色土	一	A・B7・8		
24		小穴	24　21	暗灰色土		B7		
25	263SD025	溝　道路側溝	25　20・34・36・96	暗灰色土	9前一	B5～A7		
26		小穴	31　19　26	暗灰色土		A8		
27		小穴群		暗灰色土	8c一	B7		
28		小穴群		暗灰色土	期一	B6		
29		小穴		暗灰色土	期一	A7		
30	263SB030	建物跡	18　15　30　10・17・31	暗灰色土	期一	A・B8・9	S 1・6・16・17・49・63が変更	
31		たまり	30　31　19　26　8・31	暗灰褐色土	8c一	A8		
32		小穴	32　23	暗灰色土	8c一	B8		
33		小穴群	33　23	暗灰色土	9後一	A7・8		
34		小穴群	25・85　34	暗灰色土	8c一	A・B5・6		
35		溝？	85　35　42・48・50・64	暗灰色土		A5～7		
36		小穴	25　36	暗灰色土		A6		
37		小穴	85　45b旧37	暗灰色土		A5	S 45Bに変更	
38		小穴群	111　38	暗灰色土	期一	A5	穴はS 50Bに変更	
39		小穴	50a・85　45a旧39	暗灰色土		A6	S 45Aに変更	
40	263SK040	土坑	85　40　50c・64	暗灰色土　青灰色粘土 暗灰色粘土　暗灰褐色土		A5		
41		小穴		暗灰褐色土	8c一	A6	S 50Aに変更	
42		小穴群	111　35　42	暗灰色土	8c一	A5	穴はS 45Aに変更	
43		小穴群	43　20　50	暗灰色土	期一	B5・6		
44		小穴	44　20	暗灰色土	8c一	A6		
45	263SA045	柵列	111　112　85　35　50・61　45	暗灰色土・暗灰褐色土	期一	A4～6	S 37・39・42・51・57Dが変更	
46		小穴群	46　20	暗灰色土	8c一	B5		
47		小穴群		暗灰色土		A7		
48		小穴	85　35　48	暗灰色土	期一	A6		
49		小穴	31　30a旧49	暗灰色土		A8	S 30Aに変更	
50	263SA050	柵列	35・40・111・112・140　50　45	暗灰色土		A4～6	S 38・41・51・54Dの1穴が変更	
51		小穴群	111　51	暗灰色土	8c一	A5	穴がS 45Aに・穴がS 50Aに変更	
52		小穴群	53　52	暗灰褐色土		A4		
53		小穴	111　53　52	暗灰色土	8c一	A4		
54		小穴群	56　54	暗灰色土		B4	穴がS 50Aに変更	
55	263SA055	柵列	102　55	暗灰色土　暗灰褐色土	平安前一	A・B2～4	S 51・66・68・72Dそれぞれ穴が変更	
56		小穴群	85　56　54	暗灰色土		B4		
57		小穴	61　45e旧57	暗灰褐色土		B4	S 45Eに変更	
58		小穴		暗灰褐色土	期一	A4		
59		小穴群	111・117　74　59	暗灰色土	9c一	A4		
60	263SA060	柵列	78・99　60	暗灰色土　暗灰褐色土	期一	A・B1・2		
61		小穴群	61　45	暗灰色土		B4		
62		小穴群	90　62　73	暗灰色土		A4		
63		小穴	18　30d旧63	暗灰色土		B8	S 30dに変更	
64		小穴	35・40　64	暗灰色土		A5		
65	263SA065	柵列	97　65	暗灰色土　暗灰褐色土	9c一	C0～2		
66		小穴群	67・102　66	暗灰褐色土		A3	穴がS 59Aに変更	
67		小穴	67　66	暗灰色土		B3		
68		小穴群	102　68　79	暗灰褐色土	8c一	B3	穴がS 55dに変更	
69		小穴		暗灰褐色土		B3		

大宰府条坊跡第263次調査　遺構番号台帳　2

S番号	遺構番号	種　別	重複関係　旧　新	覆土　旧　新	時　期	地区番号	備　考	遺構図
70	263SE070	井戸	90・95・99・100・105・110・113　70	灰色粘土　灰色土　灰黄色土　黒灰色粘土　青灰色土　黒灰色土　暗灰色土　黒灰褐色土	12世紀～C期	B・C1・2		
71		小穴群		暗灰色土		A3		
72		小穴群	83　72	暗灰色土	期～	A3	穴がS 205dに変更	
73		小穴	62　73	暗灰褐色土	8c～	A4		
74		たまり？	111・117　74　59	暗灰色土		A4・5	S 33cに隣接する可能性あり	
75		小穴		暗灰褐色土		B0		
76		小穴群		暗灰褐色土	9c～	A2	穴がS 60dに、穴がS 205dに変更	
77		小穴群		暗灰色土		B2	穴がS 55d・dに変更	
78		小穴群	114　78　60	暗灰色土		A2		
79		小穴群	68・81・90　79	暗灰褐色土	期以降	B2・3		
80	263SA080	柵列	90　80	暗灰色土　暗灰褐色土	9c～	A～D1		
81		小穴群	81　79	暗灰色土	9c～	A2		
82		小穴	116　82	暗灰色土	9c～	A1		
83		たまり	86　83　205a 旧72	暗灰色土		A2・3		
84		小穴群		暗灰褐色土	9c～	A0		
85	263SD085	溝　道路側溝	111・112　85　34・35・40・45・48・56・96	黒灰褐色土	期～	A・B4～7		
86		小穴	86　83	暗灰褐色土		A3		
87		小穴群	90・100　87	暗灰褐色土	9c～	C0・1		
88		小穴群		暗灰褐色土	期～	A1		
89		小穴群	105　101　89	暗灰褐色土	期～	B1		
90	263SD090	溝	95・105・108・114　90　62・79・87・92・93　70	暗灰色土	9c～	A4～C0		
91		小穴群	110	暗灰褐色土		C2		
92		小穴群	90　92	暗灰褐色土	9c～	C1		
93		小穴群	105　90・101　93	暗灰褐色土	9c～	B1		
94		小穴群		暗灰褐色土	9c～	A・B0・1		
95	263SD095	溝	106・110・205c 107・231・238・261　95　70・90	黒灰色土	9c～	A～C1・2		
96		小穴	25・85　96	暗灰褐色土		A7		
97		小穴群	97　65・113	暗灰褐色土	8c～	C2		
98		小穴群	99　98	暗灰褐色土	9c～	B0・1	穴がS 205dに変更	
99		小穴群	99　60c・70・98	暗灰褐色土		B1		
100	263SD100	溝	119　100　70・87・90	暗褐灰色土	10c後～	C0・1		
101		小穴群	105　101　89・93	暗灰褐色土	9c～	B1		
102		たまり	55・66・68　102	暗灰褐色土		A・B3		
103		たまり	104　103	暗灰褐色土	9c～	C1		
104		小穴群	104　103	褐灰色土	9c～	C1		
105	263SD105	溝	108・121　105　70・89・90・93・101	暗褐灰色土	8中～	B・C0・1		
106		小穴群	106　95	暗灰褐色土		C2		
107		小穴群		暗灰褐色土		B2	穴がS 205dに変更	
108		小穴	108　105　90	暗褐灰色土		C0		
109		小穴		黒灰色土		B1		
110	263SD110	溝	110　70・95・195	暗灰褐色土	8中～	C2		
111	263SX111	たまり	118　111　35・38・40・42・46・50・51・53・59・64・74・85・112	暗灰褐色土	期～	A4～6		
112		たまり	111　112　40・45・50・85	黒灰色土		A・B4・5		
113	263SD113	溝	97　113　70	暗灰色土	9c～	B2		
114		小穴	114　78・90	黒灰色土		A2・3		
115	263SD115	溝	136　115　120・122・124～126・128・129・130・135・152	暗灰色土		B7～9		
116		小穴	116　82	暗灰色土	8c～	A1		
117	263SK117	土坑	117　74　59	青灰色粘土　暗灰色粘土　暗灰褐色粘土	古墳前期～	A4		
118		小穴	118　111	暗褐灰色土		A4		
119		小穴群	119　100	黒灰色土	期～	C0・1		
120	263SD120	溝	115　120　127	灰黄褐色土		A・B8		
121		小穴	121　105	暗灰色土		B1		
122		小穴群	115　122	灰褐色土		A9		
123		小穴	125　123	灰褐色土		B8・9		
124		たまり	115・129　124	灰褐色土		A9		
125	263SX125	たまり	129　125　123	暗灰色土	期～	A・B9		
126		たまり	115・128・152　126	明灰褐色土	8c～	A8・9		
127		小穴群	120　127	灰褐色土		A・B8		
128	263SX128	たまり	115　128　126	灰褐色土		A9		
129	263SX129	たまり	129　124・125	灰褐色土	期～	A9		
130	263SK130	土坑	115　130	黒灰色砂　灰白色粘土　灰色粘土　灰褐色土	布留式古段階	B7		
131		小穴群	135・153　131	灰褐色土		A・B7		
132		たまり	138　132	暗灰黄褐色土	古墳前期以降	A7		

大宰府条坊跡第 263次調査　遺構番号台帳　3

S番号	遺構番号	種　別	重複関係　旧　新	覆土　旧　新	時　期	地区番号	備　考	遺構図
133		小穴群		灰黄褐色土		B6・7		
134		小穴群	153　139　134	暗灰褐色土		A6・7		
135		土坑	115　135　131	灰色粘土　暗灰褐色土	古墳前期～	B7		
136		小穴	136　115	褐灰色土		B7		
137		たまり	137　70・79・164・167・178・184・206	暗灰褐色土		A・B2		
138		たまり	153　138　132	灰黄褐色土		A7		
139		たまり	153　139　134	暗灰黄褐色土		A7		
140		土坑		灰色土		A6		
141		小穴		灰褐色土	期～	B6		
142		小穴群	156　142　143	灰褐色土		A6		
143		小穴群	142　143	灰褐色土		A・B5		
144		小穴群	145・148　144	灰褐色土		A5		
145		たまり	156　145　144	暗灰色土		A5・6		
146		たまり	146　40	灰褐色土		B5		
147		たまり	161　147	灰褐色土		B4		
148		土坑	148　144	灰色土		A5		
149		小穴群	161　149	灰褐色土		B4		
150		たまり	150　117・151	暗灰色土		A4		
151		小穴群	150　151　152	暗灰褐色土		A4・5		
152		小穴	151　152	灰色土		A9		
153		たまり	153　134・138・139	灰褐色土		A6・7		
154		小穴	201　154	灰色土		A4		
155		土坑	161・166・206　155　157	灰色土		A3・4		
156		たまり	156　142・145	灰褐色土		A6		
157		たまり	161　155　157　59・118	暗灰褐色土		A3・4		
158		小穴群	206　158	褐灰色土		B3		
159		小穴群	206　159	灰色土	期～	A・B3・4		
160		土坑		灰色土		C0		
161		たまり	161　117・118・147・148・154・155・157・201	灰色土		A・B4		
162		小穴	164　162	暗灰色土		A3		
163		たまり	166・206　163　164	暗灰色土		A3		
164		たまり	137・163・166　164　81・162・167	暗灰褐色土		A2・3		
165	263SA 165	柵列	196・207　165　75	灰褐色土		A～C0		
166		たまり	206　166　155・163・164	灰褐色土		A3		
167		小穴	137　164　167	灰褐色土		A2		
168		小穴群	204　168　171	褐灰色土		A1		
169		小穴群	204　192　169　89	灰褐色土		A・B0・1		
170	263SB 170	掘立柱建物	245　243　170	暗灰色土　黒灰色土	期～	C・D7～9		
171		小穴群	204　168　171	褐灰色土		A0・1		
172		小穴群	208　172	褐灰色土		B・C2		
173		小穴群	208　193　186　173	灰褐色土		C1・2		
174		小穴群	188・191　174	暗灰褐色土		C0・1		
175	263SE 175	井戸	232　236・245　175	灰色土　黒灰色土	期～	C5・6		
176		小穴群	189・198・204　176	暗灰色土	8c～	B0・1		
177		小穴群	203　177	灰褐色土		B・C1		
178		小穴群	137・184・206　178	褐灰色土		B2		
179		小穴群	192　179　70	褐灰色土		A・B1・2		
180	263SE 180	井戸	264・292・293　180　218・219	暗灰色土　黒灰色土		C4・5		
181		土坑	181　172	黒灰色土		B2		
182		たまり	182　70	灰褐色土		C1・2		
183		小穴	183　70	灰褐色土		C1		
184		たまり	137・206　184　178　70・79	灰褐色土		B2		
185	263SK 185	土坑	200　185	灰色土　黒灰色土		C・D3		
186		たまり	193・208　186　173	灰黄褐色土		C1・2		
187		土坑	199・203　187	灰褐色土		C1		
188		土坑	203　191　188　174	灰褐色土		C1		
189		土坑	204　197　189　176	灰褐色土		B1		
190	263SK 190	土坑	200　190　216・221・222	灰黄色土　暗灰色土　黒灰色土	期～ 8c後	C4		
191		土坑	203　188・191　174	灰褐色土		C1		
192		たまり	204　197　192　169・179　70	灰黄褐色土		A・B1		
193		土坑	194・208・309　193　186　173	暗灰色土		C1		
194		土坑	199・309　194　193	暗灰色土		C1		
195	263SD 195	溝	110・284・291・299・313　195　241　239	黒灰色土	12c～	D2～C4	S 20と同一か？	
196		小穴群	196　165d　75	暗灰色土		B0		
197		土坑	204　197　189・192	灰褐色土	弥生後期～	B1		
198		土坑	207　198　101・176	灰褐色土		B0・1		
199		土坑	199　187・194	灰褐色土		C1		
200	263SD 200	溝	269　200　185・190・216・266	灰褐色土	7c後～ 8c前	D3・4		
201	263SX 201	小穴	161　201　154	灰色土	弥生後期中頃～	A・B4		
202		小穴		灰色土	9c～	A2		
203		たまり	207　203　101・177・187・188・191　70	暗灰褐色土		B・C1	粘土採掘坑か？	

大宰府条坊跡第263次調査　遺構番号台帳　4

S番号	遺構番号	種　別	重複関係　旧　新	覆土　旧　新	時　期	地区番号	備　考	遺構図
204	263SX 204	たまり	204 168・169・171・176・189・192・197　89	暗灰黄褐色土	弥生後期一	A・B0・1	粘土採掘坑か？	
205	263SA 205	柵列	83　205　95	暗灰色土・暗灰褐色土	9c～？	A3～B1	S 72・76・98・102の穴がS 205に変更	
206	263SX 206	たまり	137　206　155・158・159・163・166・178・184　79	暗灰褐色土	弥生後期後半～	A・B2～4	粘土採掘坑か？	
207		小穴群	207　101・165・198・203	暗灰褐色土		B0・1		
208		たまり	208　172・173・186・288・297・301・302・307・308・309・311　70	暗灰褐色土		B～D1・2		
209		小穴	244　209	褐色土	7後一	D9		
210		溝		暗灰色土		C・D7		
211		小穴群	242・245・246　211	黒灰色土		C8		
212		小穴群	244・245　212	暗灰褐色土	8c～	C・D8・9		
213		小穴群	245　213　212	暗灰色土	8c～	C・D8		
214		小穴		暗灰色土		D6・7		
215	263SF 215	道路				A～E0～7		
216		撹乱	190・200・247・252・255・266・277　216	青灰色土		C4～D6		
217		撹乱	220　217	青灰色土		C6		
218		撹乱	180・219・233　218	青灰色土		C5		
219		撹乱	180・234　219　218	褐色土		C5		
220		欠番						
221		撹乱	190　221	青灰色土		C4		
222		撹乱	190　222	青灰色土		C4		
223		たまり		灰褐色土		D0		
224		小穴群		褐灰色土		D1		
225		欠番						
226		小穴群	229　226	褐灰色土		C6		
227		小穴群		褐灰色土		C・D5		
228		小穴群		暗灰色土		C7		
229		小穴	229　217・226	灰褐色土	鎌一	C6		
230		欠番						
231		小穴	231　95	暗灰色土	9c～	D1		
232		小穴群	232　175	暗灰色土		C5・6		
233		小穴群	234　233　218	褐灰色土		C5		
234		小穴群	234　219・233	褐灰色土		C5		
235		欠番						
236		溝？	236　175・237	褐灰色土		C5・6		
237		撹乱	236　277　237	灰褐色土		C5		
238		小穴群	238　95	灰褐色土		C・D2		
239	263SX 239	小穴	195　241　239	黒灰褐色土	10c～	C3		
240		欠番						
241		小穴	195　241　239	黒灰褐色土		C3		
242		小穴	273　245　242　211	暗灰色土　暗褐色土		C8		
243		たまり	246　245　243　170	暗灰色土	8c～	C9	S 243・244・245・246は同一遺構	
244		たまり	244　245　209・212	暗灰色土	8前一	C・D8・9	S 243・244・245・246は同一遺構	
245	263SX 245	たまり	273　244・246　245　243　170・175・211～214・228・242	暗灰色土	8前一	C・D6～9	S 243・244・245・246は同一遺構	
246		たまり	246　245　243　211	暗褐色土	7後一	C8～9	S 243・244・245・246は同一遺構	
247		たまり	247　216	褐灰色土		D5		
248		小穴群	253・254　248	褐灰色土	近世一	C0・1		
249		小穴	261　249	褐灰色土		C・D1		
250		欠番						
251		小穴		灰褐色土	8c～	D5		
252		小穴	252　216	褐灰色土		D5		
253		たまり	253　248	灰褐色土		D1		
254		小穴	254　248	灰褐色土		C1		
255		小穴	256　255　216	褐灰色土		D4		
256		小穴	256　255　216	褐灰色土		D4		
257		小穴	258　257	褐灰色土		D4		
258		小穴	258　257	黒灰色土		D4		
259		小穴	296　259	黄褐色土		D3		
260		欠番						
261		小穴	261　95・249	暗灰色土	8c～	D1・2		
262		小穴群	313　262	黒灰色土	8後一	D2・3		
263		小穴群	264　263	暗灰色土	9c～	C4		
264		たまり	264　180・263	灰褐色土	9c～	C4		
265		欠番						
266		たまり	200　266　216・287	灰褐色土		D4		
267		小穴群		灰褐色土		D4		
268		たまり		灰褐色土		D4		
269		たまり	269　200	灰褐色土	8c～	D4		

大宰府条坊跡第263次調査　遺構番号台帳　5

S番号	遺構番号	種　別	重複関係　旧　新	覆土　旧　新	時　期	地区番号	備　考	遺構図
270		欠番						
271		小穴		暗灰色土	7世～	C8		
272		小穴群		暗灰色土		C7		
273		小穴		暗灰色土		C8		
274		小穴群		暗灰色土		D6		
275		欠番						
276		小穴群		暗灰色土		D7		
277		攪乱	292　277　216・237	褐灰色土	現代	C5		
278		小穴群		暗灰色土		C7		
279		小穴群	281　279	暗灰色土	7世～	C6		
280		欠番						
281		小穴群	281　279	暗灰色土		C6		
282		たまり		暗灰色土		C6		
283		小穴		暗灰色土		C6		
284		小穴	208　308　284	暗灰色土		D2		
285		欠番						
286		小穴群		褐灰色土		C・D4・5		
287		小穴	287　266	暗灰色土		D4		
288		小穴群		暗灰色土	8c～	C4		
289		小穴群		暗灰色土		C3		
290		欠番						
291		小穴	291　195	黒灰色土		C3		
292		小穴	293　292　180・277	黒灰色土		C5		
293		小穴	293　292　180	褐灰色土		C5		
294		小穴		暗灰褐色土		C3		
295		欠番						
296		小穴群	296　259	灰褐色土	磨一	D3		
297		小穴	208　297	暗灰色土		C3		
298		小穴		暗灰色土		D6・7		
299		小穴	299　195	暗灰色土		C4		
300		欠番						
301		小穴群	208　301	暗灰色土	9c～	C3		
302		小穴	208・311　302	暗灰色土		C3		
303		たまり		灰褐色土		C・D0		
304		たまり		灰褐色土		D0・1		
305		欠番						
306		小穴群	309　306	暗灰色土		C0・1		
307		小穴群	208　307	暗灰色土		C・D2		
308		たまり	208　308　284	暗灰色土		D2		
309		たまり	208　309　193・194・306	灰褐色土	弥生～	C・D1・2		
310		欠番						
311		小穴群	208　311　302	灰色土		C3		
312		整地層		暗灰黄褐色土		A10～D3	調査区西側	
313		整地層		暗灰黄褐色土		B～D2・3	調査区東側	

大宰府条坊跡第263次調査　出土遺物一覧表　1

S－1 暗灰色土	
須恵器 | 大坏、蓋３ |
土師器 | 坏ａ、椀？、供膳具 |
黒色土器Ａ | 椀ｃ 白色系胎土 |
瓦類 | 平瓦　丸瓦　縄目叩、土師質 |
S－2 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏、壺ｅ、大甕 |
土師器 | 坏ａ、椀ｃ、甕ａ？、鍋ｂ？ |
S－4 褐灰色土 | |
土師器 | 破片 |
S－5 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ｃ３ 蓋ｃ、蓋３ 大皿　鉢、鉢 篠屎系 、鉢ｂ、壺、壺ａ　ｂ　鍋、大甕 |
土師器 | 坏ｃ３ 坏ｄ、椀ｃ、鍋ｂ、鍋　鉢　外来系？ |
瓦類 | 平瓦　縄目叩、瓦質 |
S－6 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ｃ３　４ 鍋 |
土師器 | 椀、鍋ａ？ |
S－7 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ｃ３ 壺？、鍋 |
土師器 | 坏ａ、椀 |
石製品 | ｄｂＦ |
S－8 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ａ　皿ａ、蓋３ 鍋 |
土師器 | 坏ａ、坏ｄ、椀ｃ、皿 |
黒色土器Ａ | 椀ｃ |
瓦類 | 平瓦　格子叩、土師質 |
白磁 | 椀；　１ |
S－9 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ｃ３ 蓋３ 鍋 |
土師器 | 坏ａ、鍋 |
黒色土器Ａ | 椀ｃ |
S－10 暗灰色土 | |
須恵器 | 蓋ｃ、鍋 |
土師器 | 椀ｃ、皿　鉢 |
S－11 暗灰色土 | |
須恵器 | 供膳具 |
土師器 | 供膳具 |
S－12 暗灰色土 | |
土師器 | 供膳具 |
S－13 暗灰色土 | |
須恵器 | 供膳具 |
土師器 | 坏ａ、坏ｄ、小皿ａ　イト |
黒色土器Ｂ | 椀ｃ |
瓦類 | 破片　瓦質 |
土製品 | 焼土塊 |
S－14 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏、蓋？ |
土師器 | 供膳具 |
黒色土器Ｂ | 椀 |
白磁 | 椀；破片　１ |
S－15 暗灰色土 | |
須恵器 | 皿 |
土師器 | 坏ａ |
瓦類 | 丸瓦　瓦質 |
土製品 | 焼土塊 |
S－16 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏、鍋、供膳具 |
土師器 | 坏ａ、椀ｃ、大皿　鉢、鍋ａ |
瓦類 | 平瓦　縄目叩、瓦質 、丸瓦　須恵質 |
石製品 | 台石？　花崗岩 |
S－17 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ａ、鍋 |
土師器 | 鍋、供膳具 |
S－18 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ａ、蓋３ 鉢？、鍋 |
土師器 | 坏ｃ３ 壺ａ |
S－19 暗灰色土 | |
土師器 | 坏ｃ　椀ｃ |
S－20 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ｃ３ 蓋３ 鉢ａ、壺ｂ、壺ｄ　ｆ、壺ｅ？、鍋 |
土師器 | 坏ａ、大坏ｃ、椀ｃ、鍋ａ、鍋？ |
黒色土器Ａ | 椀 |
瓦類 | 平瓦　格子叩、瓦質　３ 、平瓦　格子叩、土師質　１ 、平瓦　格子叩　鍋、瓦質　１ |
白磁 | 椀？；破片　１ 、壺他；器種不明　１ |
S－2 褐灰色土 | |
須恵器 | 蓋 |
土師器 | 皿ａ、供膳具 |
黒色土器Ａ | 破片 |
S－2 暗灰色土 | |
須恵器 | 鍋、供膳具 |
土師器 | 坏、皿、供膳具 |
黒色土器Ｂ | 破片 |
S－2 暗灰色土 | |
須恵器 | 蓋 |
土師器 | 皿ａ、供膳具 |
黒色土器Ａ | 破片 |
S－2 暗灰色土 | |
須恵器 | 鍋、供膳具 |
土師器 | 坏、皿、供膳具 |
黒色土器Ｂ | 破片 |
土製品 | 焼土塊 |
S－2 褐灰色土 | |
須恵器 | 蓋１ 長頸壺　古墳 、供膳具 |
土師器 | 鍋、鍋ｂ、供膳具、破片　角閃石 |
土製品 | 焼土塊 |
S－2 灰色土 | |
須恵器 | 蓋３ 供膳具 |
土師器 | 椀、供膳具、煮炊具 |
黒色土器Ａ | 破片 |
木製品 | 木炭 |
S－2 暗灰色土 | |
土師器 | 坏ｄ、供膳具、煮炊具 |
土製品 | 焼土塊 |
S－2 暗灰色土 | |
須恵器 | 鍋 |
土師器 | 供膳具、煮炊具 |
黒色土器Ａ | 供膳具 |
黒色土器Ｂ | 破片 |
S－2 暗灰色土 | |
須恵器 | 蓋３ |
土師器 | 供膳具 |
瓦類 | 丸瓦　平瓦　格子叩、瓦質　１ |
S－30f 暗灰色土 | |
須恵器 | 蓋３ |
土師器 | 供膳具 |
S－3 暗灰褐色土 | |
須恵器 | 坏、蓋３ 壺、鍋 |
土師器 | 皿、鍋、供膳具、供膳具　油煙 |
瓦類 | 平瓦　土師質　１ |
S－3 暗灰色土 | |
須恵器 | 鍋 |
土師器 | 破片 |
S－3 暗灰色土 | |
土師器 | 供膳具、煮炊具 |
黒色土器Ａ | 破片 |
黒色土器Ｂ | 破片 |
鉄製品 | 鉄鏃　１ |
S－3 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏ｃ３ |
土師器 | 椀ｃ、皿、供膳具、煮炊具 |
金属製品 | 銅滓 |
S－3 暗灰色土 | |
須恵器 | 皿ａ、蓋３ 壺ｂ、壺ｅ　ｄ、鍋、供膳具、破片 |
土師器 | 坏ａ、鍋、供膳具、破片 |
黒色土器Ａ | 破片 |
土製品 | 焼土塊 |
S－3 暗灰色土 | |
須恵器 | 破片 |
土師器 | 鍋、供膳具 |
黒色土器Ａ | 供膳具 |
黒色土器Ｂ | 椀ｃ |
土製品 | 取瓶？　片口 |
S－4 暗灰褐色土 | |
須恵器 | 坏ａ、壺 |
土師器 | 椀ｃ、鍋、鍋　古式土師器 |
S－4 暗灰色砧土 | |
土師器 | 古式土師器鍋　西新式？ |
S－4 暗灰褐色土 | |
須恵器 | 鍋 |
S－4 暗灰色土 | |
須恵器 | 鍋 |
土師器 | 鍋？ |
S－4 暗灰色土 | |
土師器 | 供膳具 |
黒色土器Ｂ | 椀？ |
S－4 暗灰色土 | |
須恵器 | 蓋３ 壺、鍋 |
土師器 | 供膳具 |
S－45a 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏、蓋、鍋、大鍋 |
土師器 | 坏　椀、坏　小皿ａ |
瓦類 | 平瓦　縄目叩、瓦質　１ 、丸瓦　格子叩、須恵質　１ |
S－45b 暗灰色土 | |
須恵器 | 坏、鉢、破片 |

大宰府条坊跡第263次調査　出土遺物一覧表　2

土　師　器	供膳具
S－45e暗灰褐色土	
須　恵　器	坏C 3 皿a、壺 a　b
土　師　器	坏a　皿a　ヘラ？、鍋
S－46暗灰色土	
瓦　　類	平瓦　無文、土師質　1
S－47暗灰色土	
土　師　器	鍋
S－48暗灰色土	
須　恵　器	甑、蓋、蓋3 鍋、供膳具
土　師　器	坏a 椀 c、鍋　鉢　古式土師器 、供膳具
S－51暗灰色	
須　恵　器	蓋 1 壺　鉢、供膳具
土　師　器	供膳具
S－52暗灰褐色土	
土　師　器	古式土師器？
S－53暗灰色土	
土　師　器	鍋
S－55a暗灰褐色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
S－55e暗灰褐色土	
須　恵　器	鍋
土　師　器	高台、供膳具　白色系胎土
S－59暗灰色	
土　師　器	供膳具
瓦　　類	丸瓦　無文、瓦質　1
S－59暗灰褐色土	
土　師　器	鍋
瓦　　類	丸瓦　格子叩、瓦質　1
S－60a暗灰褐色土	
土　師　器	椀　坏　白色系胎土
S－60c暗灰色土	
土　師　器	鍋a、供膳具
黒色土器 A	供膳具
S－60d暗灰色土	
須　恵　器	供膳具
土　師　器	坏c、椀？　白色系胎土
S－61暗灰色土	
土　師　器	椀 c、高坏　古式土師器？
石　製　品	勾玉　緑色泥岩
S－62暗灰色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
瓦　　類	鐵片？
S－65b暗灰色土	
土　師　器	坏d、供膳具　白色系胎土
S－65c暗灰褐色土	
須　恵　器	小壺
土　師　器	供膳具　白色系胎土
瓦　　類	平瓦　格子叩、須恵質
S－65d暗灰褐色土	
黒色土器 A	椀 c
S－65d暗灰色土	
須　恵　器	甕、鍋
土　師　器	鍋
S－66暗灰褐色土	
土　師　器	坏d、脚付壺　鉢　生分類 、供膳具　白色系胎土
S－68暗灰褐色土	
須　恵　器	甕？
土　師　器	坏a、鍋
S－70暗灰褐色土	
須　恵　器	坏C
土　師　器	坏a、椀、煮炊具
瓦　　類	平瓦　格子叩、瓦質　1
須恵質土器	鉢　東播系、高台　2
白　　磁	椀；　- 1　1 、破片　華南系　1
中 国 陶 磁	壺；壺　耳壺D群　1
S－70暗灰色土	
須　恵　器	小壺、供膳具
黒色土器 A	椀 c
瓦　　類	丸瓦　無文、瓦質　1
木　製　品	用途不明加工品　4
S－70暗灰色土	
須　恵　器	甕、鍋

土　師　器	丸底坏a、鉢　盤、鍋、煮炊具
瓦　　類	平瓦　格子叩、須恵質　1 、丸瓦　格子叩、須恵質 1 、丸瓦　縄目叩、土師質　1 、軒丸瓦　瓦鐘
白　　磁	椀；破片　華南系　1 、壺他；壺　水注　1
砂 生 土 器	鍋、鍋鉢
S－70黒灰色土	
木　製　品	鍵杖の玉、杭
S－70灰黄色土	
須　恵　器	破片
土　師　器	坏　椀、坏　小皿、煮炊具
S－70灰色土	
須　恵　器	坏c、蓋　高坏、鍋
土　師　器	坏a、坏d、椀c、供膳具　ヘラ 、煮炊具　角閃石 、煮炊具
黒色土器 A	椀
瓦　　類	平瓦　格子叩、須恵質　1 、破片　無文、土師質　1
S－70黒灰色土	
須　恵　器	破片
土　師　器	破片
越州窯系青磁	椀；　- 2ウ　1
S－72暗灰色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
石　製　品	勾玉　緑色泥岩
S－72暗灰褐色土	
須　恵　器	鍋
土　師　器	坏　皿c、供膳具、煮炊具
S－73暗灰褐色土	
土　師　器	坏　椀、坏　椀c
黒色土器 A	供膳具
越州窯系青磁	椀；　- 5　1 、破片　2
瓦　　類	平瓦　格子叩、土師質
S－73暗灰褐色土	
土　師　器	鍋、供膳具
黒色土器 A	椀？
S－74暗灰色土	
須　恵　器	坏、供膳具
土　師　器	坏a、椀c、鍋、小鍋 a
瓦　　類	平瓦　格子叩、瓦質　1
砂 生 土 器	高坏、鍋　鉢鍋
金 属 製 品	鉛滓
S－74暗灰褐色土	
須　恵　器	坏c 3 蓋 3 鍋
土　師　器	椀c？、鍋
黒色土器 B	椀？
瓦　　類	平瓦　無文、須恵質　1
S－80a暗灰褐色土	
須　恵　器	坏、蓋 3
土　師　器	供膳具　白色系胎土
S－80b暗灰褐色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
S－80c暗灰褐色土	
須　恵　器	供膳具
土　師　器	供膳具
S－80d暗灰色土	
須　恵　器	供膳具
土　師　器	供膳具　白色系胎土
黒色土器 A	供膳具
S－81暗灰色土	
須　恵　器	蓋、小壺？、鍋
土　師　器	蓋 3
黒色土器 A	椀 c
瓦　　類	平瓦　縄目叩、瓦質　1
S－82暗灰色土	
須　恵　器	坏c 3 蓋 c、鍋
土　師　器	坏a、椀 c、鍋
石　製　品	チャ - ト原石
S－84暗灰褐色土	
土　師　器	椀 c、鍋？
S－85暗灰褐色土	
須　恵　器	高坏、鍋
土　師　器	坏a、椀 c、小皿 a 1 、鍋
黒色土器 A	椀 c
瓦　　類	平瓦　無文、瓦質　1
S－87暗灰褐色土	
須　恵　器	小蓋 3 壺 f、鍋、供膳具
土　師　器	坏a、椀 c、鍋
黒色土器 A	供膳具
瓦　　類	平瓦　格子叩、瓦質　1
灰 釉 陶 器	椀？　1
S－88暗灰褐色土	
土　師　器	椀　坏、鍋
黒色土器 A	供膳具
黒色土器 B	供膳具
S－89暗灰褐色土	
須　恵　器	蓋 3 壺 f、鍋

大宰府条坊跡第263次調査　出土遺物一覧表　3

土　師　器	椀c
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；　1
緑　釉　陶　器	椀　須恵質　　1　、皿　京都　　1
S－90階灰色土	
須　恵　器	坏c 3　坏　皿、蓋、蓋1 蓋3　横
土　師　器	坏c 3　椀c、碗、碗a
瓦　　類	平瓦　格子叩、須恵質　[1]　1　、平瓦　格子叩、瓦質　1　、丸瓦　格子叩、須恵質　[1]　1　、丸瓦　無文、瓦質　[1]　1
石　製　品	石斧？　泥岩？
弥　生　土　器	高坏
S－91階灰色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
S－92階灰色土	
須　恵　器	椀
土　師　器	供膳具
黒色土器A	供膳具
石　製　品	dbAP　1
S－93階灰褐色土	
須　恵　器	小壺、横
土　師　器	坏a、椀c、碗
S－94階灰褐色土	
須　恵　器	碗
土　師　器	坏a、椀c？
S－95階灰色土	
須　恵　器	坏c 3　蓋c、蓋3　横
土　師　器	椀c、碗
黒色土器A	椀c
瓦　　類	平瓦　格子叩、須恵質　2　、平瓦　格子叩、瓦質　1　、平瓦　縄目叩、須恵質　1　、平瓦　縄目叩、土師質　1　、平瓦　無文、土師質　1
S－96階灰褐色土	
土　師　器	供膳具
S－97階灰褐色土	
須　恵　器	蓋3　横
土　師　器	坏a、坏d
石　製　品	cbF　1
S－98階灰褐色土	
須　恵　器	碗、供膳具
土　師　器	小椀a、供膳具　白色系胎土
黒色土器A	椀？
S－99階灰褐色土	
土　師　器	破片
S－100階灰色土	
須　恵　器	碗
土　師　器	小皿a　白色系胎土
黒色土器A	坏
瓦　　類	平瓦　縄目叩、須恵質
石　製　品	andRF
S－101階灰褐色土	
須　恵　器	坏c 4　蓋3　碗
土　師　器	椀c、碗a、環状把手
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀；　1
緑　釉　陶　器	皿　須恵質　　1
S－102階灰褐色土	
須　恵　器	碗
土　師　器	坏　椀
石　製　品	円錐　花崗岩
S－103階灰褐色土	
須　恵　器	坏、蓋3
土　師　器	椀c
S－104階灰色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
黒色土器A	椀c
S－105階褐灰色土	
須　恵　器	坏c 3　壺b
土　師　器	碗、供膳具　白色系胎土含む
弥　生　土　器	破片
S－106階灰褐色土	
土　師　器	碗、供膳具　白色系胎土含む
S－107階灰褐色土	
土　師　器	坏a　白色系胎土、碗
S－110階灰褐色土	
須　恵　器	坏a
土　師　器	坏c 3　蓋3　横
S－111階灰褐色土	
須　恵　器	坏c 3　蓋、横
土　師　器	坏　赤色顔料塗布、碗、供膳具
S－112階灰色土	
土　師　器	碗、供膳具
石　製　品	碁子　白色
S－113階灰色土	
土　師　器	坏a　白色系胎土含む
S－114階灰色土	
須　恵　器	供膳具
土　師　器	坏a、碗、供膳具　白色系胎土含む
S－116階灰色土	
須　恵　器	横
土　師　器	坏a
S－117階灰色粘土	
土　師　器	古式土師器　西新式
S－118階褐灰色土	
須　恵　器	壺、供膳具
土　師　器	供膳具　白色系胎土含む
S－119階灰色土	
土　師　器	坏a　白色系胎土、椀c、碗？
黒色土器A	供膳具
黒色土器B	供膳具
瓦　　類	平瓦　格子叩、瓦質　[1]
S－122灰褐色土	
土　師　器	碗
S－124灰褐色土	
土　師　器	碗、供膳具
S－125階灰色土	
須　恵　器	蓋1、蓋3
土　師　器	蓋3　碗a 1　未分類　平城京坏A か？
S－126明灰褐色土	
須　恵　器	供膳具
S－128灰褐色土	
石　製　品	andAP　1
S－129	
須　恵　器	蓋3　壺b、横、供膳具
土　師　器	椀、椀c、供膳具
瓦　　類	丸瓦　無文、瓦質　1
石　製　品	cbF　1
土　製　品	土錘　1
S－130灰色粘土	
土　師　器	蓋3　丸底壺、古式土師器壺
S－131階灰色土	
須　恵　器	碗、供膳具
土　師　器	供膳具
黒色土器A	供膳具
緑　釉　陶　器	壺？　1
S－132階灰褐色土	
土　師　器	古式土師器壺
S－134階灰褐色土	
土　師　器	破片　白色系胎土
S－135階色粘土	
土　師　器	古式土師器丸底壺
S－137階灰褐色土	
土　師　器	古式土師器壺、供膳具
S－141灰褐色土	
須　恵　器	供膳具
土　師　器	小皿a、供膳具
黒色土器A	供膳具
S－142灰褐色土	
土　師　器	破片
S－143灰褐色土	
須　恵　器	蓋3　碗
土　師　器	破片　白色系胎土
S－146灰褐色土	
須　恵　器	破片
土　師　器	椀a、壺状鼎、破片、古式土師器破片
S－150階灰色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
S－151階灰褐色土	
土　師　器	坏　椀、碗？
S－153階灰色土	
弥　生　土　器	破片
S－155階色土	
須　恵　器	蓋　高坏
土　師　器	椀　坏　白色系胎土、破片　白色系胎土
黒色土器A	供膳具
石　製　品	cbF　1
S－165a灰褐色土	
弥　生　土　器	甕
S－170a黒灰色土	
土　師　器	高台、碗？
S－170a暗灰色土	
土　師　器	供膳具　白色系胎土
S－170b黒灰色土	
須　恵　器	破片
土　師　器	坏　椀、椀
S－170b暗灰色土	
土　師　器	坏　椀、小皿a1　碗a　角閃石、供膳具　白色系胎土

大宰府条坊跡第263次調査　出土遺物一覧表　4

S－170c黒灰色土

土師器	椀c 供膳具

S－171明灰色土

土師器	破片

S－172褐灰色土

須恵器	坏、壺
土師器	坏、坏d、高台、椀、供膳具 白色系胎土含む
弥生土器	甕 後期

S－173灰褐色土

土師器	供膳具
その他	タイル

S－174褐灰褐色土

土師器	古式土師器？、破片

S－175黒灰色土

須恵器	坏、坏c３ 脚付壺 未分類 、椀、供膳具
土師器	椀？、小皿a、椀
越州窯系青磁	椀； 1
瓦類	平瓦 縄目叩、瓦質 1 、平瓦 不明、土師質 1 、丸瓦 無文、土師質 1 、破片 縄目叩、瓦質 1

S－175灰色土

須恵器	蓋、蓋３ 壺？、椀
土師器	坏、椀a 肥手、供膳具 白色系胎土含む

S－176褐灰色土

土師器	高台、古式土師器？

S－177灰褐色土

須恵器	椀、供膳具
土師器	坏、椀a、家炊具
黒色土器A	供膳具
瓦類	平瓦 格子叩、土師質 1 、破片 格子叩、須恵質 1 、破片 不明、土師質 1

S－178褐灰色土

土師器	坏 椀、坏a 小皿a、鍋？、供膳具
瓦類	破片 不明、土師質 1
金属製品	鉸straw 1

S－179褐灰色土

須恵器	坏c３ 椀
土師器	椀c、椀
黒色土器A	椀
弥生土器	甕

S－180黒灰色土

須恵器	椀c、蓋 蓋１ 蓋３ 壺
土師器	坏、丸底坏a、小皿a、椀a
黒色土器B	供膳具
越州窯系青磁	椀； －２ウ 1
瓦類	平瓦 無文、瓦質 1
石製品	用途不明品、片岩 1
木製品	木炭
須恵質土器	鉢 東播系

S－180褐灰色土

須恵器	坏c、蓋 蓋３ 椀
土師器	椀c、蓋３ 供膳具 白色系胎土含む
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀； 1
瓦類	平瓦 格子叩、瓦質 、平瓦 縄目叩、須恵質 1
石製品	石英

S－181黒灰色土

須恵器	坏 椀、蓋３ 椀
土師器	坏 椀、蓋３ 椀
越州窯系青磁	椀； 1
瓦類	平瓦 格子叩、瓦質 、平瓦 縄目叩、須恵質 1
石製品	石英

S－181褐灰色土

須恵器	椀、供膳具
土師器	坏a

S－182黒灰色土

土師器	供膳具
弥生土器	破片

S－183黒灰色土

須恵器	坏a２ 皿a、蓋c、蓋３ 蓋４ 椀、大椀
土師器	坏c３ 坏d、皿a 椀、鍋a、鍋b
黒色土器A	椀、供膳具
瓦類	平瓦 格子叩、須恵質 1 、平瓦 縄目叩、土師質 [1] 1 、丸瓦 無文、土師質 1
石製品	砥石

S－183褐灰色土

須恵器	坏、坏c２ 蓋c３ 蓋３ 鉢b、椀
土師器	坏a 皿a、椀、鍋a、鍋b、把手
製塩土器	煮塩容器 椀 瓦内無文
瓦類	平瓦 縄目叩、瓦質 1 、丸瓦 無文、土師質 2

S－183c黒灰色土

須恵器	壺、供膳具
土師器	坏、椀、把手、供膳具、家炊具

S－183c黒褐色土

石製品	dF 2 、andF 1
弥生土器	破片？

S－183褐灰色土

須恵器	蓋、壺、椀
土師器	皿a？、椀、供膳具 白色系胎土含む
黒色土器A	椀c
石製品	加工円礫 片麻岩 1
白磁	椀； －２ －４ 1 、 －４c 1

S－183c褐灰色土

弥生土器	甕

S－183d褐灰色土

須恵器	坏c１ 椀
土師器	供膳具

S－184黒灰色土

弥生土器	後期中葉～、甕？

S－184褐灰色土

黒色土器A	破片
石製品	andF 1
弥生土器	破片

S－185褐灰褐色土

弥生土器	破片

S－186黒灰色土

弥生土器	甕

S－186褐灰褐色土

弥生土器	短頸壺 後期 、椀 古式土師器の可能性も有り

S－187黒灰色土

須恵器	蓋１

S－187褐灰色土

土師器	椀？、供膳具

S－188黒灰色土

須恵器	坏、坏c３ 椀
土師器	坏？ 白色系胎土 、坏a？

S－188褐灰褐色土

須恵器	蓋３
土師器	鉢、椀
石製品	andF 1

S－189褐灰色土

須恵器	蓋３
土師器	椀a
黒色土器A	椀
石製品	砥石 泥岩

S－189褐灰色土

須恵器	坏c３
土師器	坏a
黒色土器A	供膳具
瓦類	平瓦 縄目叩、瓦質 1

S－190黒灰色土

土師器	供膳具 白色系胎土含む

S－190褐灰色土

土師器	椀

S－191黒灰色土

土師器	破片

S－191褐灰色土

須恵器	蓋、壺、椀
土師器	皿a？、椀、供膳具 白色系胎土含む
黒色土器A	椀c
石製品	加工円礫 片麻岩 1
白磁	椀； －２ －４ 1 、 －４c 1

S－192黒灰色土

須恵器	坏c１ 椀
土師器	供膳具

S－192褐灰色土

須恵器	蓋、壺
土師器	皿a？、椀、供膳具 白色系胎土含む
黒色土器A	椀c
石製品	andF 1
弥生土器	破片

S－193黒灰色土

須恵器	坏c１ 椀
土師器	供膳具

S－193褐灰色土

須恵器	蓋
土師器	破片

S－194黒灰色土

土師器	破片

S－194褐灰色土

須恵器	小椀
土師器	椀、供膳具
石製品	基子 黒色、泥岩

S－195黒灰色土

土師器	椀c
黒色土器B	破片

S－195褐灰色土

須恵器	蓋３ 椀
土師器	椀c
黒色土器A	破片
瓦類	平瓦 格子叩、瓦質 1 、丸瓦 格子叩、瓦質 [1]、丸瓦 無文、瓦質 1

S－196黒灰色土

黒色土器A	供膳具
瓦類	平瓦 縄目叩、土師質 1

S－196褐灰色土

土師器	椀、供膳具

S－197黒灰色土

須恵器	坏c１ 椀
土師器	坏？ 座地不明 、蓋３ 椀
土師器	供膳具

大宰府条坊跡第263次調査　出土遺物一覧表　5

S－244類灰色土

須恵器	蓋1 蓋3 壺
土師器	鍋a 1

S－245類灰色土

須恵器	坏c 1、坏 、蓋c、蓋1 小蓋3 鍋?
土師器	坏、坏 都城系 小坏?、蓋37、鍋a 1
土製品	焼土塊
その他	二枚貝片　タマキ貝　1

S－246類褐色土

須恵器	蓋1 鍋
土師器	破片

S－247類灰色土

須恵器	壺?

S－248類灰色土

須恵器	供膳具
土師器	鍋
黒色土器A	椀c
黒色土器B	破片
瓦類	平瓦　近世一　1

S－25類褐色土

須恵器	供膳具
土師器	蓋3

S－254類褐色土

土師器	破片

S－259類灰色土

土師器	供膳具

S－26類灰色土

須恵器	蓋1 鍋
土師器	破片
瓦類	平瓦　縄目叩、瓦質　1

S－262類灰色土

須恵器	壺f　d
土師器	坏d

S－263類灰色土

須恵器	壺f　d
土師器	供膳具　白色系胎土

S－264類褐色土

須恵器	坏、小壺、鍋
黒色土器A	椀c

S－265類褐色土

須恵器	坏c 1

S－266類褐色土

須恵器	皿a、鍋
土師器	坏a ?、鍋a

S－27類灰色土

須恵器	蓋1

S－277類灰色土

須恵器	蓋1 蓋3 鍋
土師器	破片
石製品	砥子　黒灰色泥岩　1
瓦質土器	鉢?
国産陶器	坏
国産磁器	丸皿、重ね鉢の底　プリント染付

S－279類灰色土

須恵器	坏c 1
土師器	供膳具

S－28類灰色土

須恵器	坏 皿、鍋
土師器	鍋?、供膳具

S－284類灰色土

須恵器	坏c 3　c 4、鍋
土師器	坏c、鍋、供膳具
製塩土器	鍋　玄界灘式

S－289類灰色土

須恵器	坏c 1、壺、鍋
土師器	供膳具

S－29類灰色土

土師器	破片

S－296類褐色土

須恵器	壺、供膳具
土師器	椀c
黒色土器B	椀c

S－30類灰色土

土師器	坏a
黒色土器A	椀?

S－307類灰色土

須恵器	蓋、壺f　d
土師器	坏?

S－309類褐色土

弥生土器	甕?

TP1灰黄褐色土

須恵器	蓋3 壺、小鍋
土師器	供膳具

TP2灰黄褐色土

須恵器	坏、坏c
土師器	皿c、皿c ?、供膳具
黒色土器A	破片

TP2灰褐色土

須恵器	供膳具
土師器	高坏、供膳具、煮炊具

TP4暗灰黄褐色土

須恵器	供膳具、破片
土師器	供膳具
黒色土器B	供膳具

TP5暗灰黄褐色土

須恵器	破片
土師器	坏、供膳具、煮炊具
黒色土器A	供膳具

TP5黒灰褐色土

土師器	破片
弥生土器	破片　古式土師器の可能性有り

黄褐色土

須恵器	蓋3 鉢b ?、鍋
瓦類	コンクリ－ト瓦
白磁	椀;　- 3b　1
弥生土器	高坏

褐灰色土

須恵器	坏c 4 蓋3 壺、壺b、鍋
土師器	坏a、高坏
瓦質系青磁	椀;破片　1
瓦類	平瓦　格子叩、須恵質　3 、平瓦　縄目叩、須恵質 1 、平瓦　無文、須恵質　1 、丸瓦　格子叩、瓦質　1 、丸瓦　無文、須恵質　1
緑釉陶器	椀　須恵質　1
肥前系陶磁器	破片　銅板転写
国産磁器	蓋　現代
白磁	椀;　1　- 2 1 、破片　華南系　1 、壺他;破片　華南系　1
中国陶器	壺;破片B群　1

灰褐色土

須恵器	坏c 2 坏c 3 皿c、蓋c、蓋1 蓋3 蓋4 壺蓋、鉢
土師器	羽釜系、壺、壺b　e、壺e、鍋、鍋b 坏a、椀c、小皿a、高台、鍋、鍋a、供膳具
瓦類	平瓦　格子叩、須恵質　1 、平瓦　縄目叩、須恵質　1 、平瓦　縄目叩、瓦質　3 、平瓦　不明、瓦質　1 、平瓦　近世一、破片　格子叩、瓦質
石製品	石英
緑釉陶器	破片　須恵質　1
国産磁器	皿　現代
白磁	椀;　1 、- 1 2

褐灰黄褐色土　7層

須恵器	蓋、鍋
土師器	坏a、鍋
弥生土器	破片

灰黄褐色土

須恵器	坏c 3 蓋c、鍋、小鍋
土師器	高坏a、壺?
黒色土器B	破片　混入か?
瓦類	平瓦　近世一　混入
土師質土器	破片

Z

須恵器	坏、壺d　f、鍋
土師器	坏a
瓦類	平瓦　無文、瓦質　1

図　　版

大宰府条坊跡第 263次調査区全景（写真上が北）

大宰府条坊跡第 263次調査区全景（写真上が東）

図　版　2

大宰府条坊跡第 263次調査区南側第　面全景（写真下が北）

大宰府条坊跡第 263次調査区南側第　面全景（写真下が北）

大宰府条坊跡第 263次調査区北側第　面全景（写真下が北）

大宰府条坊跡第 263次調査区北側第　面全景（北西から）

図 版 4

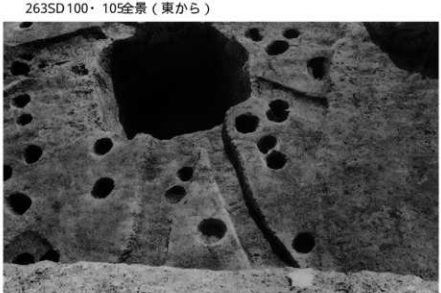
263SD020全景（西から）

263SD025全景（東から）

263SD085全景（東から）

263SD090全景（西から）

263SD100・105全景（東から）



263SD110・113全景（北東から）

図 版 6

263SD195全景（西から）

263SB030全景（西から）

263SB170全景（西から）

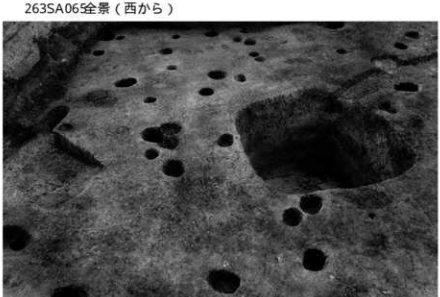
263SA045・050全景（西から）

263SA055全景（西から）

263SA060全景（西から）

図 版 8

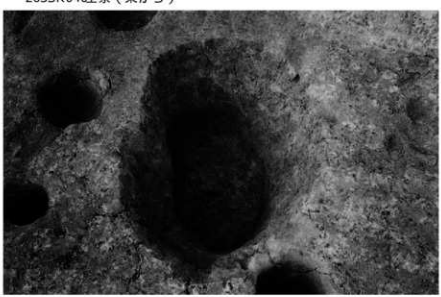
263SA065全景（西から）



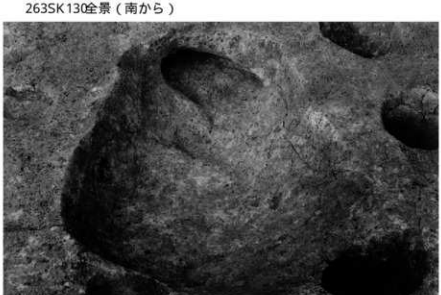
263SA080全景（北東から）

263SE070全景（南東から）

263SK040全景（東から）



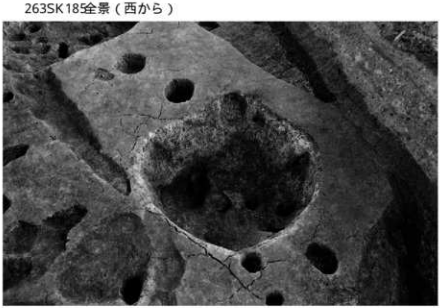
263SK130全景（南から）



263SK135全景（南西から）

図　版　10

263SK185全景（西から）



263SK190全景（北西から）

263SK190遺物出土状態（北から）

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと 38
書名	大宰府条坊跡 38
副書名	第 263次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	第 103集
編著者	北平朗久・香川達郎・石川真紀
編集機関	太宰府市教育委員会・玉川文化財研究所
所在地	太宰府市教育委員会　〒818 0198　福岡県太宰府市観世音寺 1丁目 1- 1　TEL 092- 921- 2121 玉川文化財研究所　〒221 0822　神奈川県横浜市神奈川区西神奈川 1- 8- 9　TEL 045- 321- 5565
発行年月日	平成 20　2008　年 10月 20日

ふりがな 所収遺跡名	条坊 【調査区】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
大宰府条坊跡 第 263次	左郭十二条 二坊	福岡県太宰府市 朱雀三丁目 30番 4	402214	210044 263	+ 558330	- 446790	20060905	20061118	187 延べ 374	共同住宅建設に伴う事前調査

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
大宰府条坊跡 第 263次	官衙	弥生時代後期 ｜ 平安時代	溝、掘立柱建物、柵列、井戸、土坑、たまり状遺構、小穴群	弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器、貿易陶磁器、瓦類、金属製品、石製品	条間路側溝検出

太宰府市の文化財 第103集

大宰府条坊跡 38

－第263次調査－

平成20（2008）年10月

発　　行　太宰府市教育委員会
〒818-0198 福岡県太宰府市観世音寺１丁目１－１
編集協力　玉川文化財研究所
〒221-0822 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川１－８－９
印　　刷　（有）平電子印刷所
〒970-8024 福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地